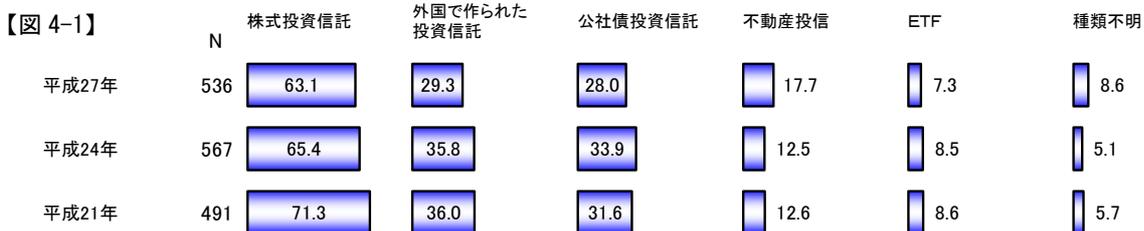


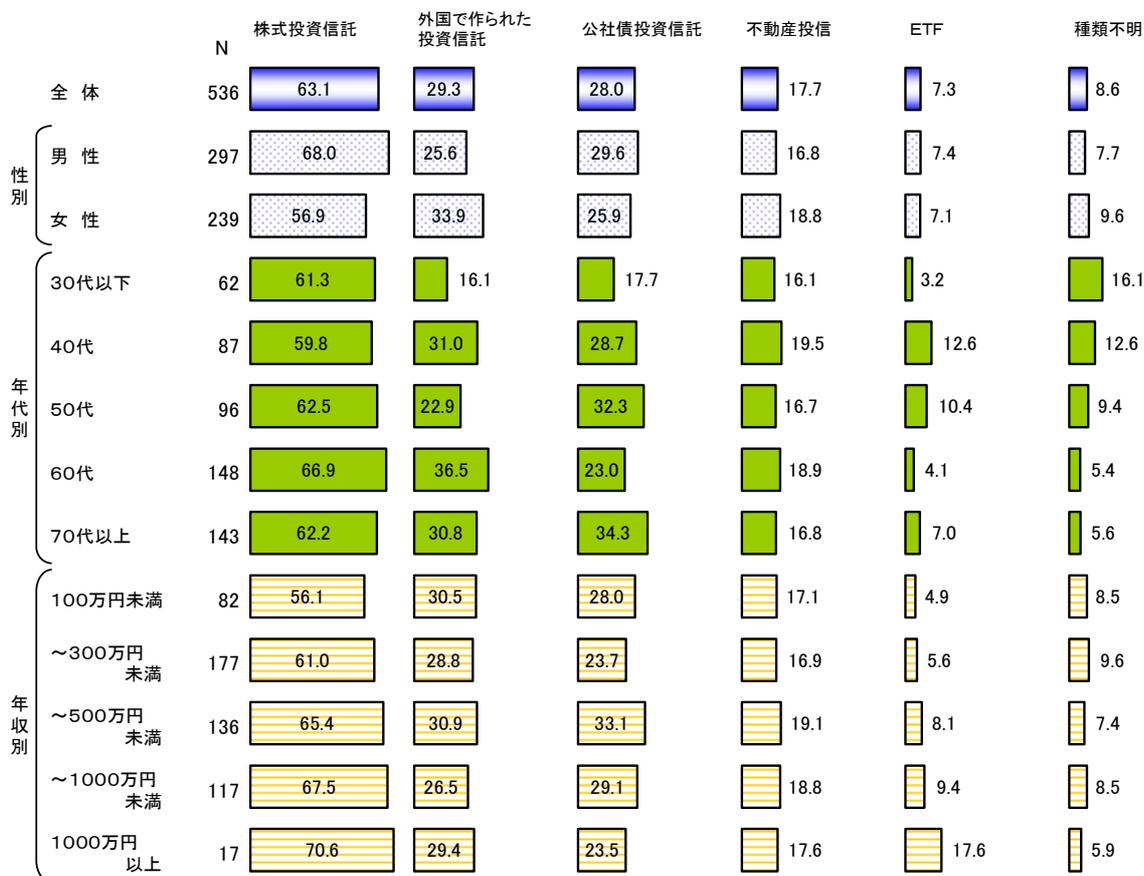
## 4. 投資信託保有状況(現在保有層)

### (1) 投資信託の保有種類〔問6①：重複回答〕

- 投信現在保有層の保有投信の種類は、「株式投信」(63.1%)が最も高く、次いで「外国で作られた投信」(29.3%)、「公社債投信」(28.0%)の順。  
平成24年から「外国で作られた投信」は6.5p減少。「株式投信」も平成21年から減少傾向。一方、「不動産投信」は平成24年から5.2p増加した。(図4-1)
- 男性は「株式投信」が、女性は「外国で作られた投信」が高い。  
30代以下では「外国で作られた投信」や「公社債投信」が低め。  
「株式投信」は年収が高くなるほど保有率が高くなる。(図4-2)
- “平均保有種類数”は1.45種類で、時系列ではわずかながら減少傾向。(図4-3)



【図4-2】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 4-3】 【投信の保有種類別回答者数と平均保有数】

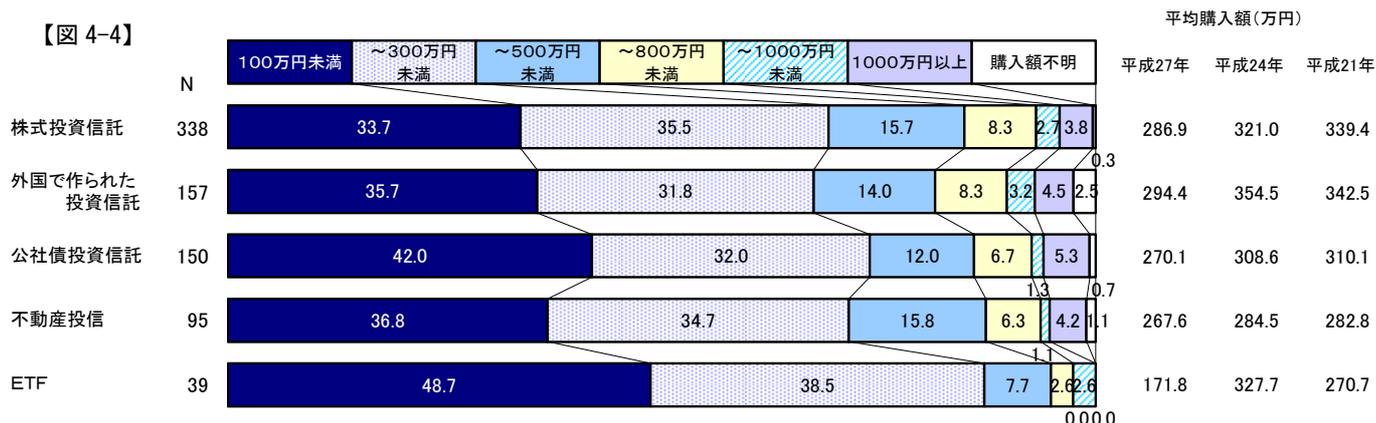
※ 「種類不明」は除く。

	N	公社債投資信託	株式投資信託	ETF	不動産投信	外国で作られた投資信託	平均保有数 (種類)
平成27年	536	150	338	39	95	157	1.45
平成24年	567	192	371	48	71	203	1.56
平成21年	491	155	350	42	62	177	1.60

(2) 投資信託の購入額〔問 6②：単数回答－現在保有層ベース〕

- 投信現在保有層における保有種類別の購入額は、平均が高い順に「外国で作られた投信」(294.4 万円)、「株式投信」(286.9 万円)、「公社債投信」(270.1 万円)などとなっている。

これらの投信の平均合計購入額は 414 万円で、平成 21 年から平成 24 年は 52 万円減少、平成 24 年から今回は 33 万円減少している。(図 4-4)

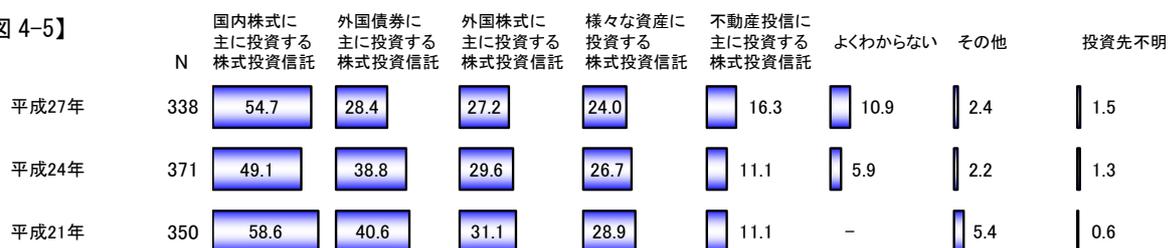


上記投信保有者(購入額不明除く)の平均合計購入額(推計)	平成 24 年	平成 21 年
<b>4 1 4 万円</b>	<b>447 万円</b>	<b>499 万円</b>

(3) 株式投資信託の保有種類(現在保有層のうち株式投資信託保有者)〔問7①:重複回答〕

- 株式投信保有層の保有株式投信の種類は、「国内株式に主に投資する株式投信」(54.7%)が最も高く、それ以外の種類は10~20%台にとどまる。  
「国内株式に主に投資」するものは、平成24年から5.6p増加して平成21年のレベルに戻り、「外国債券に主に投資」するものは前回から10.4p減少、「不動産投信に主に投資」するものは5.2p増加した。(図4-5)
- 女性は「外国債券に主に投資」するもの(33.1%)が男性(25.2%)よりやや高い。  
30代以下の若年層は「外国債券に主に投資」するものは低く、「外国株式に主に投資」するものが高いたが他の年代層と異なる。  
年収「~1000万円未満」の層では「国内株式に主に投資」するものが高い。「~500万円未満」では「外国債券に主に投資」するものが他層よりやや高い。(図4-6)

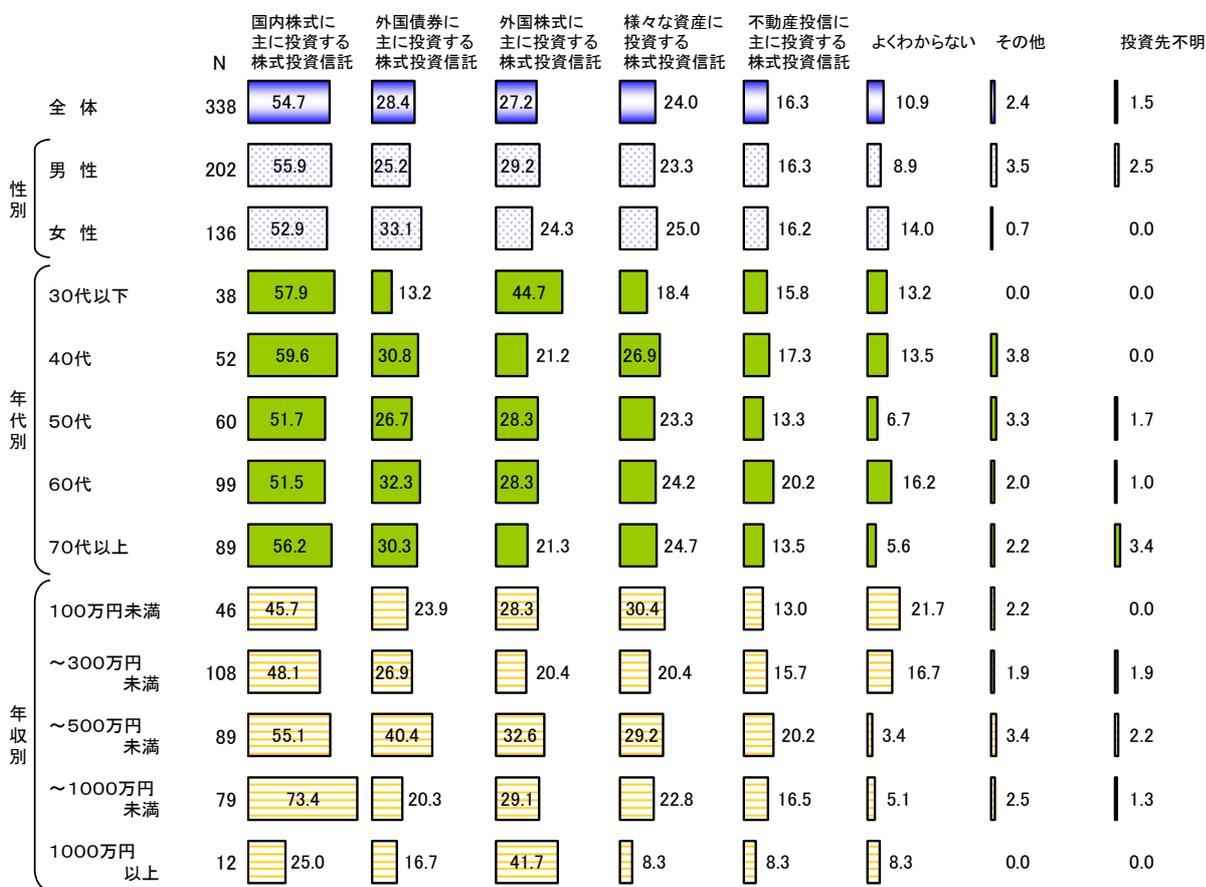
【図4-5】



※ 平成24年調査より「よくわからない」が追加。

【図4-6】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 4-7】 【株式投信の保有種類別回答者数と平均保有数】

※「投資先不明」は除く。

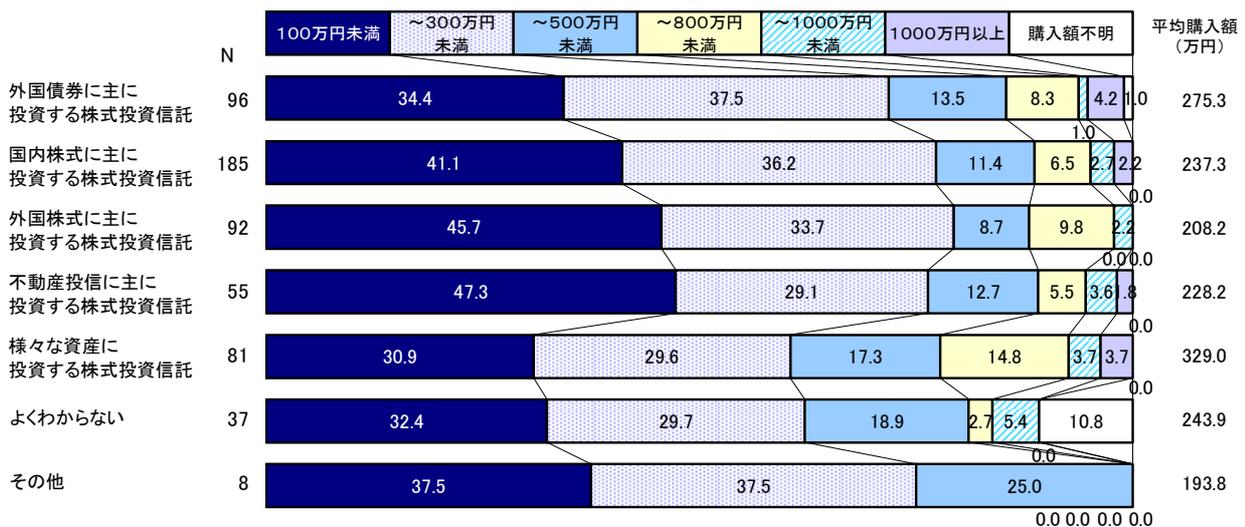
	N	外国債券に 主に投資する 株式投資信託	国内株式に 主に投資する 株式投資信託	外国株式に 主に投資する 株式投資信託	不動産投信に 主に投資する 株式投資信託	様々な資産に 投資する 株式投資信託	よくわからない	その他	(N)	平均保有数 (種類)
平成27年	338	96	185	92	55	81	37	8		1.64
平成24年	371	144	182	110	41	99	22	8		1.63
平成21年	350	142	205	109	39	101	-	19		1.76

(4) 株式投資信託の購入額(現在保有層のうち株式投資信託保有者)〔問7②：単数回答〕

- 種類別の平均購入額をみると、「様々な資産に投資する株式投信」(329.0万円)が最も高い。保有率の最も高い「国内株式に主に投資」するものは平均 237.3万円である。

(図 4-8)

【図 4-8】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(5) 投資信託取引に使用している口座数〔問3：単数回答〕

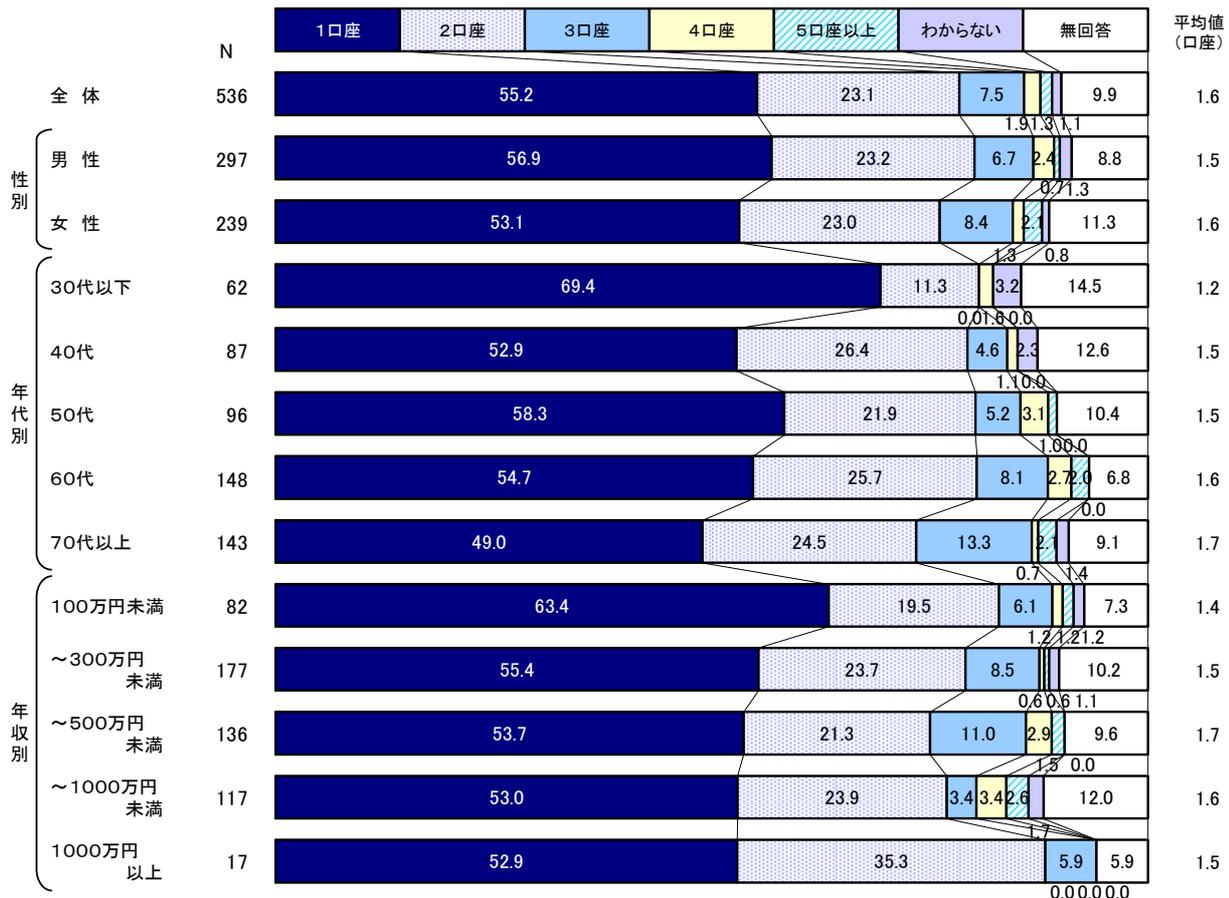
- 投信現在保有層の投信取引使用口座数は、「1口座」(55.2%)がほぼ半数。平均は1.6口座。

30代以下の若年層では「1口座」が約70%。平均口座数も若年層ほど少なく、年代が上がるにつれて多くなる。

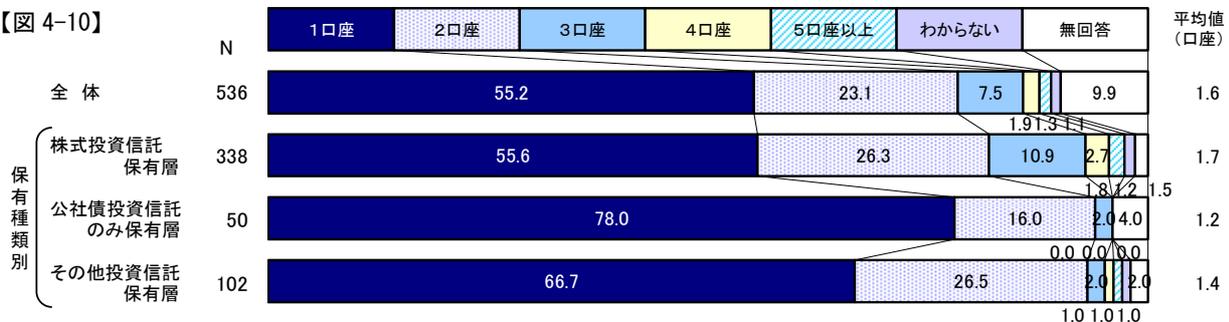
年収「100万円未満」では、他層に比べて「1口座」がやや高い。(図4-9)

- 株式投信保有層では、平均1.7口座と他2層に比べて口座保有数が多い。(図4-10)

【図4-9】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図4-10】



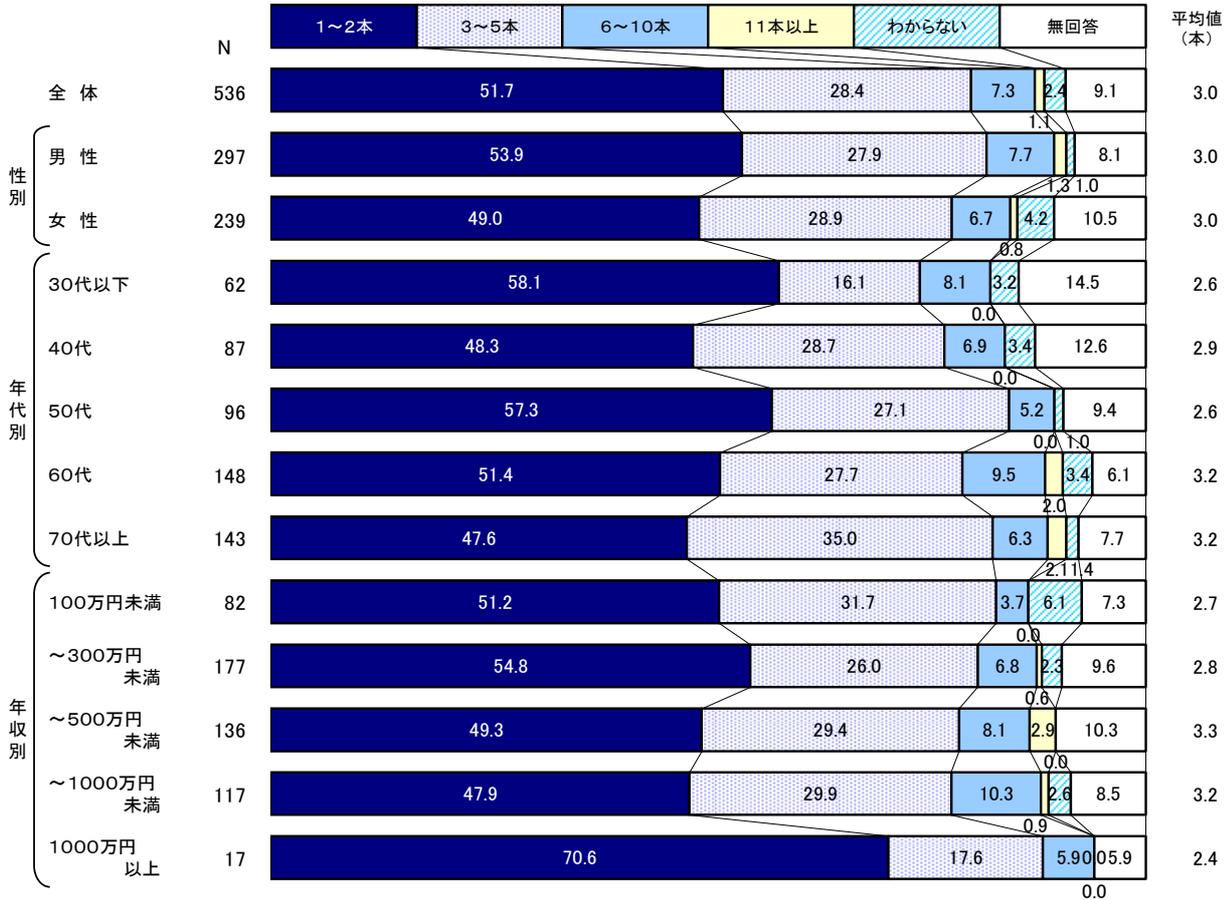
(6) 現在保有している投資信託の本数〔問4：単数回答〕

- 投信現在保有層の保有本数は「1～2本」(51.7%)が半数を占め、平均3.0本である。60代以上で平均3.2本とやや多い。

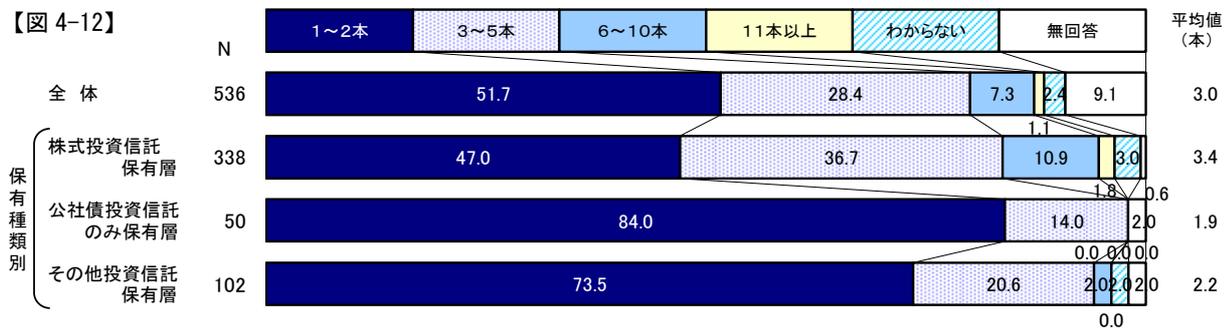
年収「～500万円未満」「～1000万円未満」では、平均3本以上とそれ以外の層より保有数が多い。(図4-11)

- 株式投信保有層は、平均3.4本と他層に比べて保有数が多い。(図4-12)

【図4-11】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図4-12】



(7) 投資信託の販売会社での取引内容〔問5：重複回答〕

- 投信現在保有層が投信取引会社(証券会社、銀行、運用会社など)で、投信以外に取引しているものは「預貯金」(51.5%)、「株式」(42.2%)が多い。

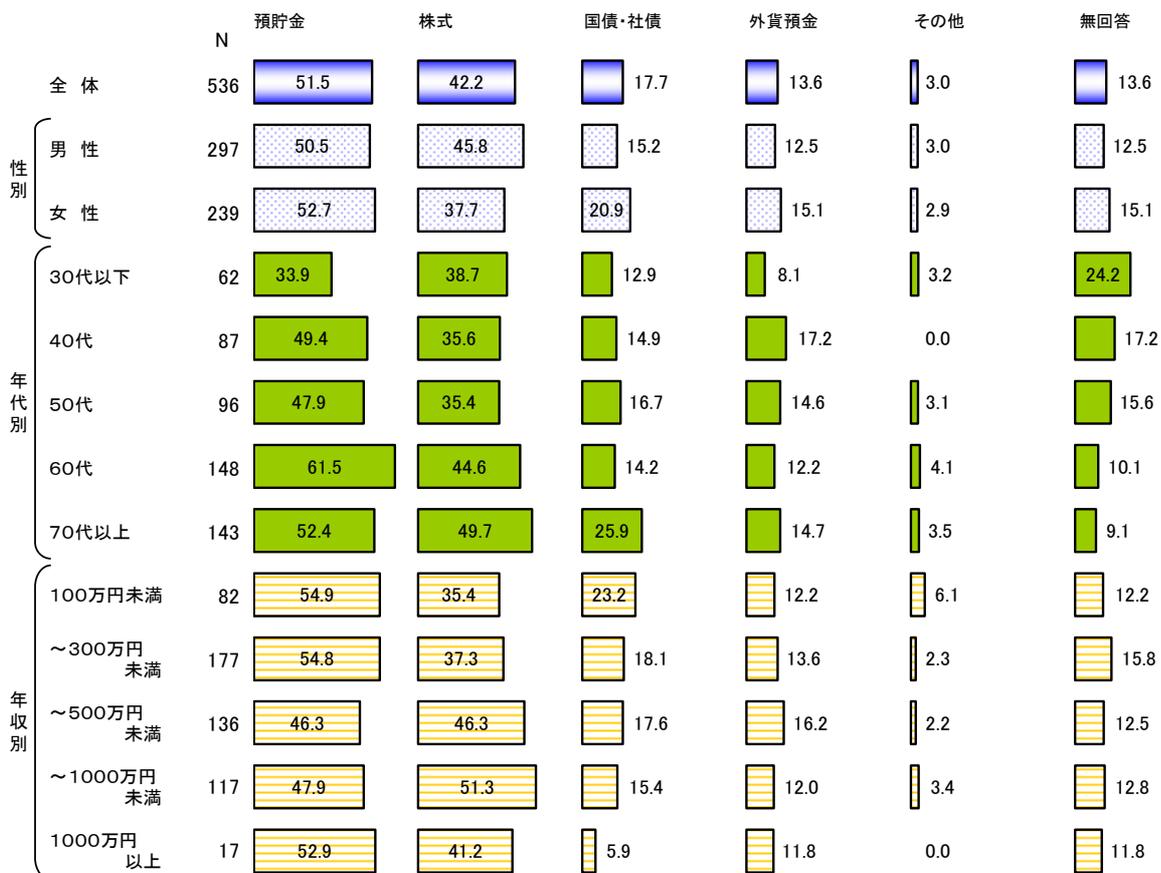
男性は女性より「株式」が高く、「国債・社債」は低い。

60代で「預貯金」、70代以上で「株式」「国債・社債」が高い。

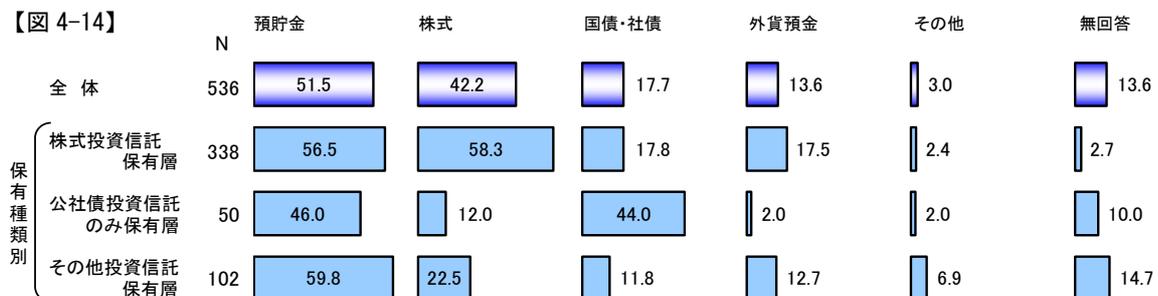
年収“300万円未満”の層では「預貯金」が約55%と高い。また、年収が高くなるほど「株式」が高くなる。(図4-13)

- 株式投信保有層は「株式」、公社債投信のみ保有層は「国債・社債」の取引率が他層より高い。(図4-14)

【図4-13】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図4-14】



(8) 基準価額の確認頻度〔問8：単数回答〕

- 保有投信の基準価額を確認する頻度は、「年に数回」が24.1%で最も高く、次いで「毎月」が16.2%。「週に1日以上」の高頻度でチェックする人は32.3%。一方、「チェックしていない」人は12.1%。

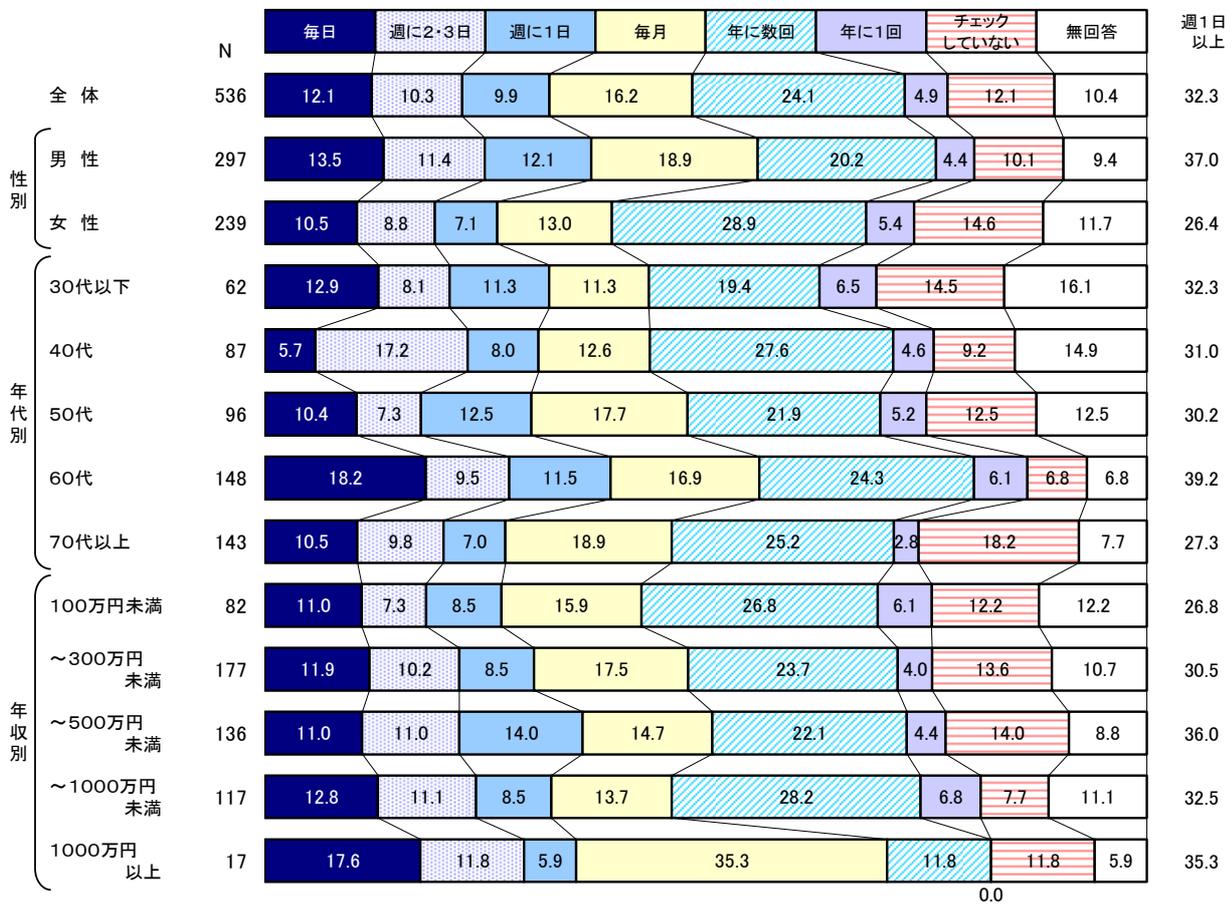
男性は女性に比べ“週1日以上”の比率が高い。

60代は他の年代に比べ“週1日以上”の比率が高い。70代以上は「チェックしていない」率が18.2%と高い。

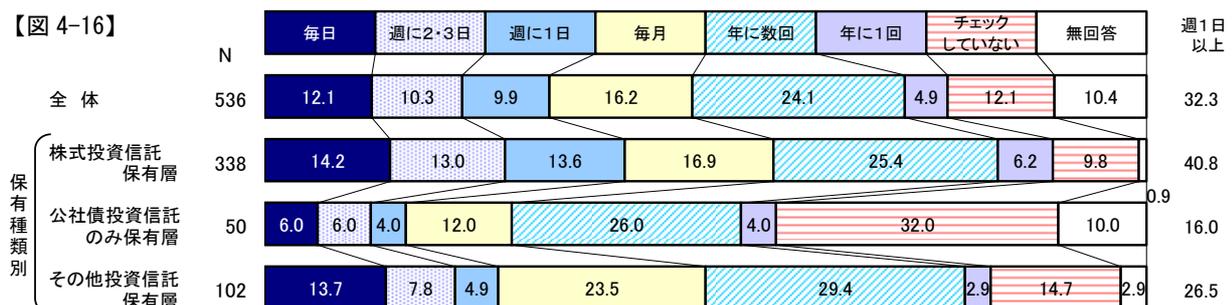
“週1日以上”の比率は「～100万円未満」が最も低く、「～500万円未満」の中間層が最も高い。(図4-15)

- 公社債投信のみ保有層は「チェックしていない」率が高く、他の2層に比べ確認頻度も低い。株式投信保有層は“週1日以上”の比率が他の2層を大きく上回る。(図4-16)

【図4-15】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【図4-16】



(9) 基準価額の確認方法〔問9：重複回答〕

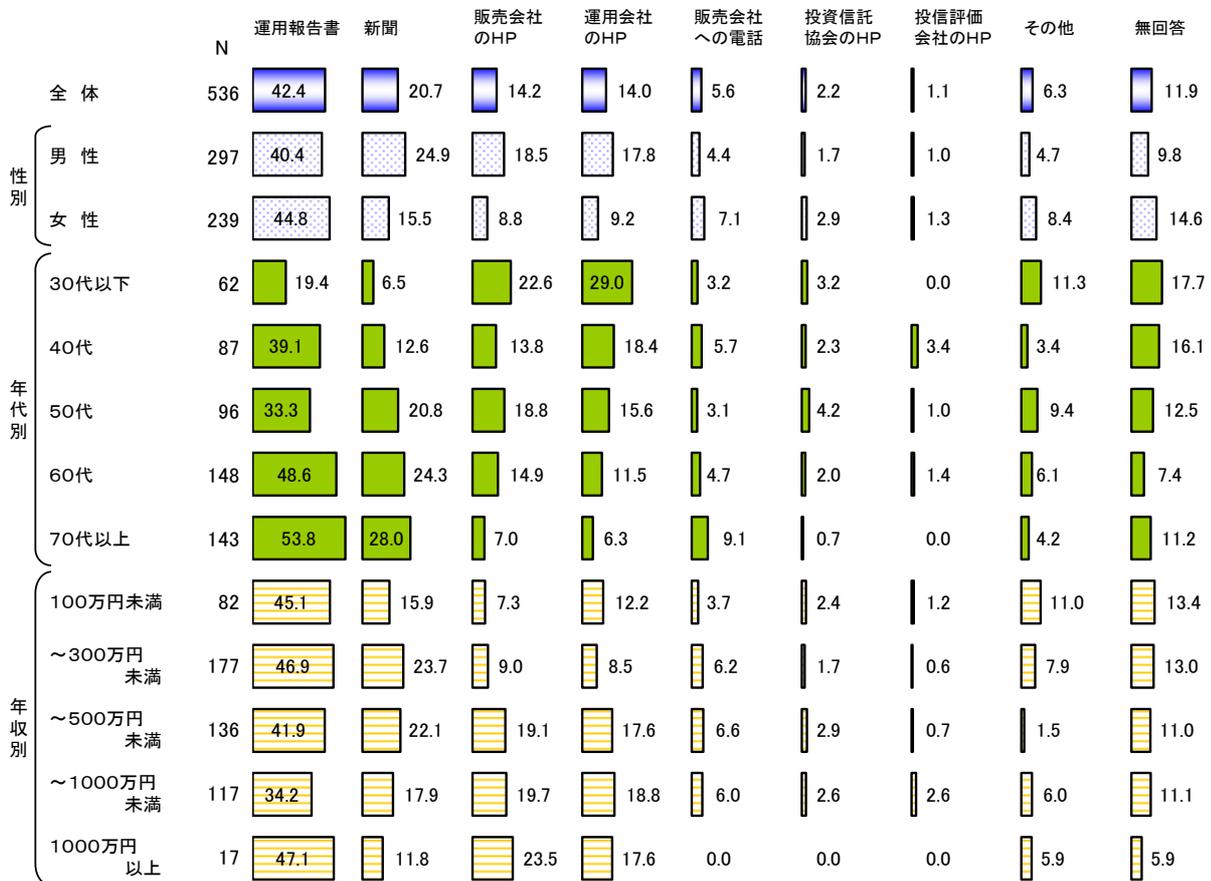
- 保有投信の基準価額を確認する方法は、「運用報告書」(42.4%)が最も高く、「新聞」(20.7%)がこれに続き、「販売会社のホームページ」と「運用会社のホームページ」が14%台で並ぶ。

男性は女性より「新聞」「販売会社のHP」「運用会社のHP」が高く、多様な方法で確認している。「運用報告書」や「新聞」といった紙媒体は高齢層ほど、「販売会社のHP」や「運用会社のHP」といったネット情報は若年層ほど高い。

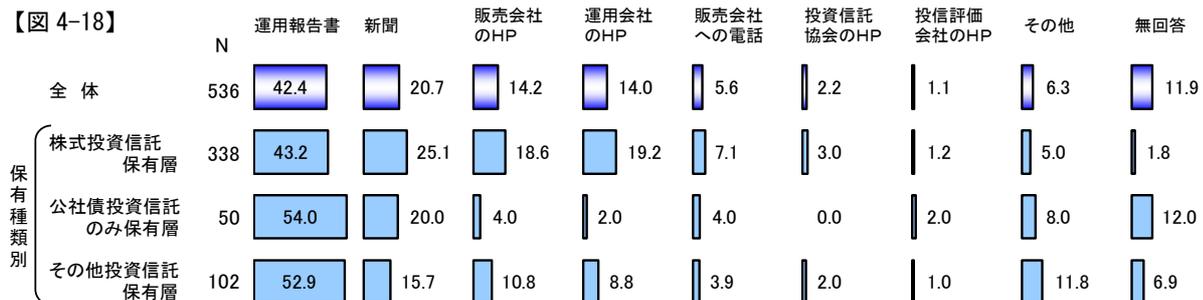
「運用報告書」は年収“300万円未満”層でやや高く、年収が高いほど低くなる。「販売会社のHP」と「運用会社のHP」は年収が“300万円以上”の層で高い。(図4-17)

- 株式投信保有層は他の2層に比べ「運用報告書」は低く、「販売会社のHP」「運用会社のHP」は高い。(図4-18)

【図4-17】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図4-18】

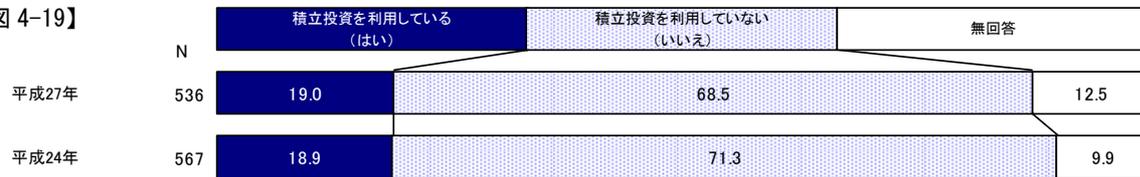


(10) 投資信託の積立投資の利用状況〔問10：単数回答〕

- 投信現在保有層のうち投信の積立投資の利用率は19.0%で、利用していない人は68.5%と圧倒的に多い。(図4-19)
- 利用率は、男性(21.2%)の方が女性(16.3%)より高く、年代では若年層ほど高い傾向がみられる。

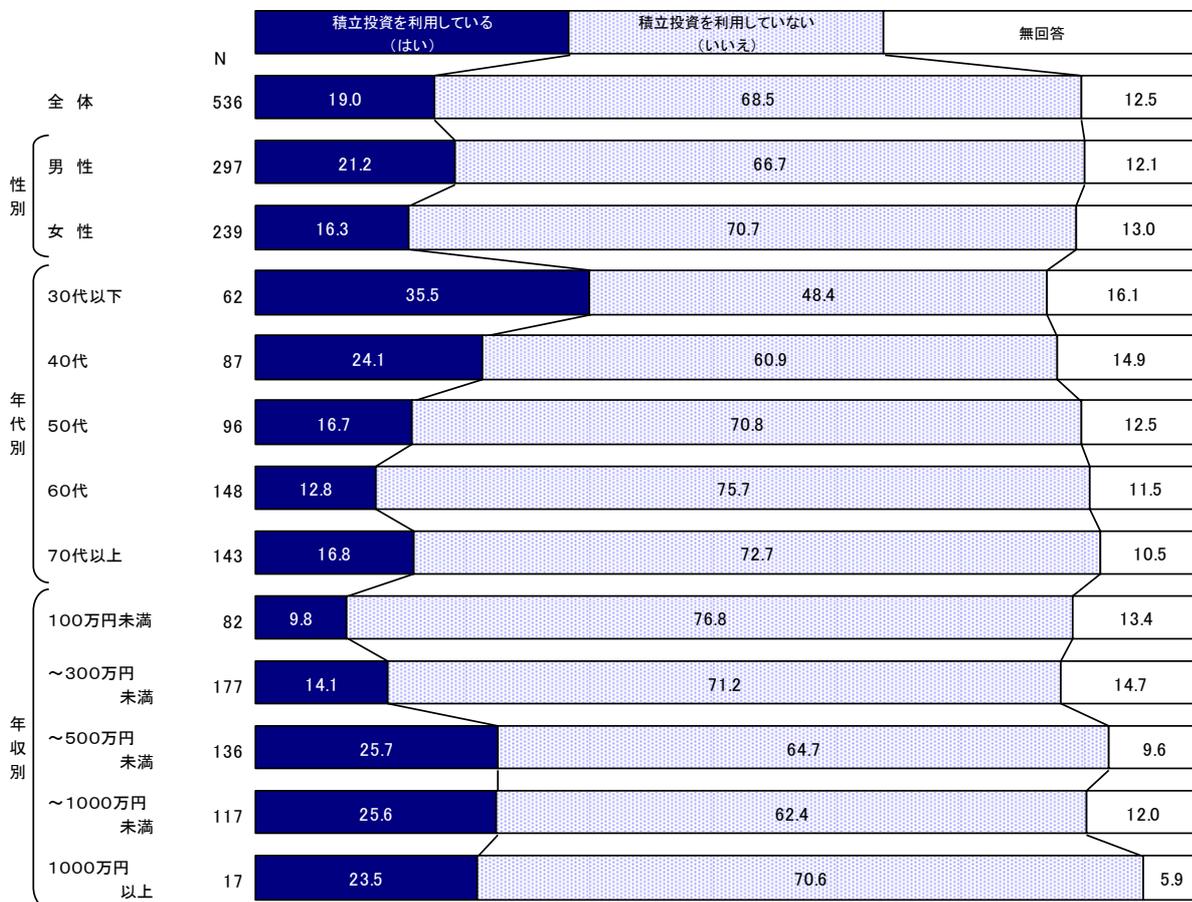
年収“300万円未満”の層では利用率がやや低い。(図4-20)

【図4-19】

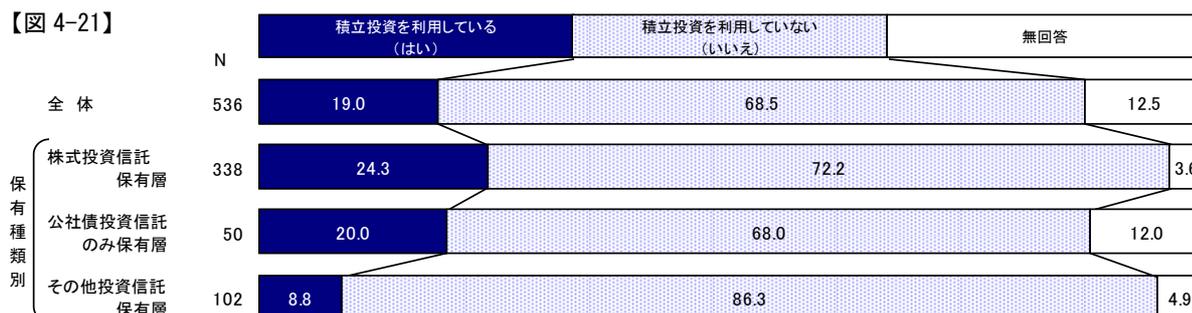


【図4-20】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図4-21】

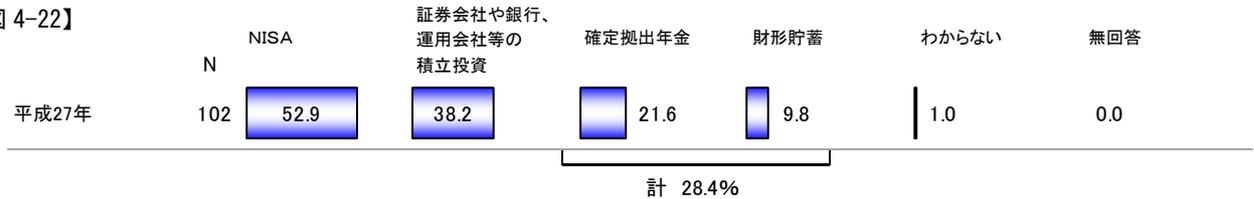


(11) 投資信託の積立投資の形態・積立額(現在保有層のうち積立投資利用者)〔問 10-1、問 10-2〕

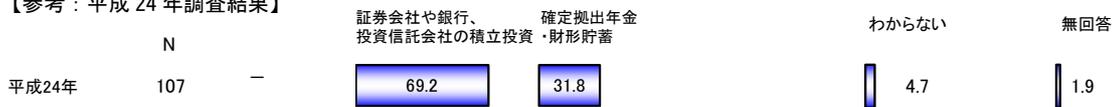
① 積立投資の形態〔問 10-1：重複回答〕

- 投信の積立投資の形態としては、「NISA(ニーサ：少額投資非課税制度)」が最も高く、積立投資利用者のほぼ半数(52.9%)が利用している。次いで「証券会社や銀行、運用会社等の積立投資」(38.2%)、「確定拠出年金」(21.6%)の順。「財形貯蓄」は9.8%にとどまる。(図 4-22)

【図 4-22】

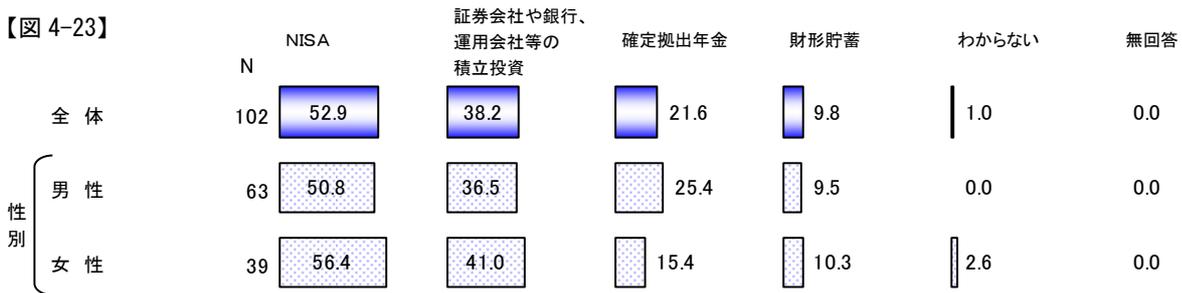


【参考：平成 24 年調査結果】



※ 平成 27 年調査より「NISA(ニーサ：少額投資非課税制度)」を追加、「確定拠出年金」「財形貯蓄」に分割。

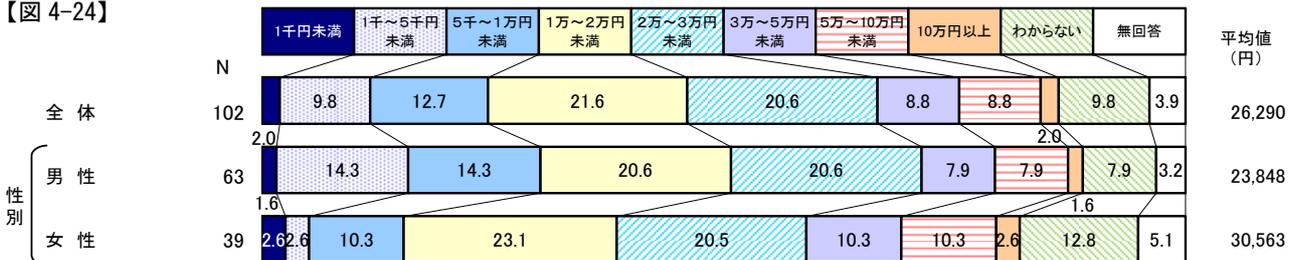
【図 4-23】



② 積立投資の積立額〔問 10-2：単数回答〕

- 積立投資の月々の積立額は、「1万円～2万円未満」と「2万円～3万円未満」が多く、ともに約 20%。“5千円未満”の少額と“5万円以上”の高額はともに 10%程度みられる。平均額は約 2 万 6 千円である。(図 4-24)

【図 4-24】



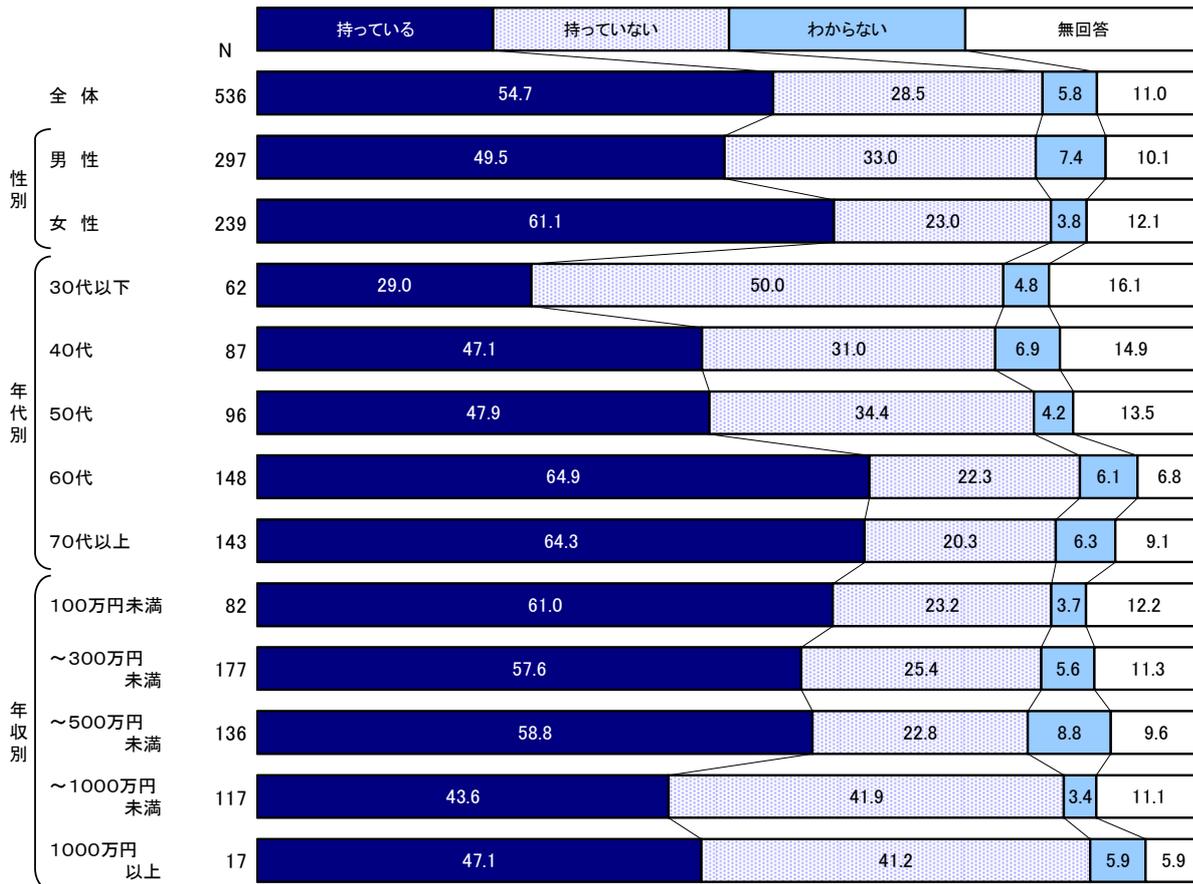
(12) 毎月分配型投資信託の保有状況〔問 11：単数回答〕

- 投信現在保有層のうち、毎月分配型の投信（1ヶ月毎に決算を行い、収益などの一部を分配金として毎月分配する運用方針のもの）の保有率は54.7%。

保有率は、女性が61.1%と、男性(49.5%)より高い。また高年齢層で高く、30代以下では約30%のところ60代以上は約65%となる。

年収「～1000万円未満」はそれ以下の年収層に比べ保有率が低い。(図 4-25)

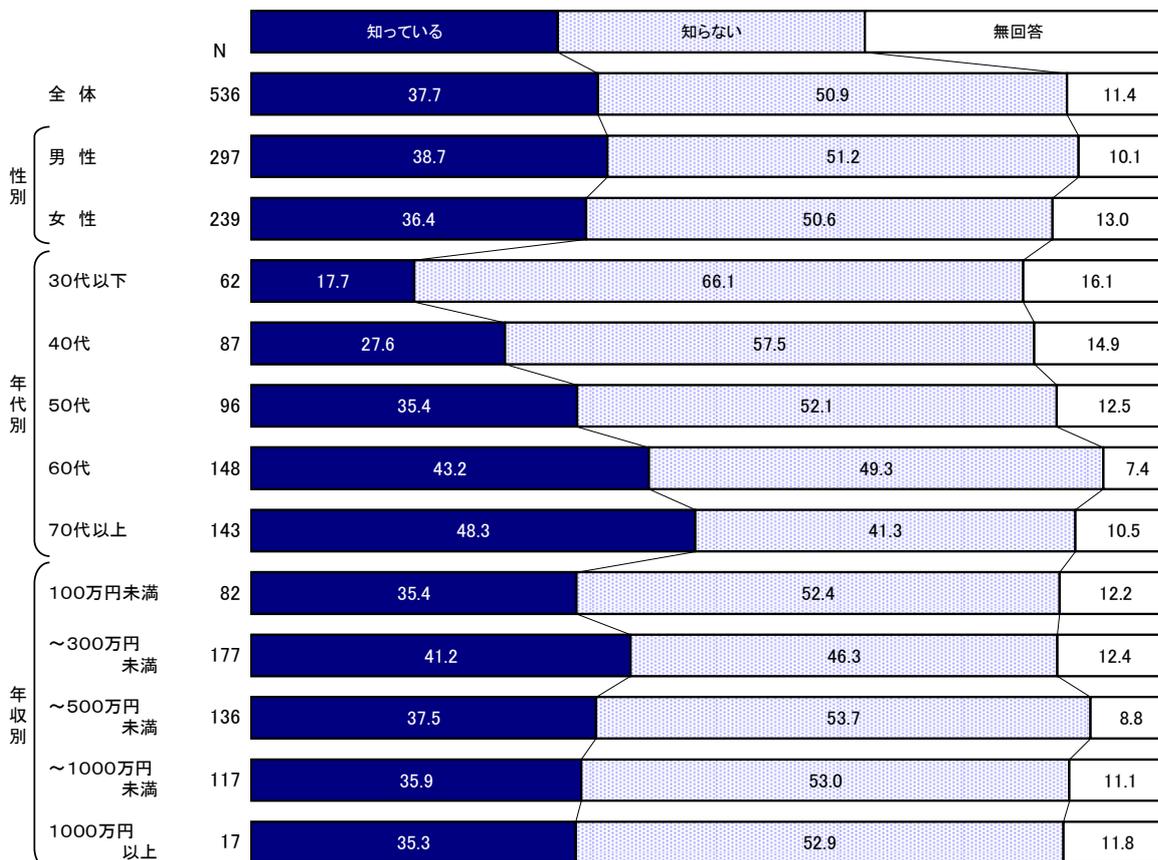
【図 4-25】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(13) トータルリターン通知制度の認知状況〔問 12：単数回答〕

- 2014年12月から、保有している投信の投資期間全体の損益(トータルリターン)を書面で通知する制度がスタートしているが、投信現在保有層の中でこの制度を「知っている」のは37.7%で、「知らない」(50.9%)の方が多い。  
「知っている」は年代が上がるほど高く、30代以下では20%未満のところ、70代以上では半数近くにのぼる。(図4-26)

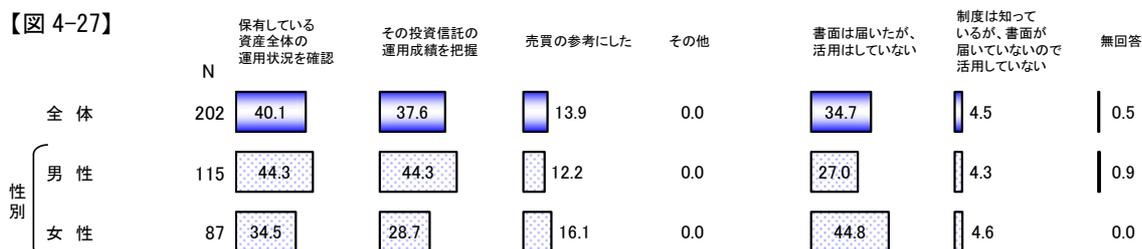
【図4-26】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



(14) トータルリターン通知制度の活用状況(現在保有層のうち制度認知者)〔問 12-1：複数回答〕

- トータルリターン通知制度認知者にその活用方法を聞くと、「保有している資産全体の運用状況を確認」(40.1%)、「その投信の運用成績を把握した」(37.6%)が高い。一方、「書面は届いたが活用はしていない」も34.7%みられる。男性は「保有している資産全体の運用状況を確認」「その投信の運用成績を把握」が高く、女性は「書面は届いたが、活用はしていない」が高い。(図4-27)

【図4-27】



## 5. 投資信託購入状況(現在保有層・保有経験層)

### (1) 投資信託購入のきっかけ〔問15：重複回答〕

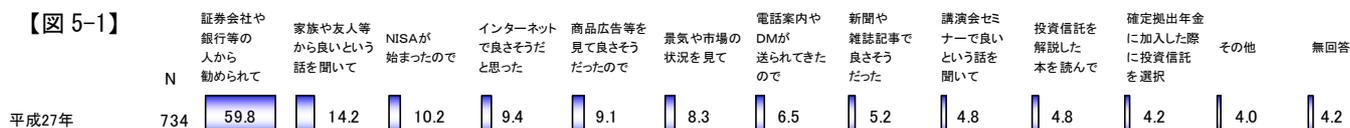
- 投信を購入したきっかけは、「証券会社、銀行(ゆうちょ銀行を含む)などの人に勧められたので」が59.8%で最も高く、次いで「家族や友人などから投信が良いという話を聞いたので」(14.2%)が高い。今回新規項目の「NISA(ニーサ：少額投資非課税制度)が始まったので」は10.2%で3位。(図5-1)

- 女性は「証券会社や銀行などの人から勧められたので」と「家族や友人から投信が良いという話を聞いたので」が男性より高く、男性は「インターネットを見たり調べたりして、良さそうだったの」「投信の商品広告などを見て、良さそうだったので」「新聞、雑誌などの投信の記事を見て、良さそうだったの」などが女性よりやや高い。

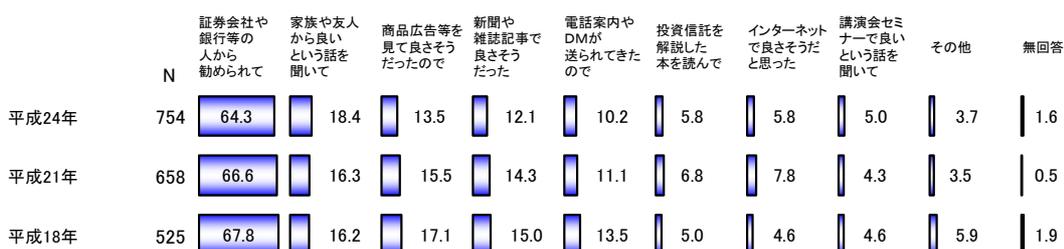
「証券会社や銀行などの人から勧められたので」は年代が上がるほど高い。一方「インターネットで良さそうだったの」は若年層ほど高い。

「証券会社や銀行などの人から勧められたので」は「～500万円未満」以下の年収層で高い。「インターネットで良さそうだったの」は「～500万円未満」以上の年収層では、年収が高いほど高い。(図5-2)

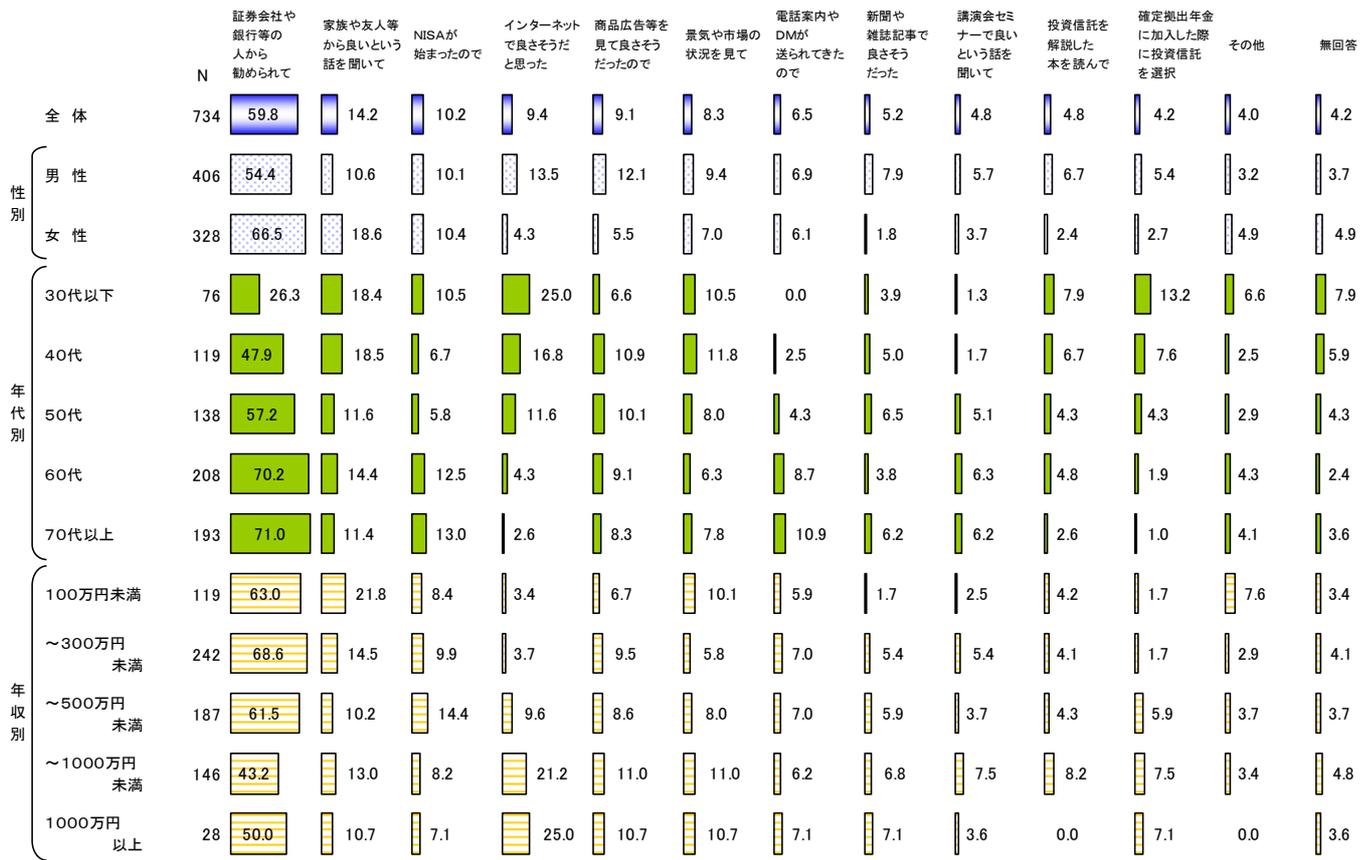
- 投信現在保有層は「証券会社や銀行などの人から勧められたので」「NISAが始まったので」が高い。保有経験層では「商品広告などを見て良さそうだったので」が高い。(図5-3)



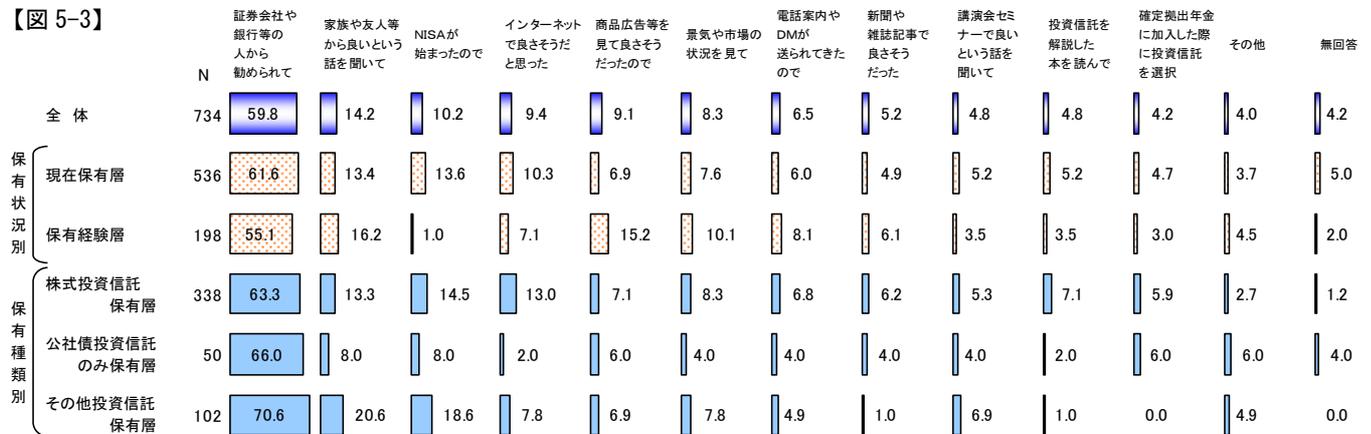
【参考：平成24年、平成21年、平成18年調査結果】 ※ 選択肢が変更されている点に注意が必要



【図 5-2】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-3】



## (2) 投資信託の購入先〔問 16：重複回答〕

- 購入の際の金融機関は、「銀行(ゆうちょ銀行を含む)の店頭(電話注文を含む)」(41.1%)と「証券会社の店頭(電話注文を含む)」(37.7%)が同程度で並び、この2つが主なルートとなっている。次いで「証券会社のインターネット取引(携帯電話、スマートフォンなどを含む)」(15.0%)。

平成24年に比べ、「証券会社のインターネット取引」は5.6p増加、「証券会社の店頭」は5.5p減少した。(図5-4)

- 男性は「証券会社のインターネット取引」が女性より高い。女性は「銀行の店頭」「証券会社の店頭」以外のルートは7%台以下と低い。

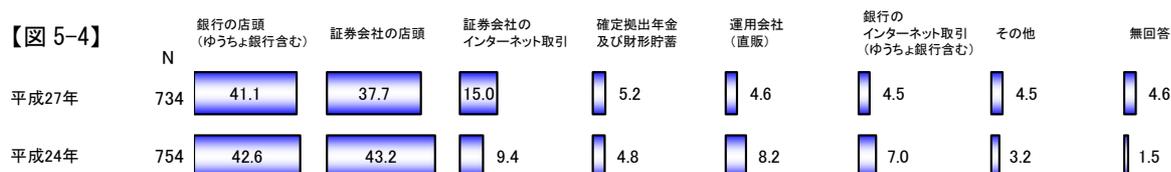
「証券会社の店頭」は高年齢層ほど高く、逆に「証券会社のインターネット取引」は若年層ほど高い。「確定拠出年金及び財形貯蓄」も若年層ほどやや高い傾向がある。

「銀行の店頭」と「証券会社の店頭」はいずれも年収が低いほど高い傾向がみられる。逆に、「証券会社のインターネット取引」と「確定拠出年金及び財形貯蓄」は年収が上がるほど高い。(図5-5)

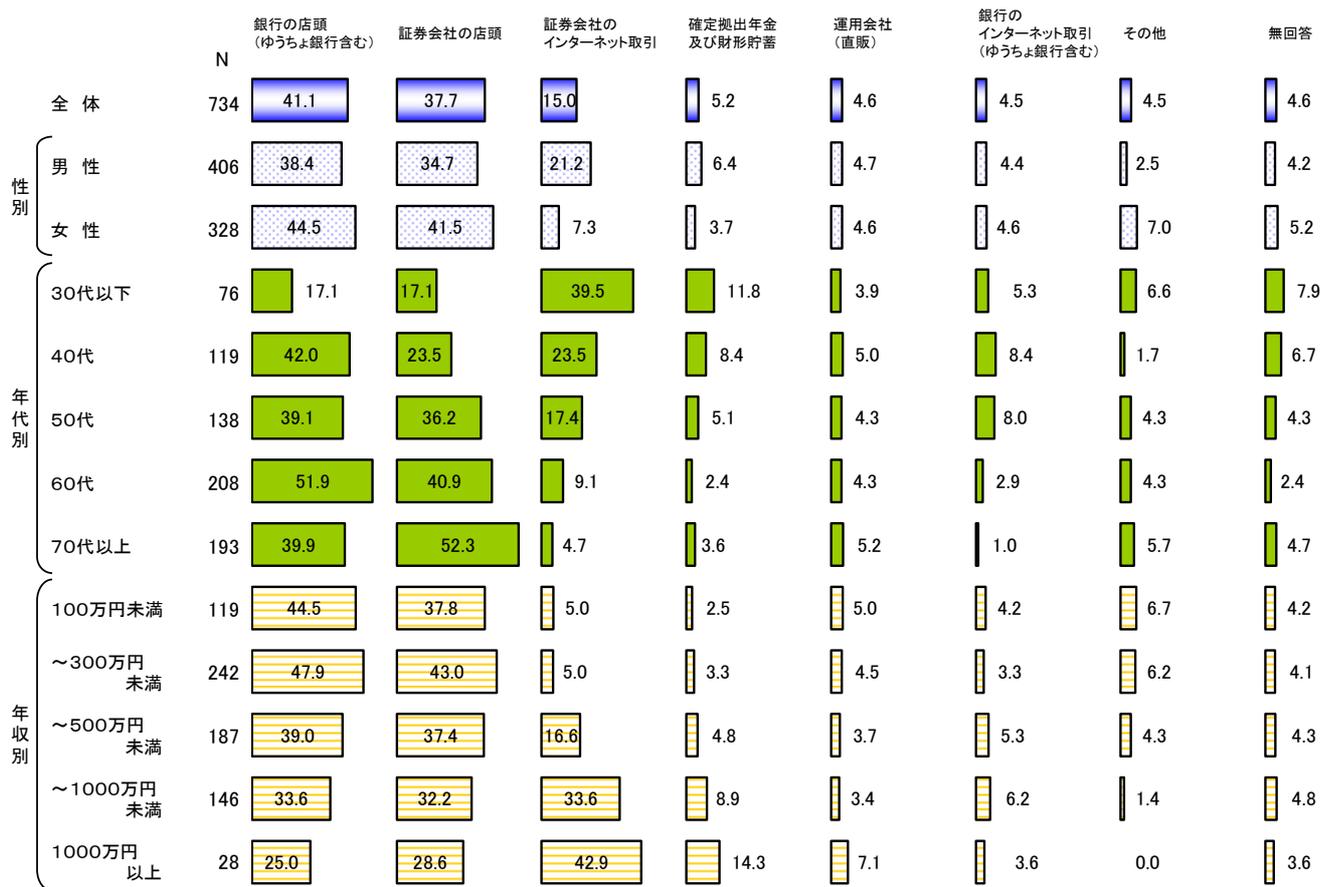
- 投信現在保有層では「銀行の店頭」「証券会社のインターネット取引」が保有経験層より高く、逆に「証券会社の店頭」は保有経験層の方が高い。

株式投信保有層は「証券会社のインターネット取引」が他層より高い。公社債投信のみ保有層は主な2つのルート以外はほとんど利用していない。(図5-6)

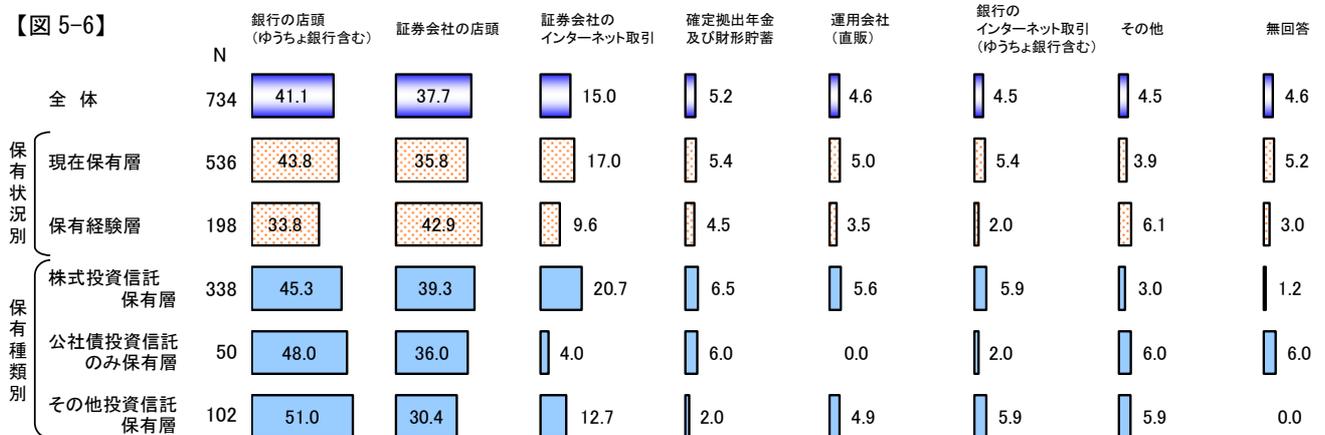
【図5-4】



【図 5-5】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-6】

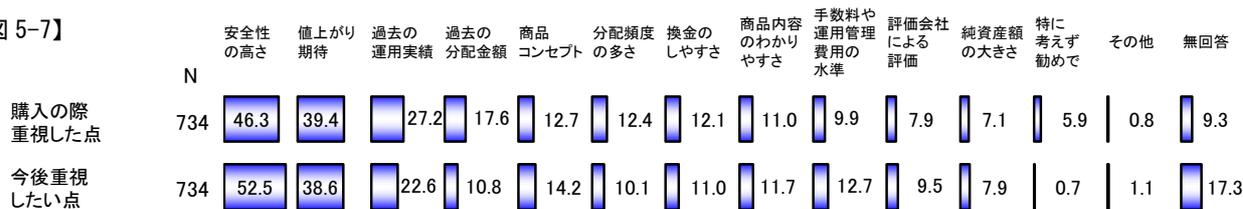


(3) 投資信託購入の際の重視点／今後の重視点〔問 17①②〕

① 購入の際重視した点〔問 17①：重複回答〕

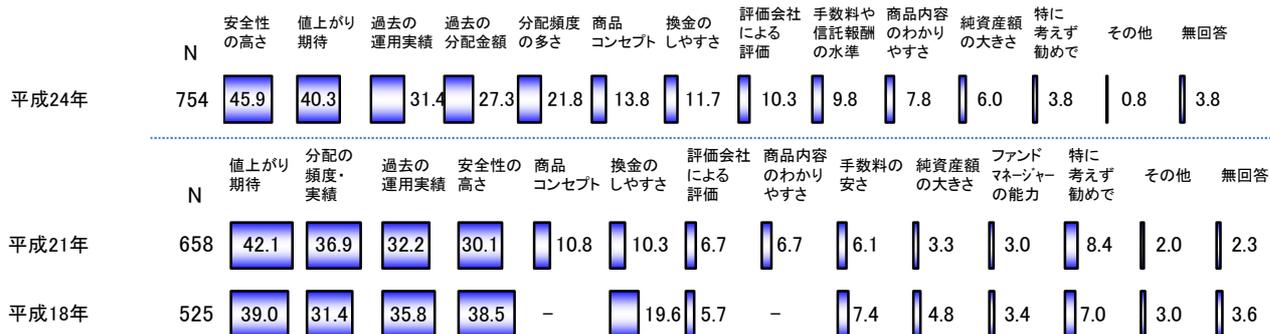
- 投信を購入した際の重視点は、「安全性の高さ」が46.3%で最も高く、次いで「値上がり期待」(39.4%)、「過去の運用実績」(27.2%)の順となっている。今後購入する際に重視したい点と比べると、「安全性の高さ」は購入した際の重視点より今後の重視点の方が高く、逆に「過去の運用実績」と「過去の分配金額」は今後の重視点の方が低い。(図 5-7)
- 男性は女性に比べ、「安全性の高さ」は低いが、「値上がり期待」「過去の運用実績」「商品コンセプト」は高く、多様な点を重視している。  
「過去の運用実績」と「商品コンセプト」は若年層ほどやや高い傾向。  
「値上がり期待」「過去の運用実績」「商品コンセプト」などは、年収が高いほど高い傾向がややみられる。「～1000万円未満」では「安全性の高さ」の重視率は低く、「値上がり期待」がトップである。(図 5-8)
- 投信保有経験層は、「安全性の高さ」「値上がり期待」「換金のしやすさ」「商品内容のわかりやすさ」が現在保有層より高い。  
公社債投信のみ保有層は「安全性の高さ」が他の2層を大きく上回る。株式投信保有層は「値上がり期待」「過去の運用実績」「商品コンセプト」が高い。(図 5-9)

【図 5-7】

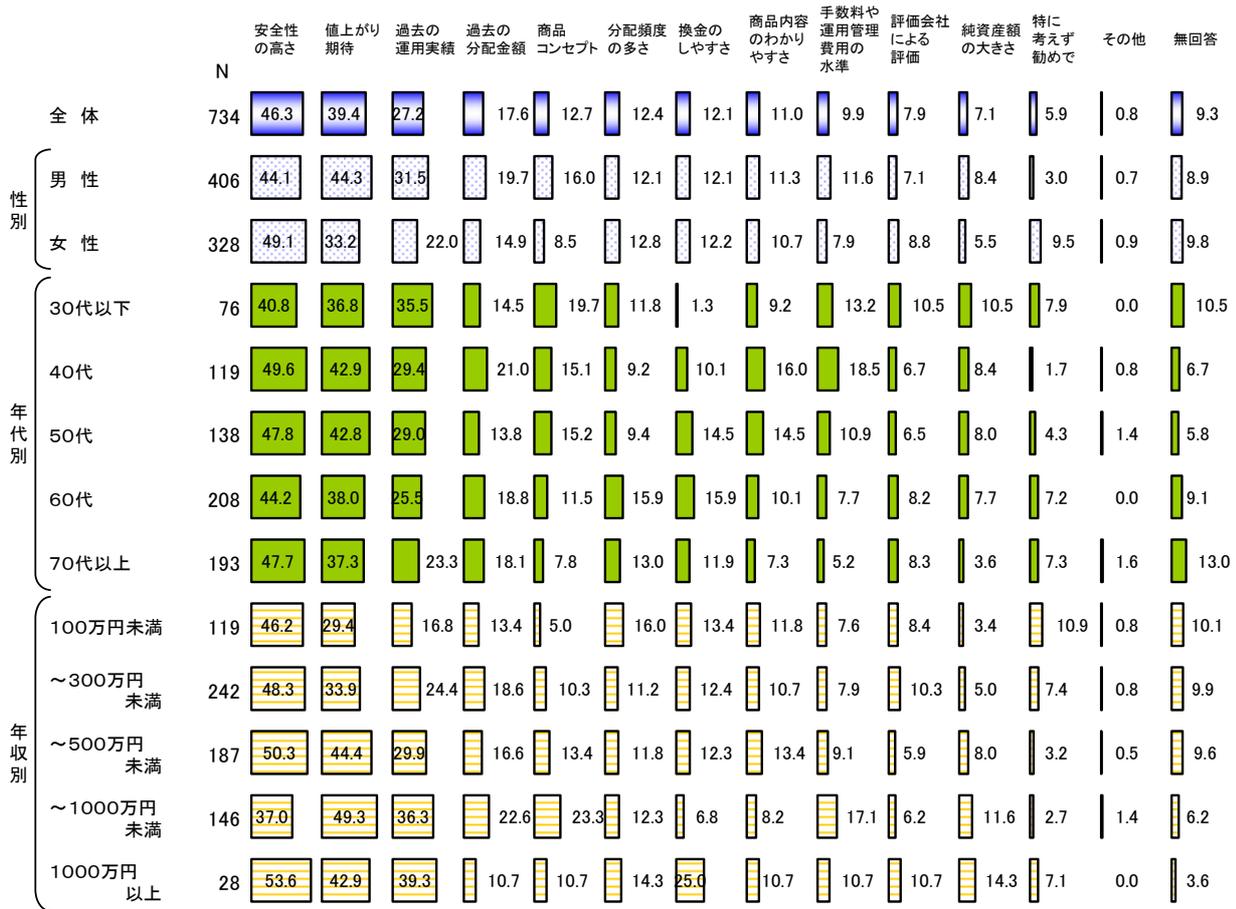


※ 平成 27 年調査では選択肢の提示順序を平成 24 年調査から一部変更。

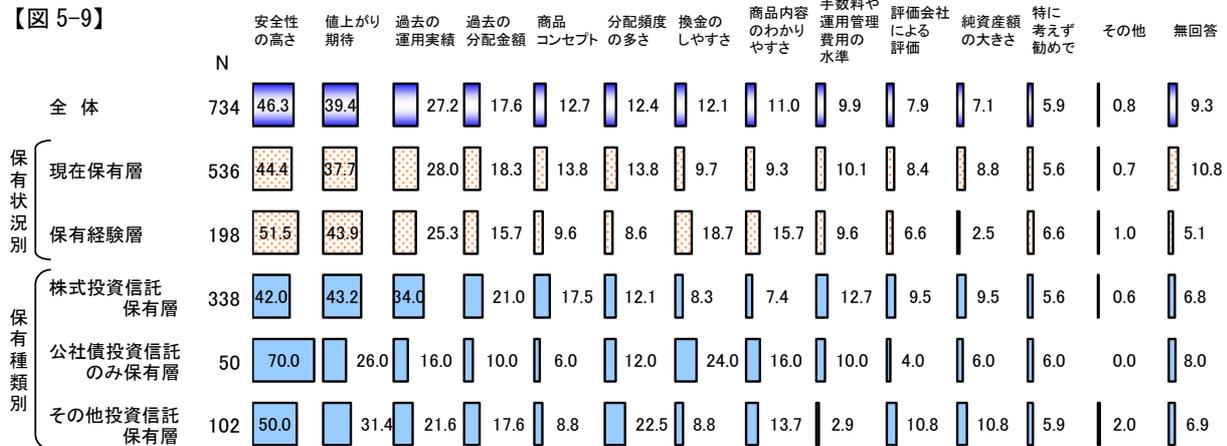
【参考：平成 24 年、21 年、18 年調査結果：購入した際の重視点】 ※ 平成 24 年調査から選択肢が変更。



【図 5-8】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-9】



② 今後購入の際に重視したい点〔問 17②：重複回答〕

● 今後購入する際に重視したい点も、上位3位は購入時の重視順と同じで、「安全性の高さ」(52.5%)、「値上がり期待」(38.6%)、「過去の運用実績」(22.6%)の順。(図 5-10)

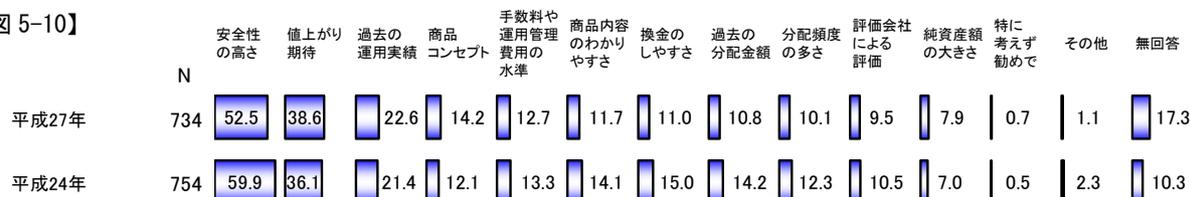
● 男性は女性に比べ、「安全性の高さ」は低い、「過去の運用実績」「商品コンセプト」など多くの項目で高い。「過去の運用実績」「商品コンセプト」は若年層ほど高い。「値上がり期待」は50代以下で高い。

「安全性の高さ」は年収“500万円未満”層で高く、「値上がり期待」は「～300万円未満」以下の層に比べてそれ以上の層の方が高い。「商品コンセプト」「手数料や運用管理費用(信託報酬)の水準」などは年収が高いほど高い。(図 5-11)

● 投信保有経験層は「過去の運用実績」「換金のしやすさ」が、現在保有層は「商品コンセプト」が高い。

株式投信保有層は「安全性の高さ」が他層より低い。公社債投信のみ保有層は「値上がり期待」や「商品コンセプト」が低い。(図 5-12)

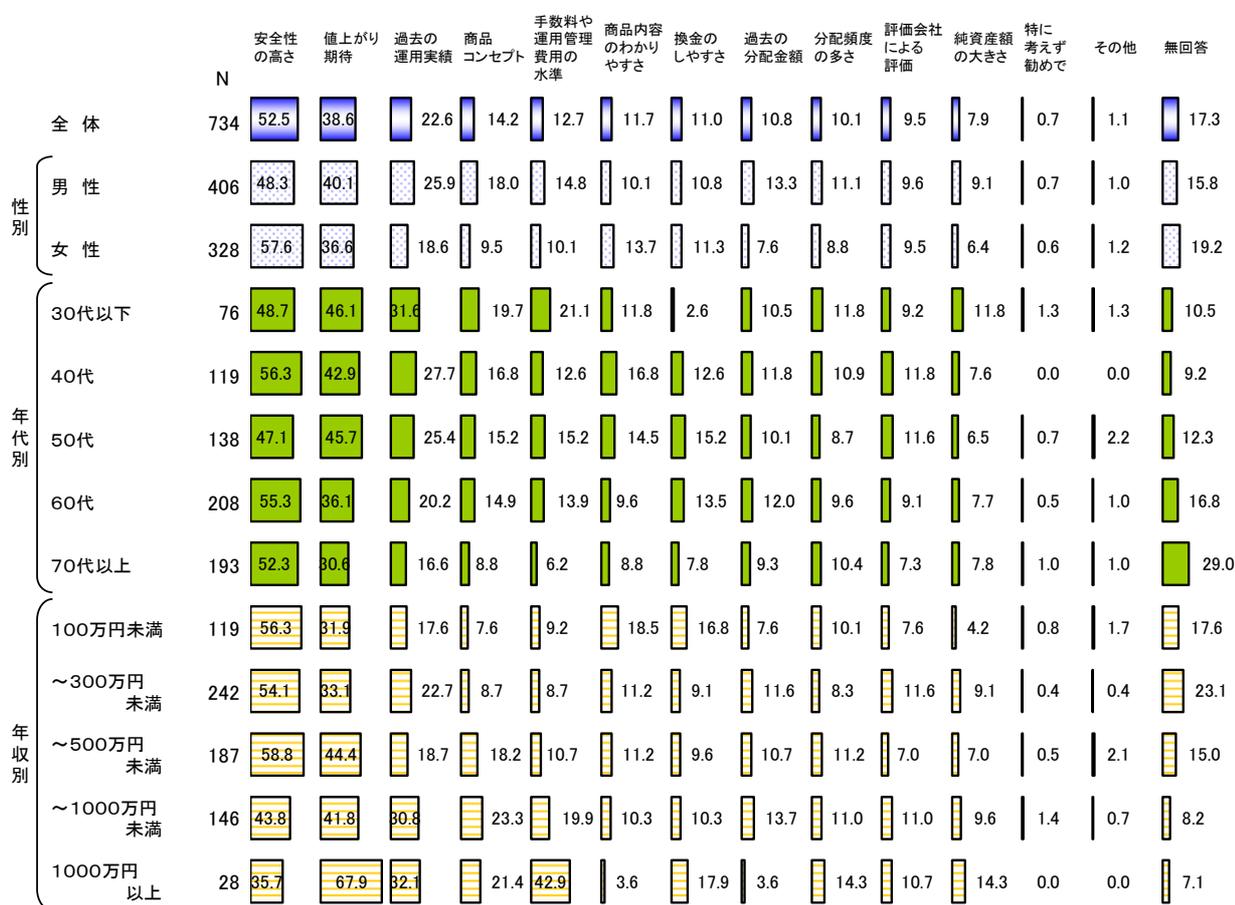
【図 5-10】



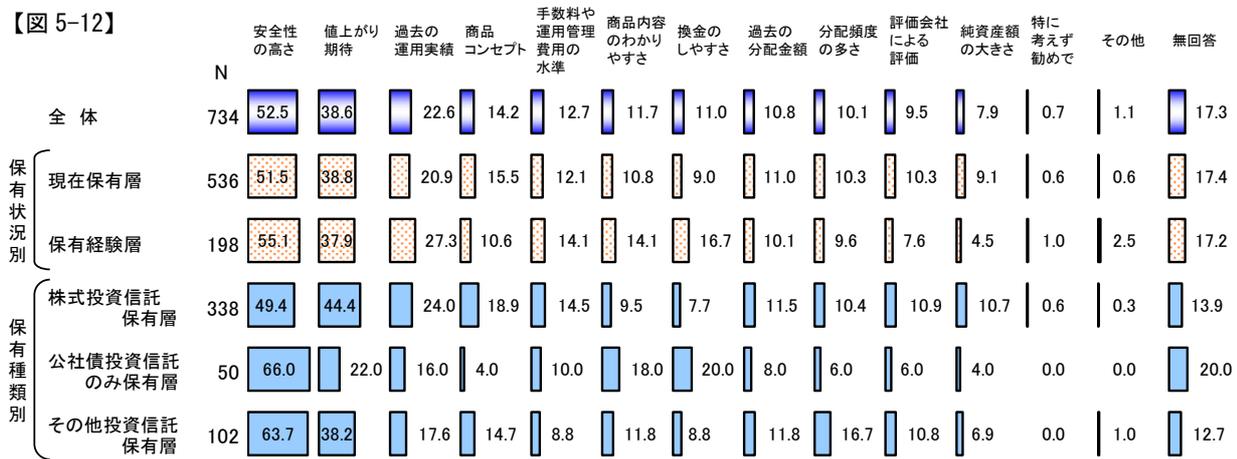
※ 平成 27 年調査では選択肢の提示順序を平成 24 年調査から一部変更。

【図 5-11】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-12】



(4) 分配金の特徴認知状況〔問 18：重複回答〕

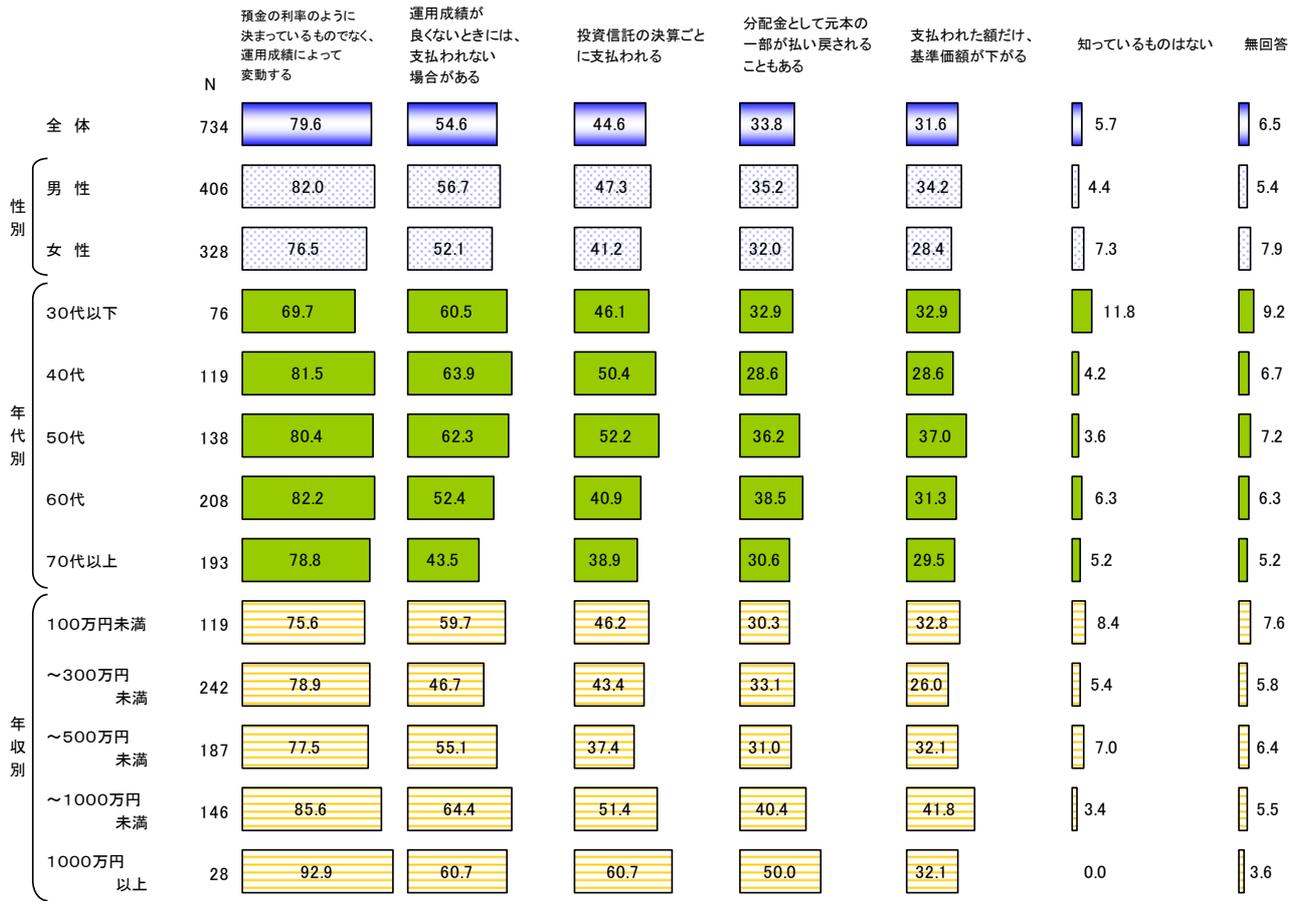
- 投信の「分配金」の特徴のうち、「預金の利率のようにあらかじめ決まっているものでなく、運用成績によって変動する」は 79.6%と大半の人に認知されている。次いで「運用成績が良くないときには、分配金が支払われない場合がある」(54.6%)、「分配金は投信の決算ごとに支払われる」(44.6%)の順。(図 5-13)
- ほとんどの項目で男性の方がやや女性より高い。  
「運用成績が良くないときには、支払われない場合がある」「投信の決算ごとに支払われる」の認知率は 50 代以下でやや高い。「預金の利率のようにあらかじめ決まっているものでなく、運用成績によって変動する」は 30 代以下ではやや低い。  
年収「～1000 万円未満」では、それ以下の年収層に比べ全般的に認知率が高い。(図 5-14)
- 投信保有経験層は、「分配金として元本の一部が払い戻されることもある」と「分配金が支払われた額だけ、基準価額（投信の価値）が下がる」が現在保有層より低い。株式投信保有層は多くの項目で高く、認知度が高い。逆に公社債投信のみ保有層は低い項目が多く、「知っているものはない」が高い。(図 5-15)

【図 5-13】

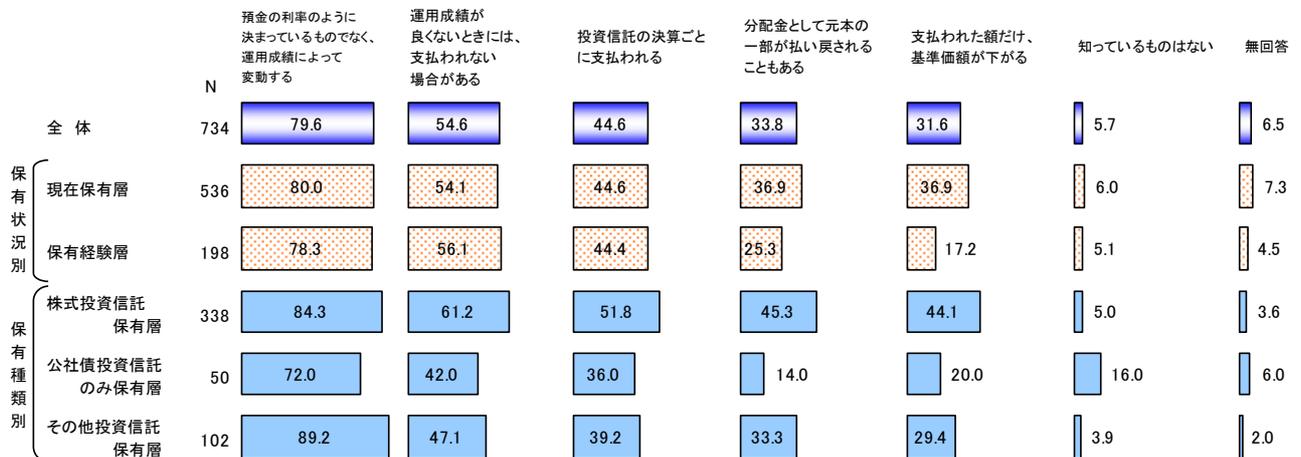


※ 平成 27 年調査より「分配金として元本の一部が払い戻されることもある」の選択肢が追加されている

【図 5-14】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

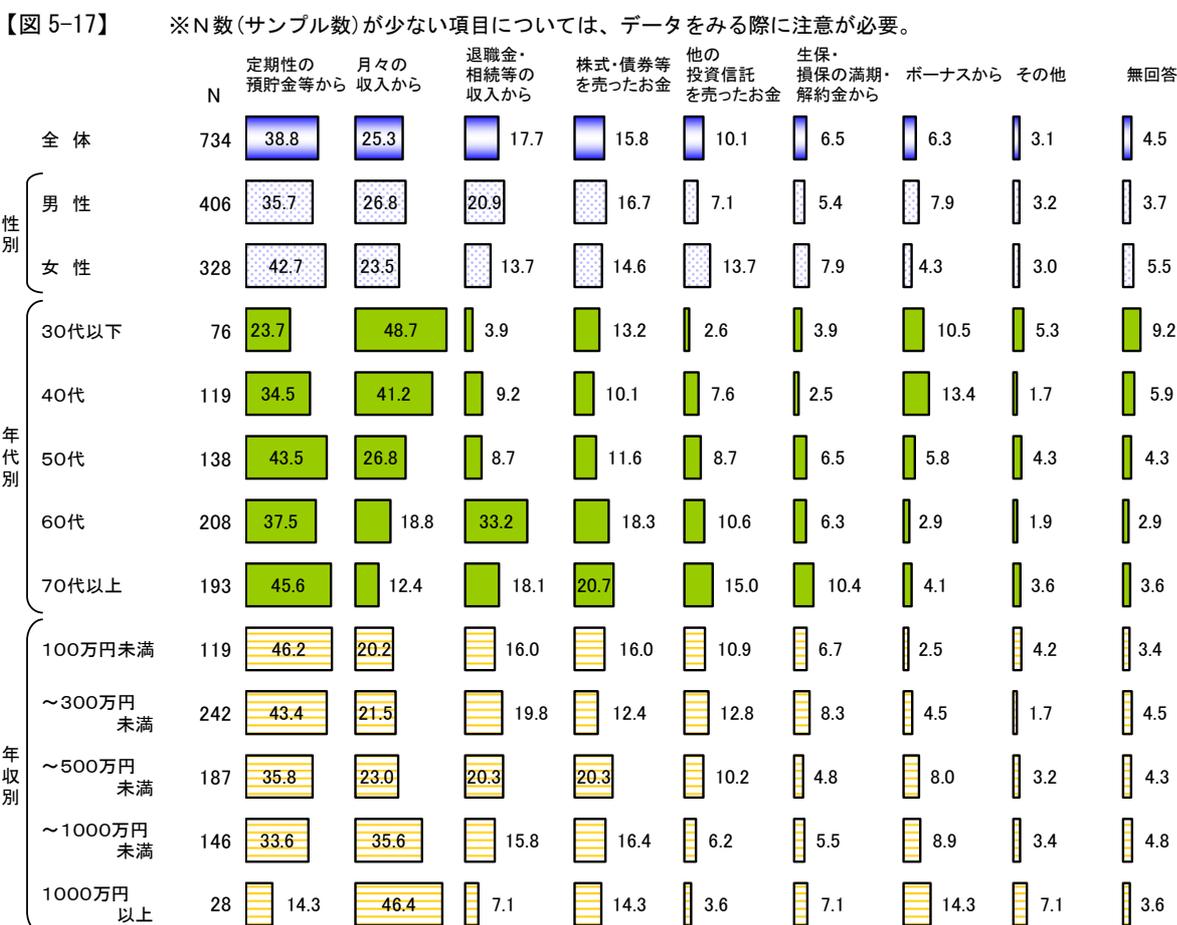
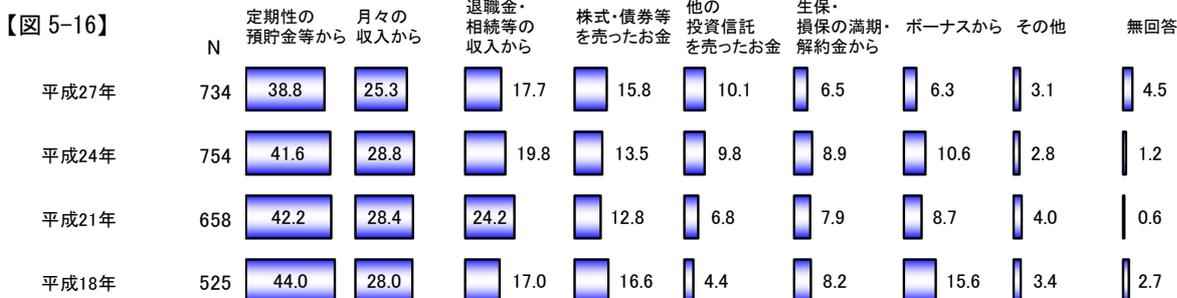


【図 5-15】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

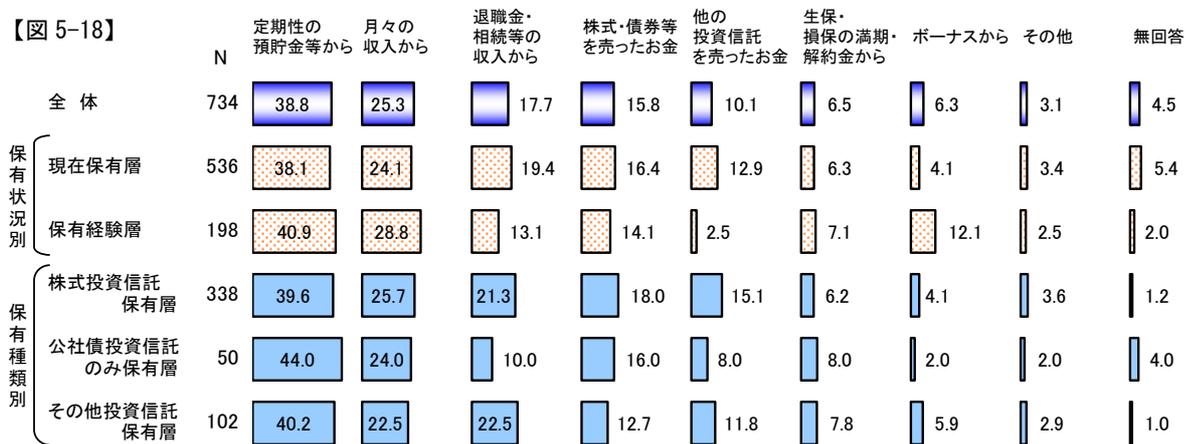


(5) 投資信託の購入資金〔問 14：重複回答〕

- 投信の購入資金は、「定期性の預貯金などから」が38.8%で最も高く、以下「月々の収入から」(25.3%)、「退職金、相続などの収入から」(17.7%)、「株式・債券などを売ったお金」(15.8%)の順。「定期性の預貯金などから」は長期的に減少傾向、「他の投信を売ったお金」は増加傾向となっている。(図 5-16)
- 「定期性の預貯金などから」と「他の投信を売ったお金」は女性の方が高く、「退職金・相続などの収入から」は男性の方が高い。年代で見ると、「月々の収入から」は若年層ほど、「株式・債券などを売ったお金」や「他の投信を売ったお金」は高年齢層ほど高い。「退職金・相続などの収入」は60代で高い。  
「定期性の預貯金などから」は年収が低いほど高く、「月々の収入から」は年収が高くなるほど増加する。(図 5-17)
- 投信保有経験層は現在保有層に比べ「月々の収入から」「ボーナスから」が高く、「退職金・相続などの収入から」や「他の投信を売ったお金」が低い。  
公社債投信のみ保有層は「退職金・相続などの収入から」が低い。(図 5-18)



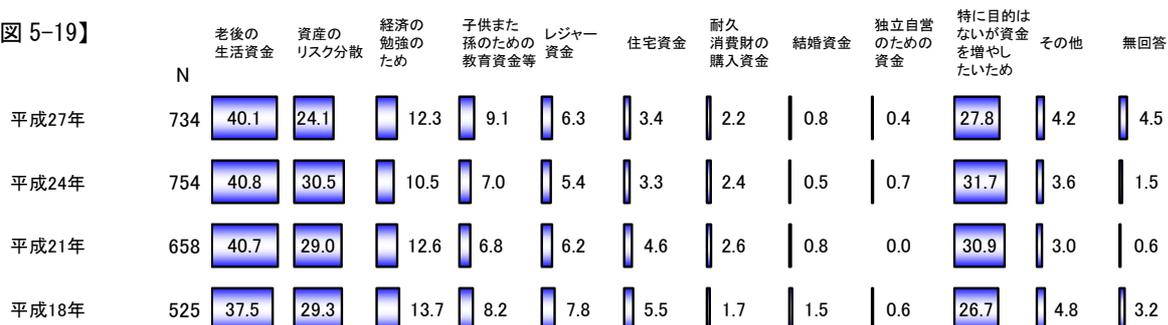
【図 5-18】



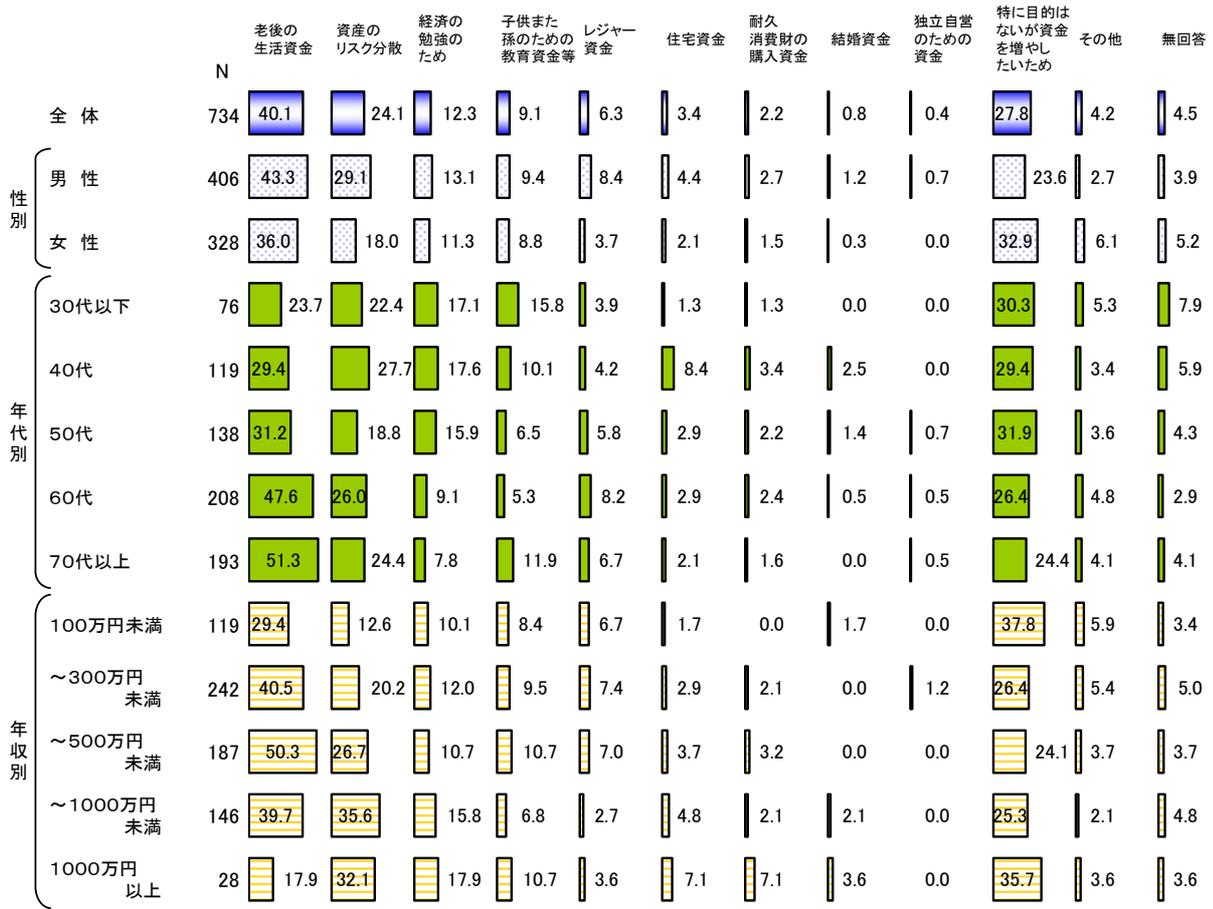
(6) 投資信託の購入目的〔問 13：重複回答〕

- 投信購入の目的は、「老後の生活資金」が 40.1% で最も高く、次いで「資産のリスク分散」(24.1%) が続く。一方、「特に目的はないが資金を増やしたいため」も 27.8% みられる。「資産のリスク分散」は平成 24 年から 6.4 p 減少。(図 5-19)
- 男性は「老後の生活資金」と「資産のリスク分散」が高く、女性は「特に目的はないが資金を増やしたいため」が高い。  
「老後の生活資金」は年代が上がるほど高い。「経済の勉強のため」は 50 代以下でやや高い。  
「資産のリスク分散」は年収が高いほど高い。「100 万円未満」では、「特に目的はないが資金を増やしたいため」が「老後の生活資金」を上回ってトップ。(図 5-20)
- 投信現在保有層は「老後の生活資金」や「資産のリスク分散」が高い。保有経験層では「特に目的はないが資金を増やしたいため」が高い。  
株式投信保有層は「資産のリスク分散」が高い。公社債投信のみ保有層は「老後の生活資金」が高い。(図 5-21)

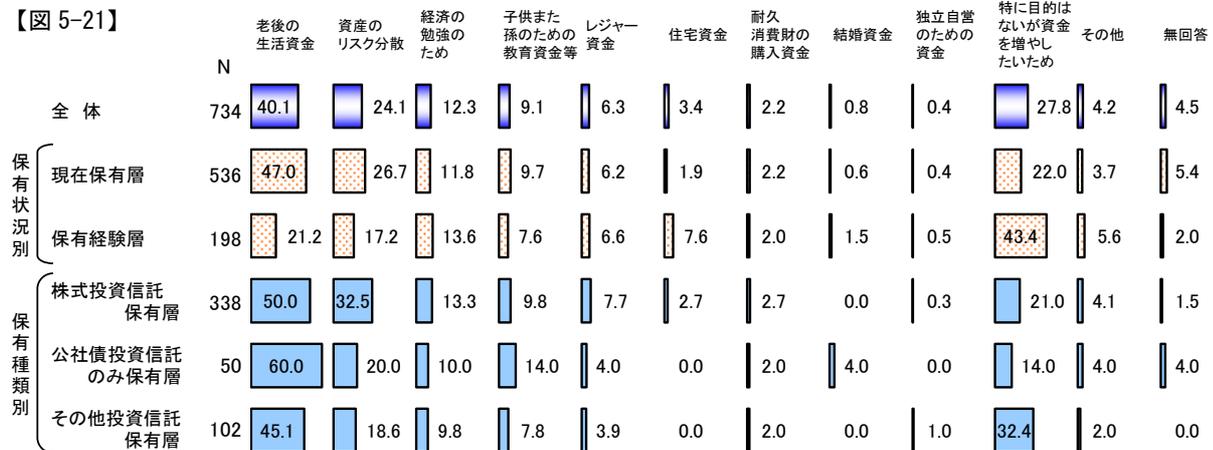
【図 5-19】



【図 5-20】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-21】



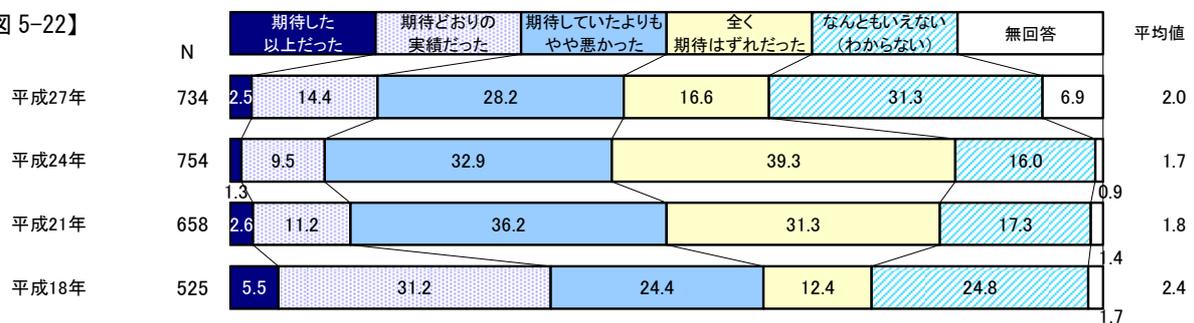
(7) 投資信託の運用実績評価〔問 21：単数回答〕

- 投信の運用実績の評価は、「期待した以上だった」が 2.5%、「期待どおりの実績だった」が 14.4%で、これらを合わせた“期待以上”は 16.9%であり、「期待していたよりもやや悪かった」(28.2%)と「全く期待はずれだった」(16.6%)を合わせた“期待以下” (44.8%)を下回る。一方、「なんともいえない」も 31.3%みられる。なお、「期待した以上だった」から「全く期待はずれだった」まで、4点から1点の得点を与えた平均値は 2.0 点。

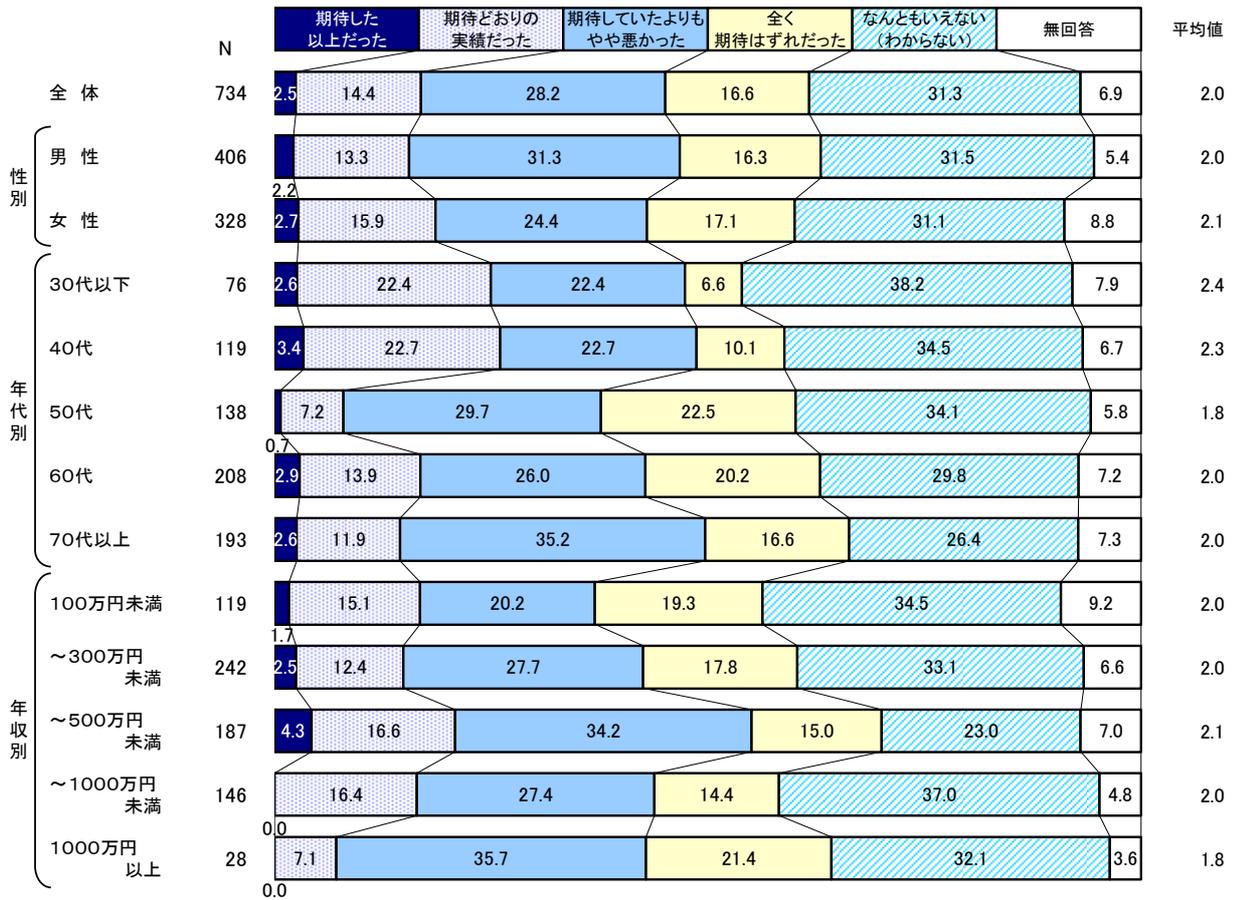
“期待以下”は平成 24 年から 27.4 p と大幅に減少、“期待以上”は 6.1 p 増加。平均点も、平成 24 年まで続いた下降傾向が上昇へと転じた。(図 5-22)

- 男性は“期待以下”比率が女性より高い。  
“期待以上”比率は 40 代以下の若年層で高く、“期待以下”比率は 50 代で高い。「なんともいえない」は若年層ほど高い。  
年収「～500 万円未満」は“期待以上”比率が高い一方、“期待以下”比率も最も高く、「なんともいえない」は最も低い。(図 5-23)
- 投信保有経験層では「全く期待はずれだった」が現在保有層より高い。  
公社債投信のみ保有層は「なんともいえない」が 42.0%と他 2 層より高い。(図 5-24)
- 現在保有層に限って状況をみると、50 代は“期待以上”比率が低く、“期待以下”比率が高い。ただし、50 代と他の年代層の間で保有投信種類に顕著な違いはみられず、保有種類が起因ではないとみられる。(図 5-25～27)

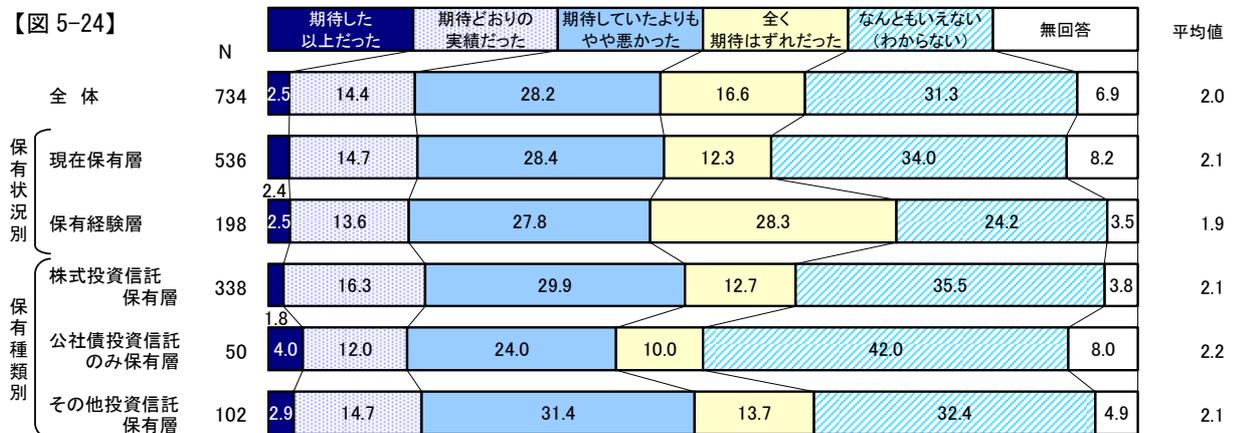
【図 5-22】



【図 5-23】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

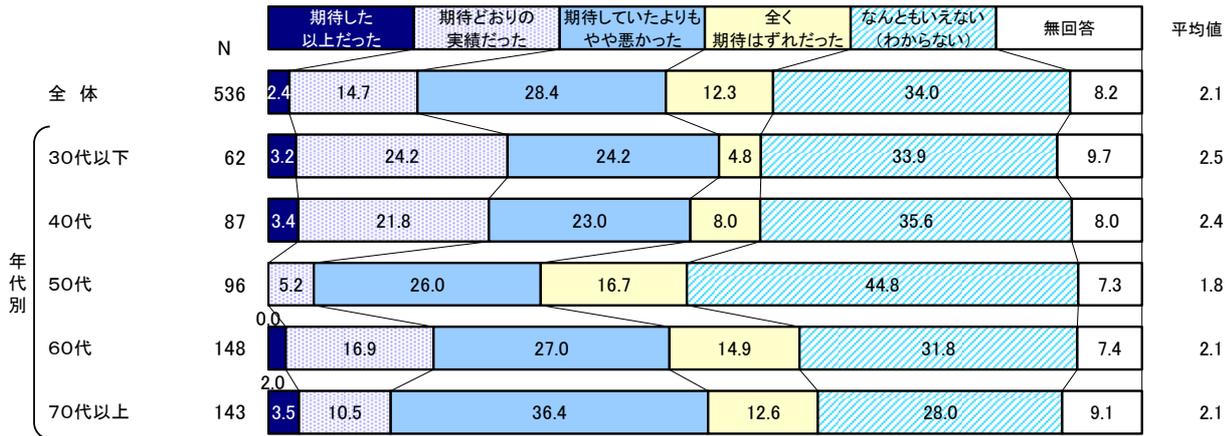


【図 5-24】

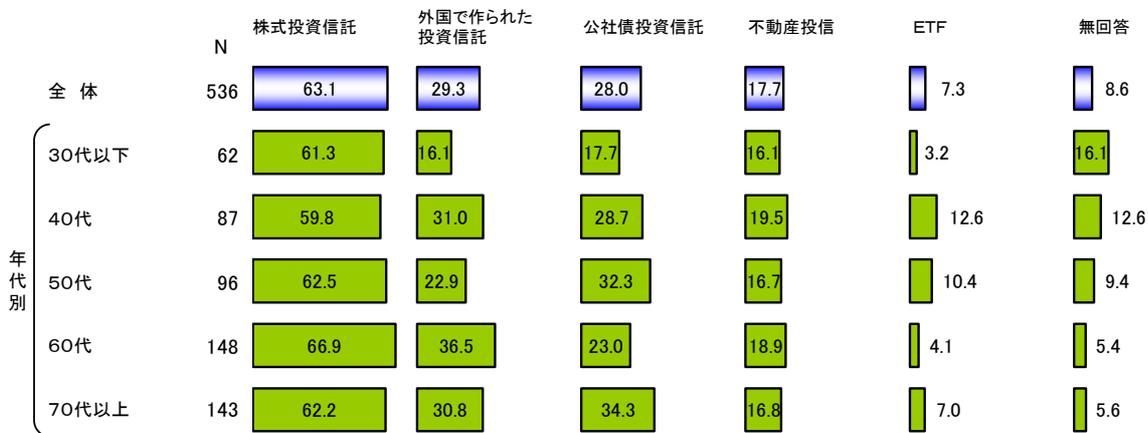


【投信現在保有層の状況】

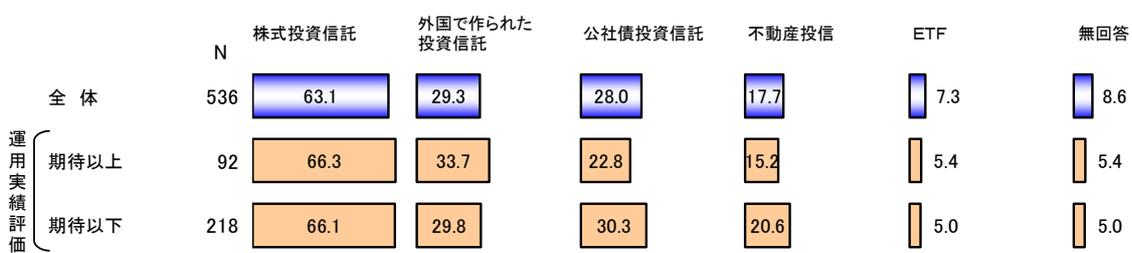
【図 5-25】 【参考：投信の運用実績評価(単数回答)／年代－現在保有層ベース】



【図 5-26】 【参考：投信の保有種類(重複回答)／年代－現在保有層ベース】



【図 5-27】 【参考：投信の保有種類(重複回答)／投信運用実績評価別－現在保有層ベース】



※ 運用実績評価の「なんともいえない(わからない)」、「無回答」は表示を割愛。

(8)償還・売却資金の流出先〔問 22：重複回答〕

- 投信の償還あるいは売却によって得たお金の流出先は、「預貯金にまわした」(32.6%)、「生活資金にまわした」(24.0%)、「他の投信を購入した」(20.7%)、「株式・債券を購入した」(17.7%)の順。

「売却・償還したことはない」は平成 24 年から 5.6 p 減少。(図 5-28)

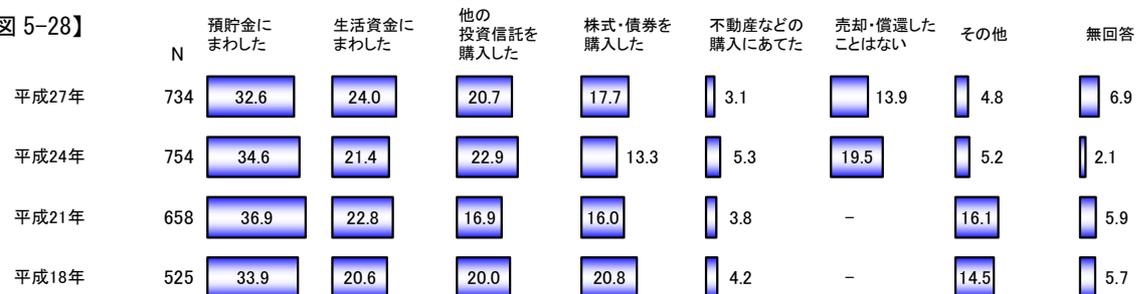
- 男性は「株式・債券を購入した」が女性より高く、女性は「他の投信を購入した」が男性より高い。

30 代以下は「売却・償還したことはない」(32.9%)が特に高い。

「他の投信を購入した」は年収「～300 万円未満」が最も高く、それより年収が上がるにつれ低下。「株式・債券を購入した」は年収が上がるほど高い。(図 5-29)

- 投信保有経験層は「預貯金にまわした」(49.5%)が特に高い。  
株式投信保有層は「株式・債券を購入した」が高い。公社債投信のみ保有層は「他の投信を購入した」が低い。(図 5-30)

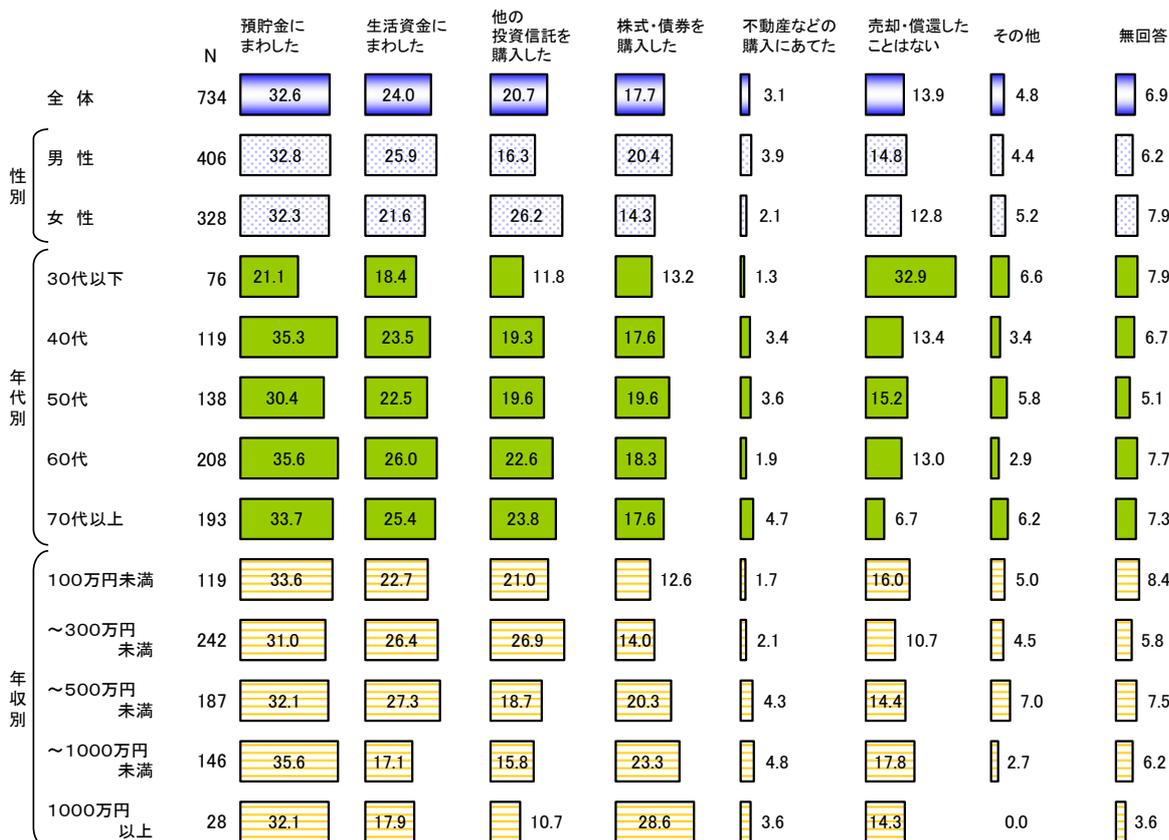
【図 5-28】



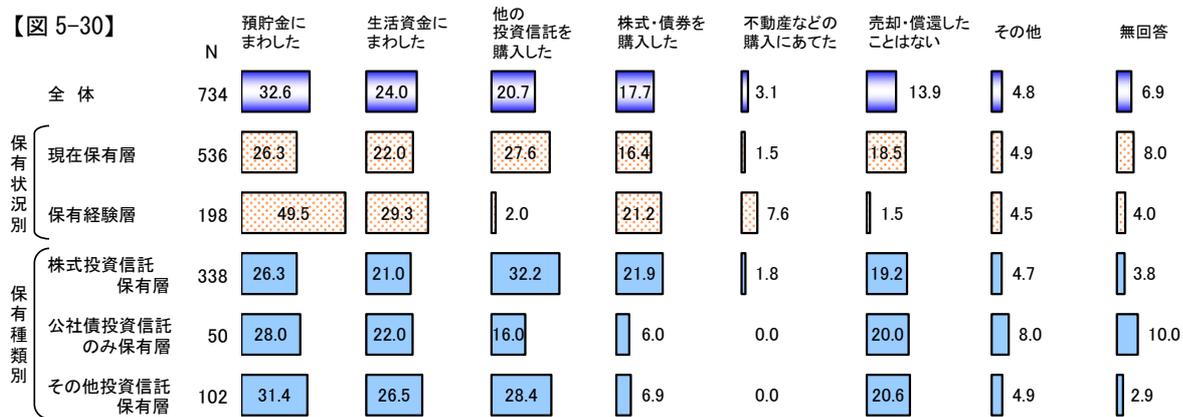
※ 平成 24 年調査より「売却・償還したことはない」が追加

【図 5-29】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【図 5-30】



(9) 投資信託説明書(目論見書) 閲読状況 [問 19、問 19-1]

① 投資信託説明書(目論見書) 閲読経験 [問 19 : 単数回答]

- 購入の際、交付される投資信託説明書(目論見書)を「全部読んだ」は3.3%、「必要と思われる項目を読んだ」は39.0%で、これらを合わせた“閲読率”は42.3%。一方、「よく読んだことがない」は51.9%とほぼ半数。

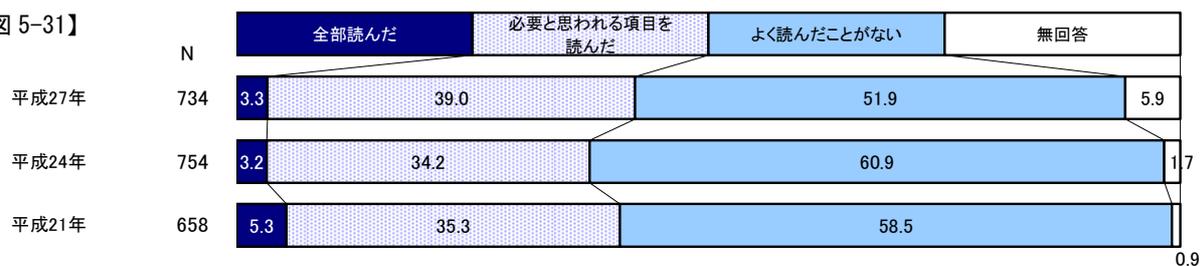
“閲読率”は平成24年度から4.9p増加し、平成21年度レベルに戻った。(図5-31)

- “閲読率”は男性(46.0%)の方が高い。また、40代以下で比較的高く(約50%)、60代が最も低い(35.1%)。

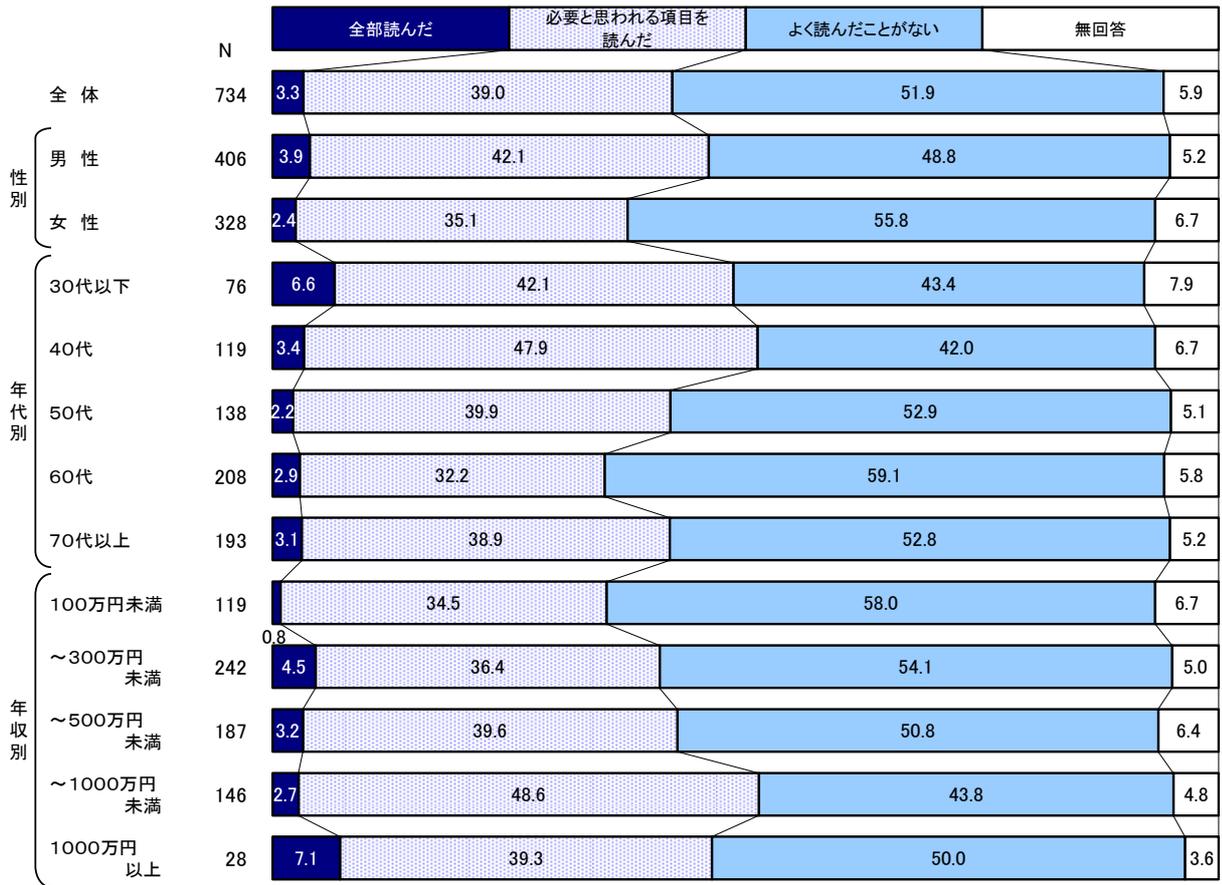
年収が高くなるにつれ“閲読率”も高まる。(図5-32)

- 株式投信保有層では閲読率が48.5%と高く、公社債投信のみ保有層は34.0%と低い。(図5-33)

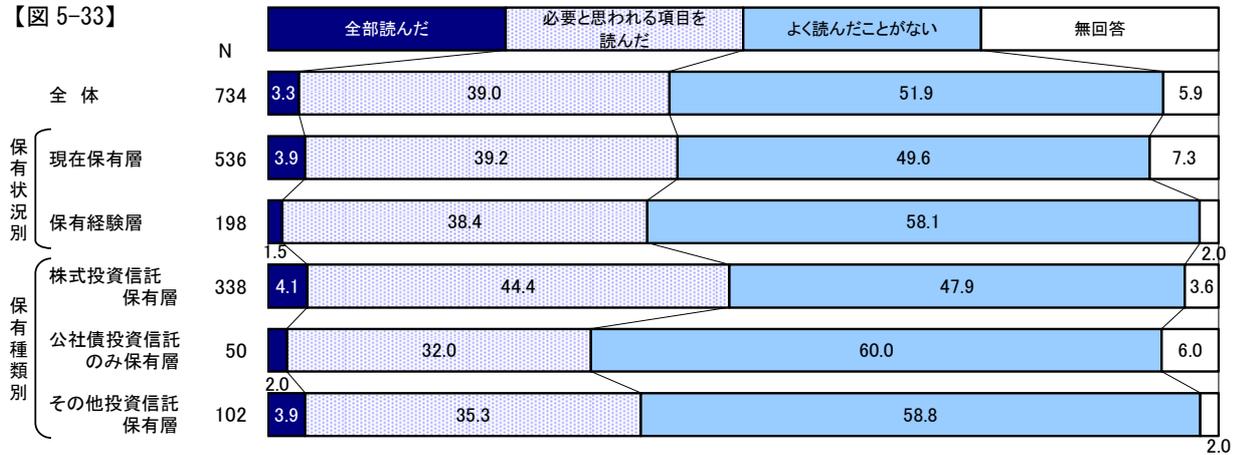
【図 5-31】



【図 5-32】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-33】



② 投資信託説明書(目論見書)の感想(現在保有層・保有経験層のうち目論見書読者)

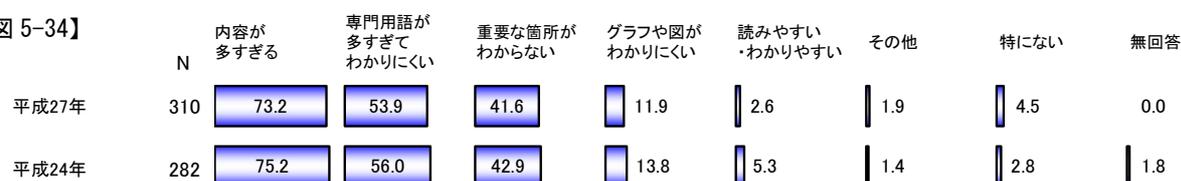
[問 19-1 : 重複回答]

- 投資信託説明書(目論見書)読者にその感想を尋ねたところ、「内容が多すぎる」が73.2%で最も高い。次いで、「専門用語が多すぎてわかりにくい」(53.9%)、「重要な箇所がわからない」(41.6%)。(図 5-34)
- 女性は「専門用語が多すぎてわかりにくい」が男性より高く、トップの「内容が多すぎる」と同程度の約70%で並ぶ。

「専門用語が多すぎてわかりにくい」は60代でやや高い。

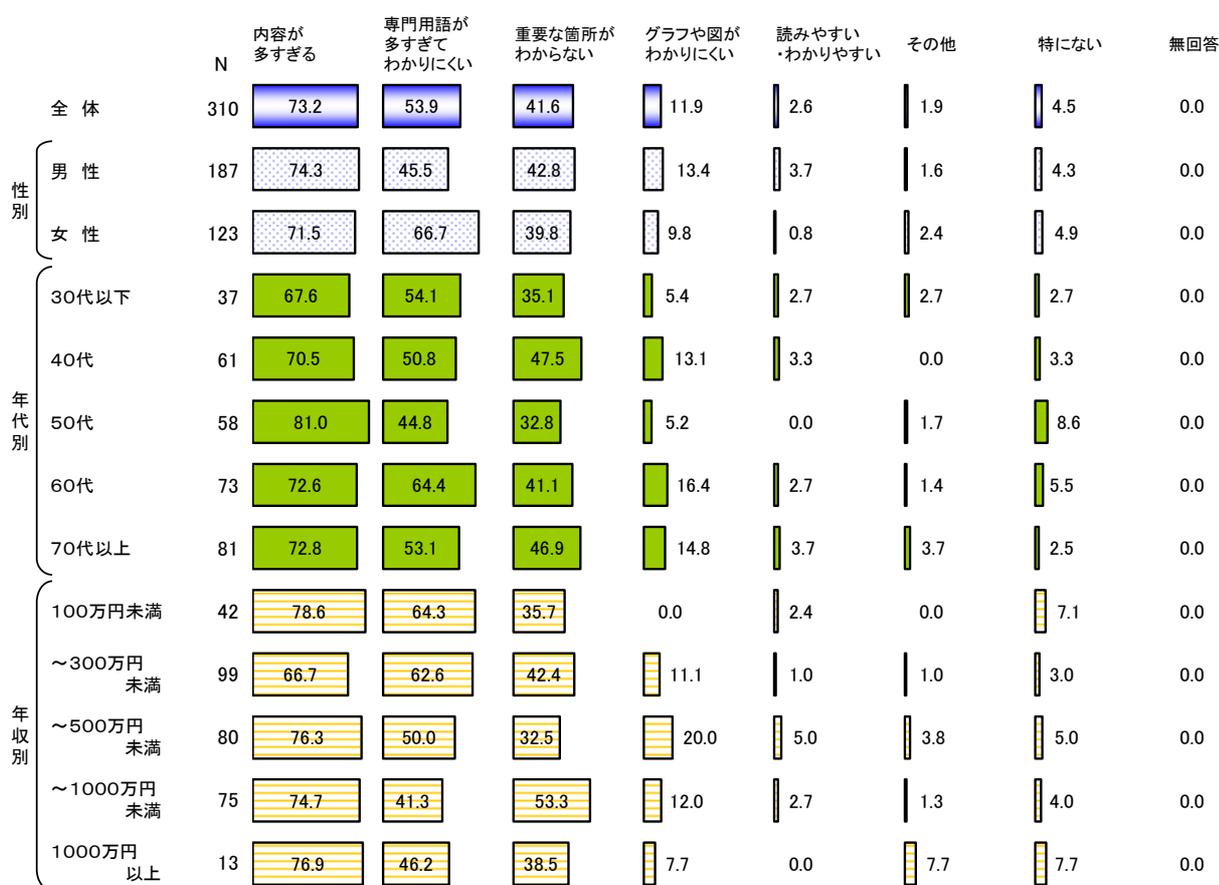
年収“300万円未満”の層では「専門用語が多すぎてわかりにくい」がやや高い。「～1000万円未満」では「重要な箇所がわからない」が半数を超え、他層より高い。(図 5-35)

【図 5-34】

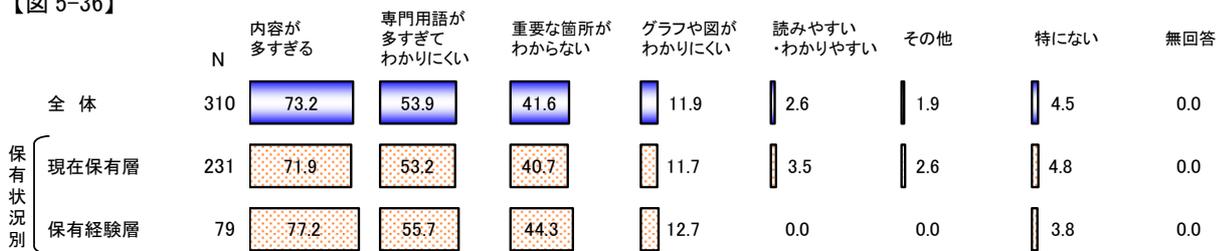


【図 5-35】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-36】

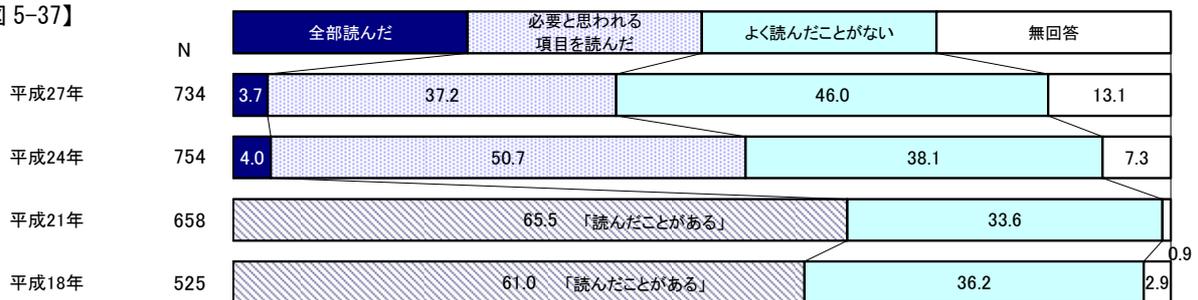


(10) 運用報告書読読状況〔問 20、問 20-1〕

① 運用報告書読読経験〔問 20：単数回答〕

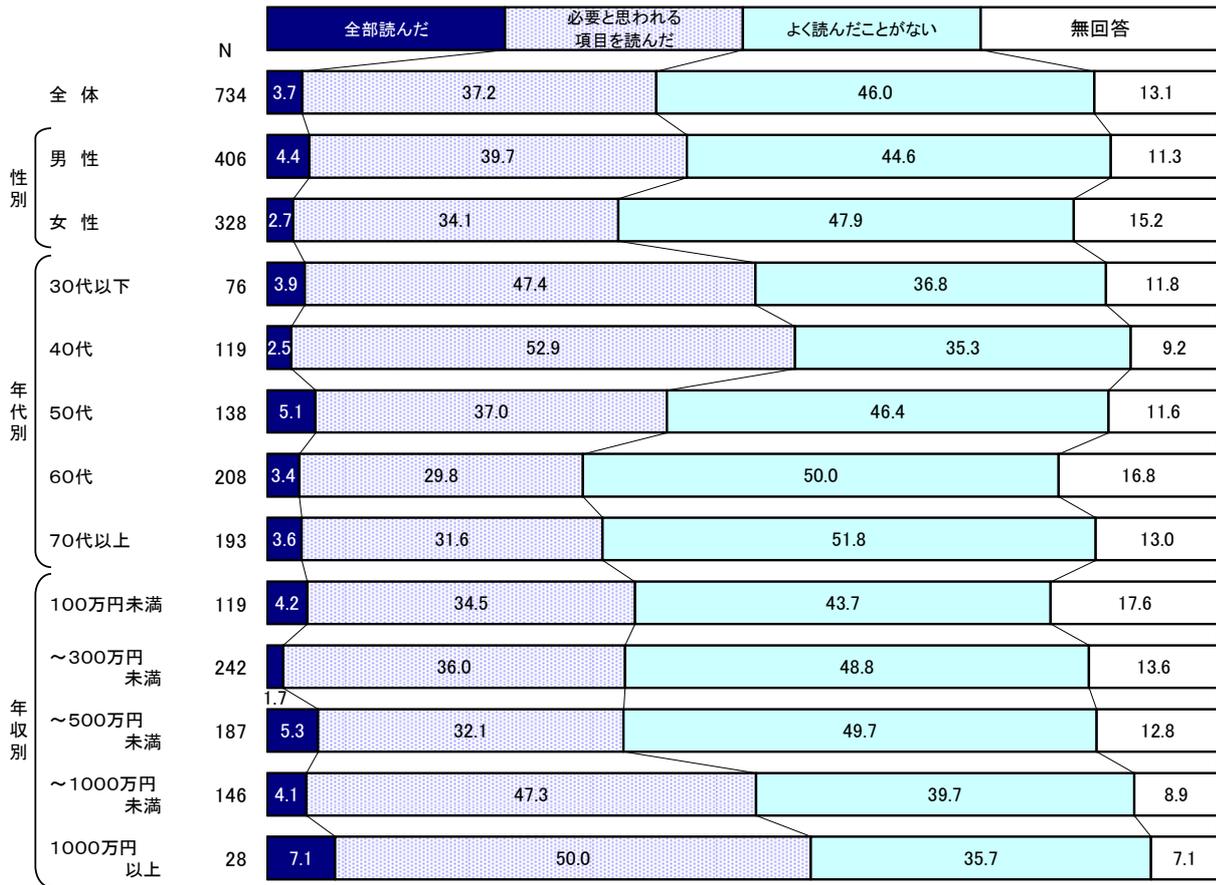
- 決算期に発行される運用報告書を「全部読んだ」は 3.7%、「必要と思われる項目を読んだ」は 37.2%で、これらを合わせた“読読率”は 40.9%。一方、「よく読んだことがない」人も 46.0%みられる。  
“読読率”は平成 24 年から 13.8p 減少。(図 5-37)
- “読読率”は男性で高い。また、40 代までは 50%台だが、50 代以上では低くなる。年収別では「～1000 万円未満」で高く、半数を超える。(図 5-38)
- 投信現在保有層の“読読率”は 42.6%と高い。公社債投信のみ保有層では 32.0%と低い。(図 5-39)

【図 5-37】

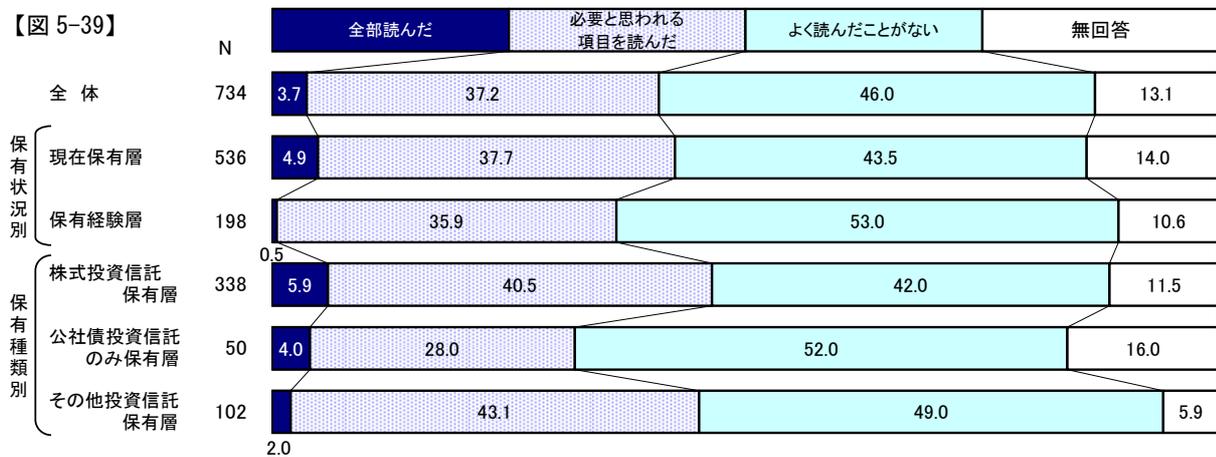


※ 平成 24 年調査より「読んだことがある」を、「全部読んだ」と「必要と思われる項目を読んだ」の 2 つに分割

【図 5-38】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-39】



② 運用報告書の感想(現在保有層・保有経験層のうち運用報告書読者)〔問 20-1: 重複回答〕

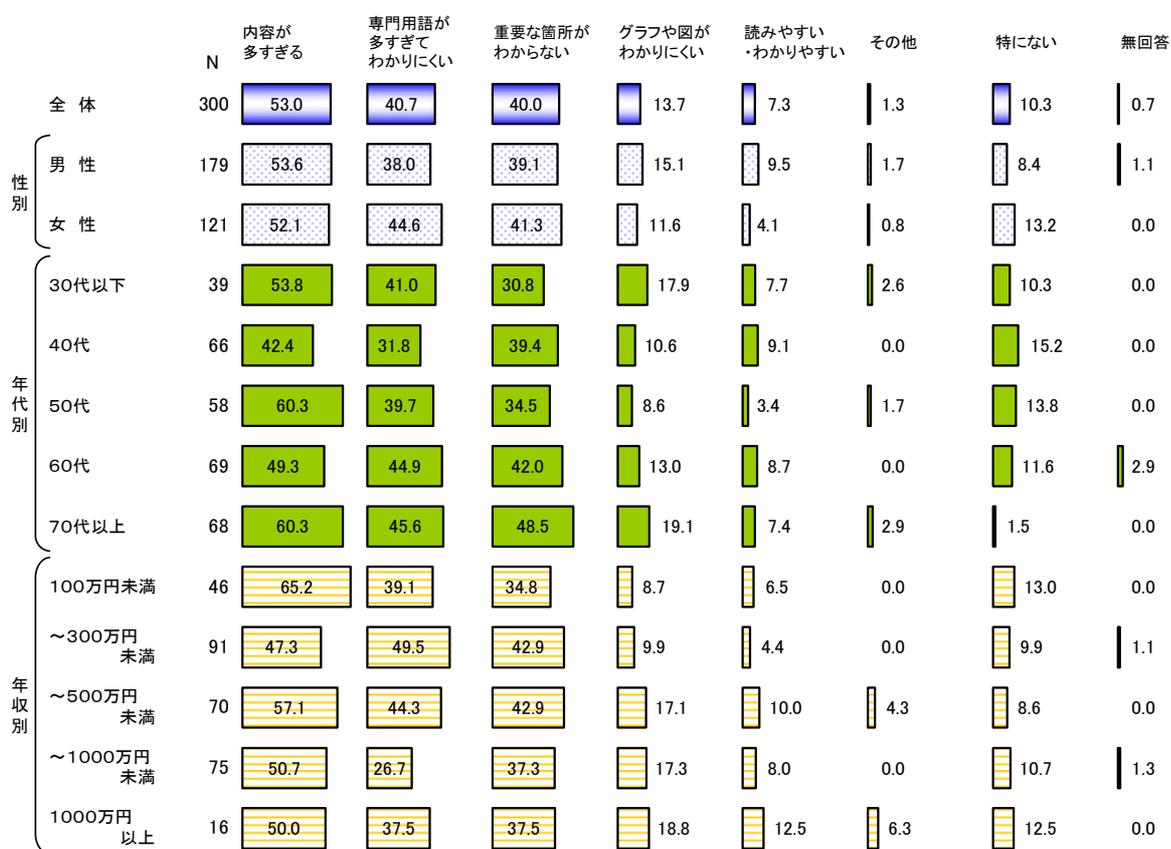
- 運用報告書読者に感想を尋ねたところ、「内容が多すぎる」が53.0%で最も高い。次いで、「専門用語が多すぎてわかりにくい」(40.7%)と「重要な箇所がわからない」(40.0%)が同程度で続く。

「専門用語が多すぎてわかりにくい」は女性の方が、「読みやすい・わかりやすい」は男性の方が高い。

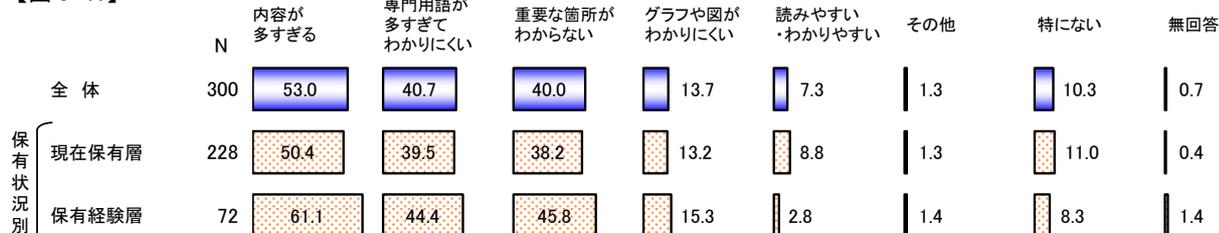
40代は他の年代層に比べ、「内容が多すぎる」「専門用語が多すぎてわかりにくい」がやや低い。

年収「～1000万円未満」は「専門用語が多すぎてわかりにくい」が他層に比べて低い。(図 5-40)

【図 5-40】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



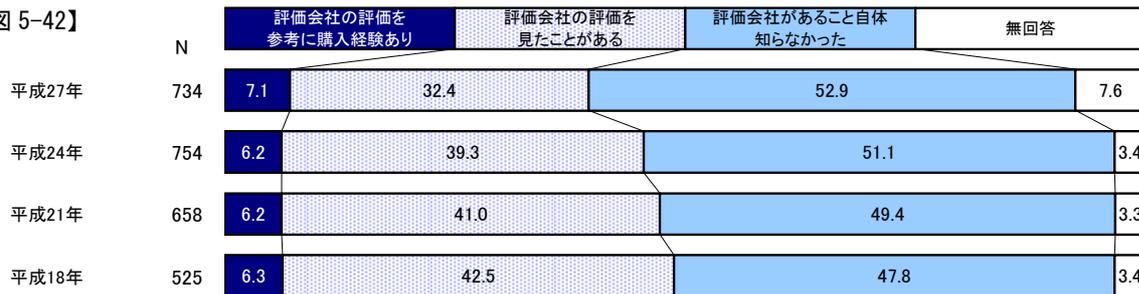
【図 5-41】



(11) 評価会社による運用評価の認知・利用状況〔問 23：単数回答〕

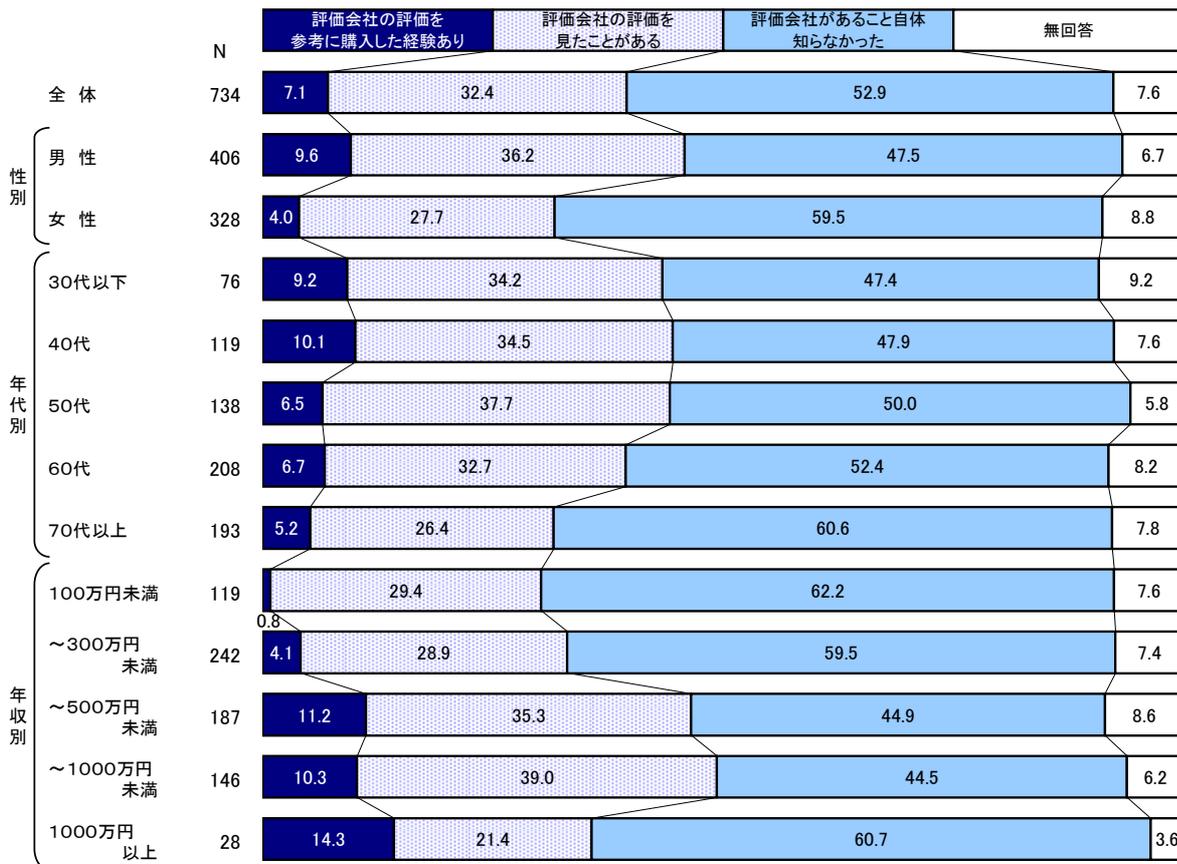
- 評価会社による運用評価は、「参考にして購入したことがある」は7.1%。「評価を見たことがある」は32.4%で、これらを合わせた“認知率”は39.5%。“認知率”は低下傾向が続いている。「評価会社があること自体知らなかった」も52.9%を占める。(図 5-42)
- “認知率”は男性が45.8%と高い。年代では、50代以下では約45%だが、それ以上の年代層では低くなる。  
 年収別では“300万円未満”の層では“認知率”が約30%と低い。(図 5-43)
- 株式投信保有層の“認知率”は45.2%と高い。(図 5-44)

【図 5-42】

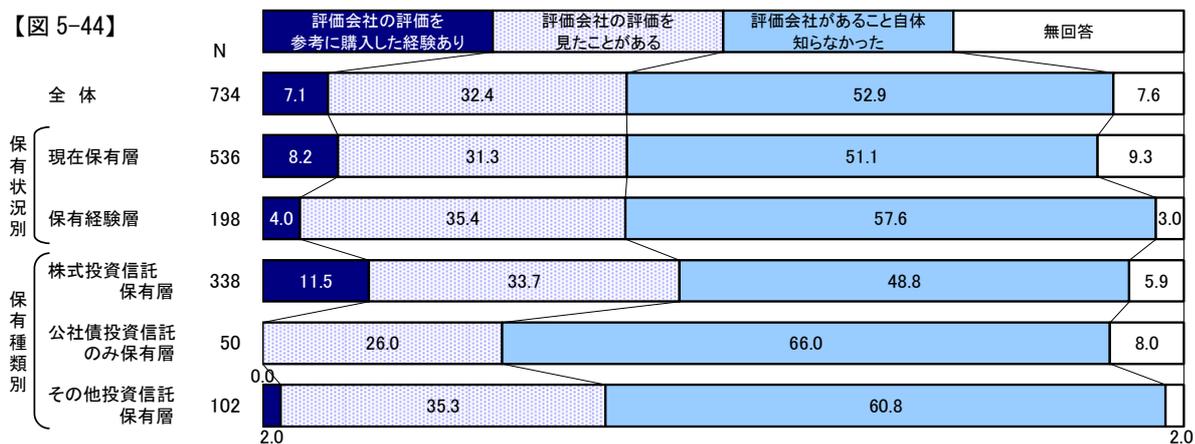


【図 5-43】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-44】



(12) 販売会社や運用会社のホームページ利用経験〔問 24：単数回答〕

- 投信の情報源として、販売会社や運用会社のホームページを利用した経験は、「購入した販売会社のHP」が 20.3%で最も高く、その他のHPは各々 5%台以下。これらを合わせた“HP利用率”は 29.4%で、「利用したことがない」人が 64.0%を占める。

“HP利用率”は男性(36.2%)の方が高い。また、若年層ほど高く、30代以下では半数を超えるが、70代以上では 12.9%と低い。

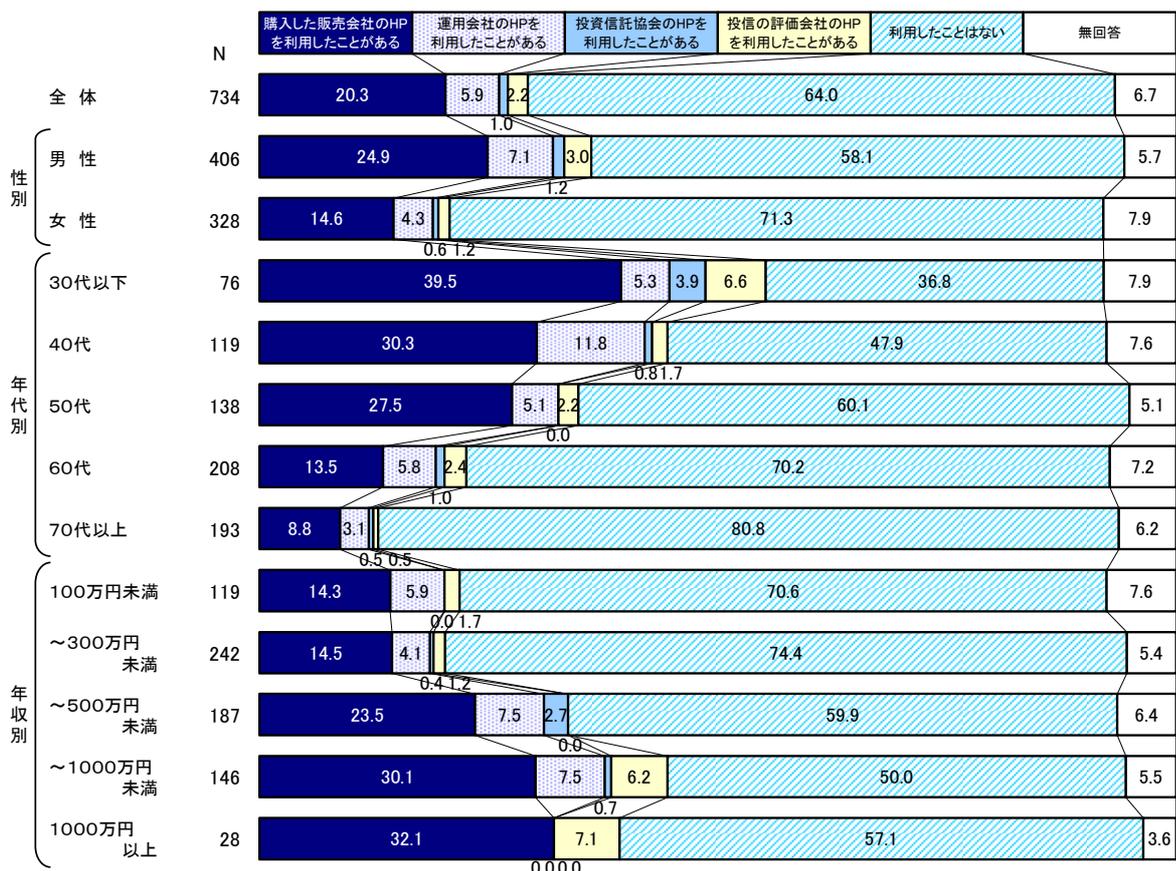
年収「～500万円未満」以上では年収が上がるほど高い。

(図 5-45)

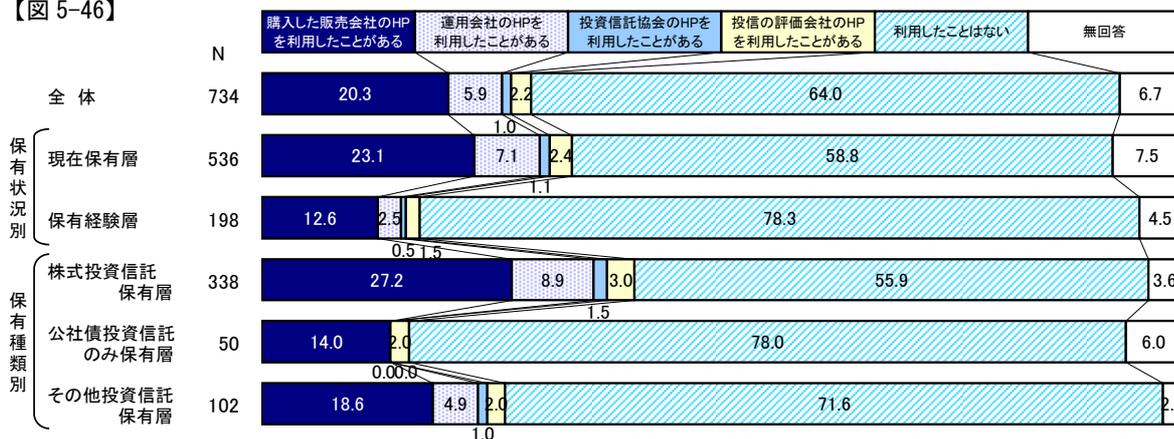
- 投信現在保有層の方が保有経験層に比べて“HP利用率”が高い(33.7%)。また、株式投信保有層でも 40.6%と高い。(図 5-46)

【図 5-45】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。



【図 5-46】



(13) 投資信託の優れていると感じる点〔問 25①②〕

① 投資信託の優れていると感じる点〔問 25①：重複回答〕

- 他の金融商品と比較して投信が優れていると感じる点(重複回答)は、「専門知識がなくても投資ができる」(50.7%)と「定期的に分配金が受け取れる」(46.3%)が上位に並ぶ。以下、「少額でも分散投資ができる」(39.1%)、「比較的高い利回りが期待できる」(32.3%)の順。

平成 24 年に比べ、「少額でも分散投資ができる」は 8.5 p 増加し、「比較的高い利回りが期待できる」は 10.5 p 減少。「専門知識がなくても投資ができる」は 4.7 p 減少し平成 21 年の水準に戻った。「購入手続きが簡単」は継続的な減少傾向。(図 5-47)

- 男性は「少額でも分散投資ができる」「少額でも投資の面白味がある」「購入手続きが簡単」「積立投資ができる」「種類が豊富で目的に応じたものが選べる」が女性より高い。女性は「定期的に分配金が受け取れる」「比較的高い利回りが期待できる」が男性より高い。

年代で見ると、「定期的に分配金が受け取れる」は年代が上がるにつれ高くなる。「少額でも分散投資ができる」や「積立投資ができる」は若年層ほど高い。

年収別では、「少額でも分散投資ができる」「購入手続きが簡単」「海外投資が手軽にできる」「積立投資ができる」「種類が豊富で目的に応じたものが選べる」は年収が上がるほど高い。「定期的に分配金が受け取れる」は“300 万円未満”の層で高い。

(図 5-48)

- 投信現在保有層は「専門知識がなくても投資ができる」「定期的に分配金が受け取れる」「比較的高い利回りが期待できる」が保有経験層より高い。

株式投信保有層は「少額でも分散投資ができる」「積立投資ができる」「種類が豊富で目的に応じたものが選べる」が高く、多様な点を評価している。(図 5-49)

② そのうち特に魅力を感じる点〔問 25②：単数回答〕

- 投信が優れていると感じる点のうち、特に魅力を感じる点(単数回答)としては、「定期的に分配金が受け取れる」(17.8%)と「専門知識がなくても投資ができる」(16.9%)が同程度で上位に並んでいる。次いで、「比較的高い利回りが期待できる」(12.1%)と「少額でも分散投資ができる」(11.2%)が同程度で並ぶ。

「比較的高い利回りが期待できる」は平成 24 年から 7.0 p 減少、「少額でも分散投資ができる」は 4.8 p 増加。(図 5-50)

- 男性は「専門知識がなくても投資ができる」「少額でも分散投資ができる」が女性より高く、女性は「定期的に分配金が受け取れる」が男性より高い。

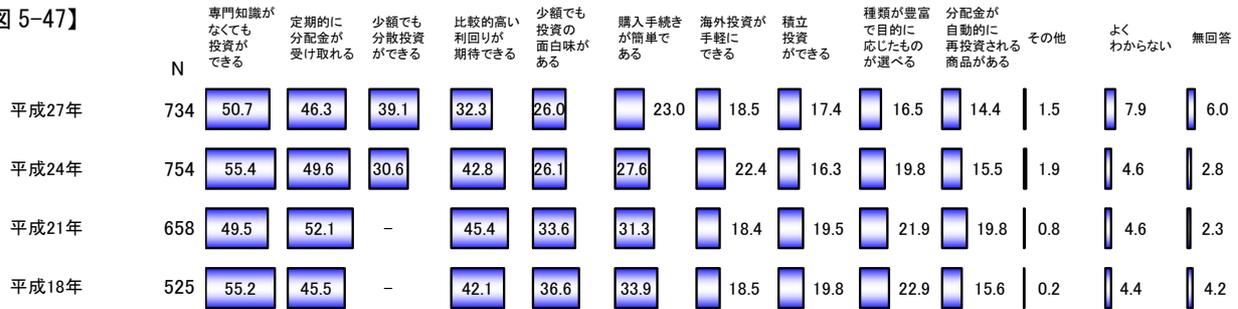
「定期的に分配金が受け取れる」は年代が上がるにつれ高くなる。「少額でも分散投資ができる」や「積立投資ができる」は 30 代以下で高い。

「定期的に分配金が受け取れる」は年収が低い層ほど高い。「少額でも分散投資ができる」は「～1000 万円未満」で高い。(図 5-51)

- 投信現在保有層は「定期的に分配金が受け取れる」や「比較的高い利回りが期待できる」が高い。

公社債投信のみ保有層は「専門知識がなくても投資ができる」が低い。(図 5-52)

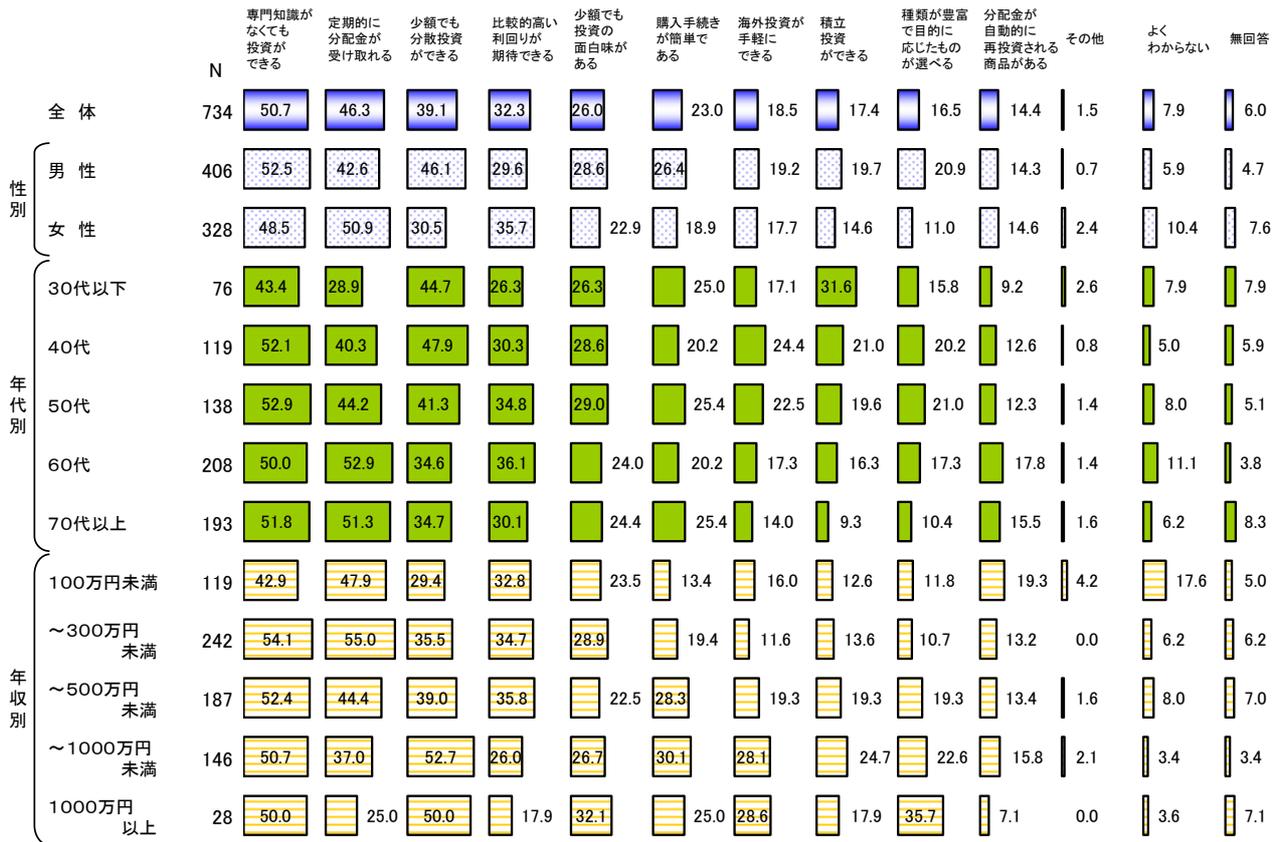
【図 5-47】



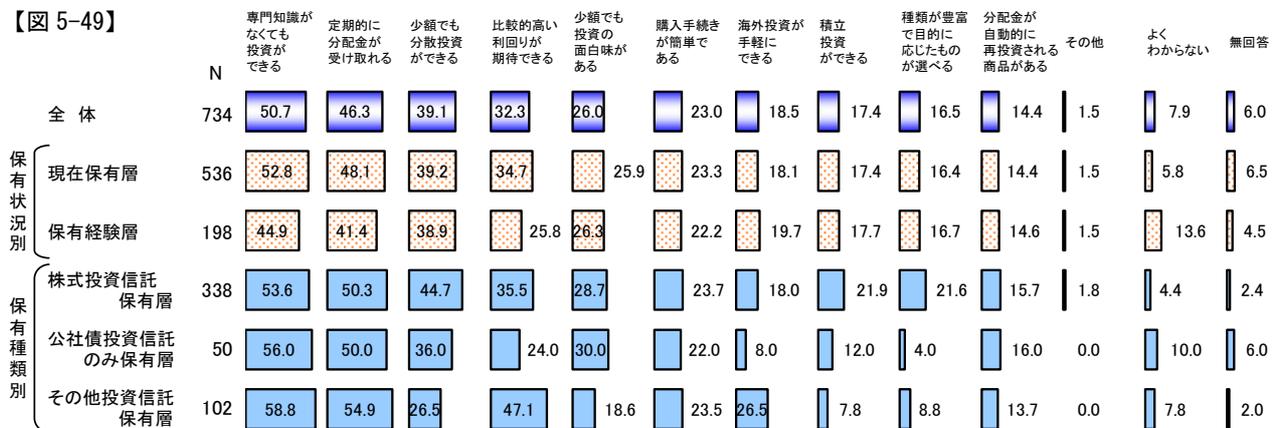
※ 平成24年調査より「少額でも分散投資ができる」が追加されている

【図 5-48】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

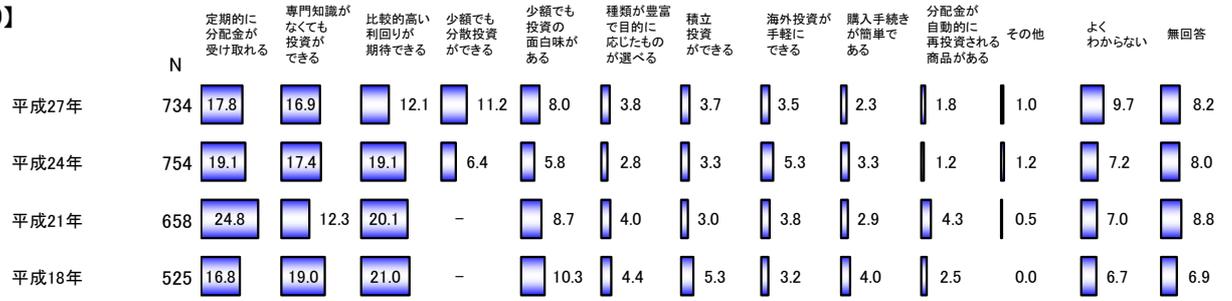


【図 5-49】



【図 5-50】

1つだけ

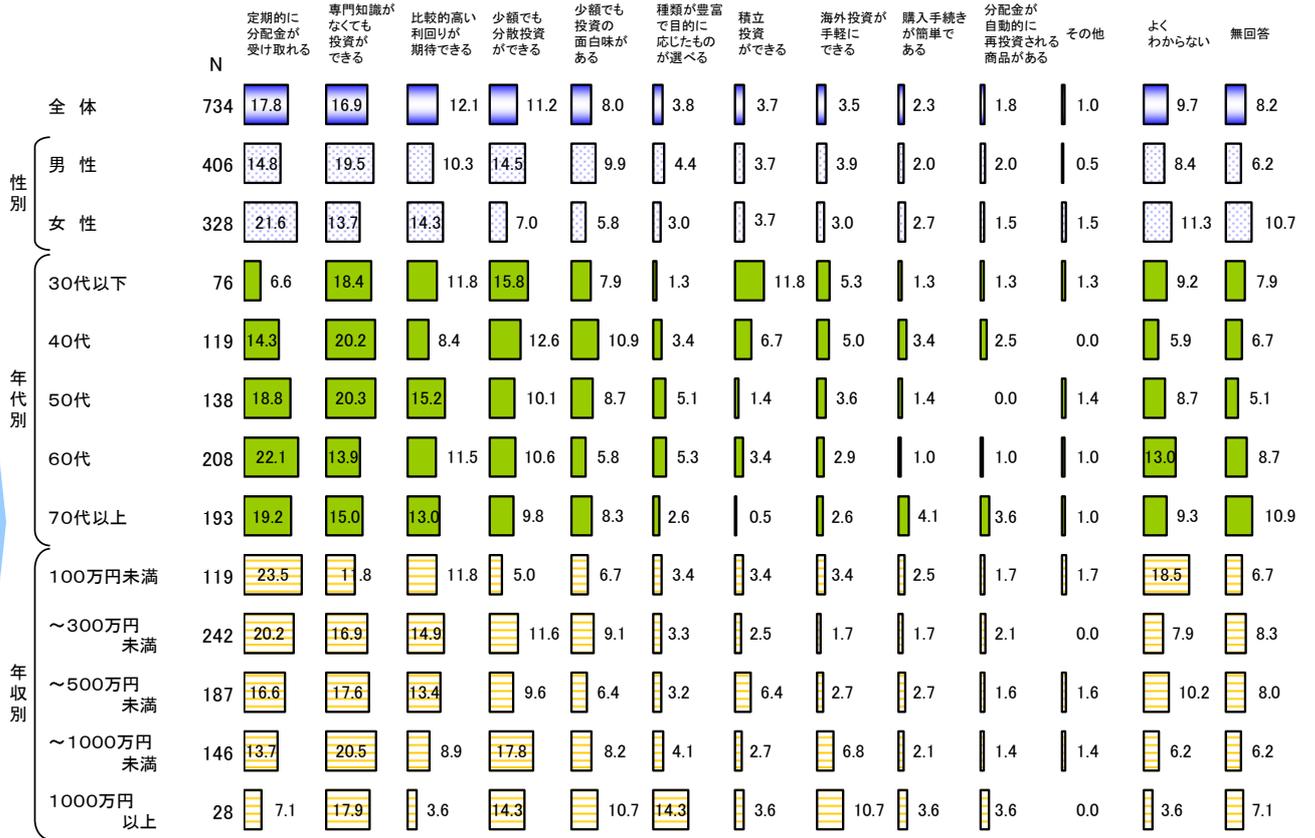


※ 平成24年調査より「少額でも分散投資ができる」が追加

【図 5-51】

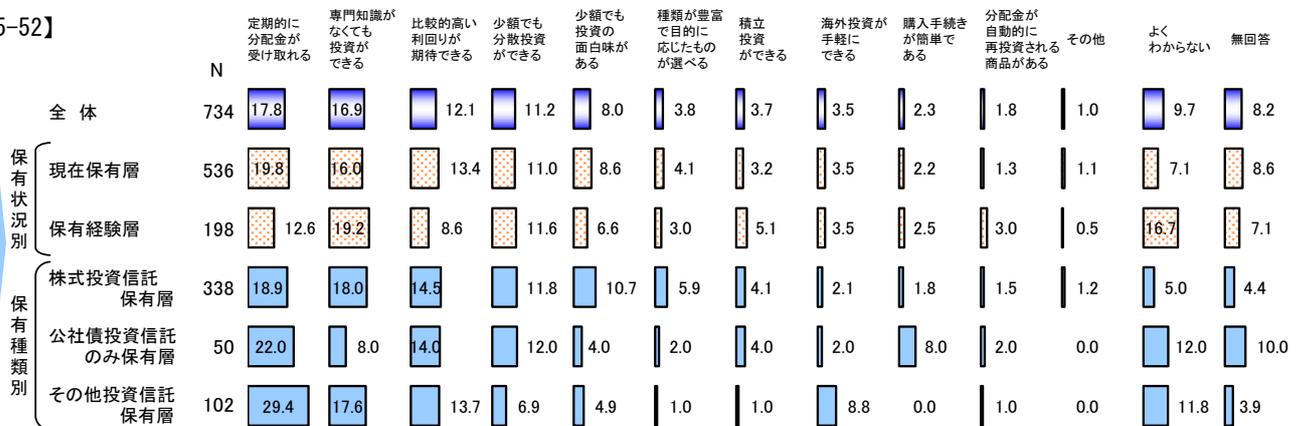
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1つだけ



【図 5-52】

1つだけ



#### (14) 投資信託の不満を感じる点〔問 26①②〕

##### ① 投資信託の不満を感じる点〔問 26①：重複回答〕

- 他の金融商品と比較して、投信の不満を感じる点(重複回答)は、「元本保証がない」が 61.6%で最も高く他を大きく上回る。以下、「手数料が高い」(43.1%)、「仕組みや運用実績がわかりにくい」(37.1%)の順に続く。

「仕組みや運用実績がわかりにくい」は微増傾向。「公社債に比べて安心できない」は平成 24 年から 11.3p 減少した。「利回りがものたりない」は平成 24 年から 4.7p 減少し、平成 21 年以前の水準に戻った。(図 5-53)

- 男性は女性に比べ「株式に比べて面白さに欠ける」「利回りがものたりない」が高く、「元本保証がない」は低い。

30 代以下は「元本保証がない」ことへの不満が他層に比べて低い。「仕組みや運用実績がわかりにくい」「公社債に比べて安心できない」などは年代が上がるにつれ少しずつ高まる。

「元本保証がない」は年収が低い層ほど高く、「株式に比べて面白さに欠ける」は年収が高い層ほど高い。「手数料が高い」ことへの不満は年収が上がるほど高くなる傾向がある。(図 5-54)

- 投信現在保有層は保有経験層より「手数料が高い」ことへの不満が高く、「公社債に比べて安心できない」「手続きなどがわずらわしい」は低い。

株式投信保有層は「手数料が高い」ことへの不満が高い。公社債投信のみ保有層は「株式に比べ面白さに欠ける」や「購入後の運用に関する情報が少ない」が低い。(図 5-55)

##### ② そのうち特に不満を感じる点〔問 26②：単数回答〕

- 投信の不満点のうち、特に不満を感じる点(単数回答)についても、「元本保証がない」が 33.0%で最も高い。次いで、「手数料が高い」が 17.6%。

「手数料が高い」は平成 24 年から 4.7p 増加し、平成 18 年調査の水準に戻った。「仕組みや運用実績がわかりにくい」は微増傾向がみられる。(図 5-56)

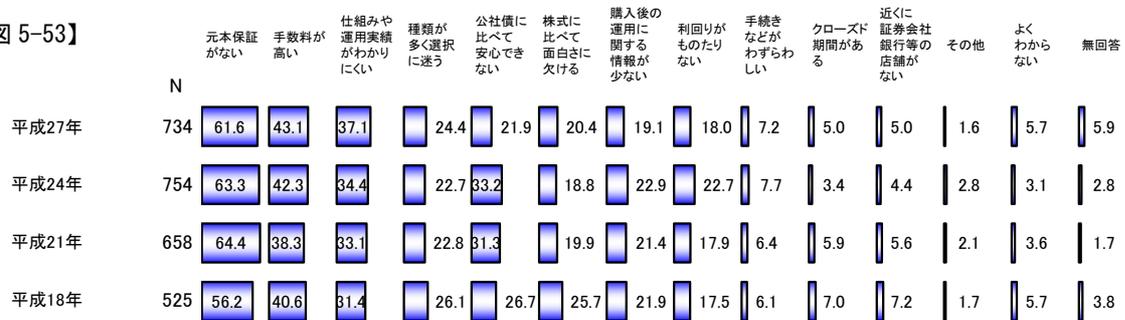
- 女性は「元本保証がない」が 41.8%を占めているのに対し、男性は 25.9%にとどまり、「手数料が高い」「仕組みや運用実績がわかりにくい」などに分散している。

30 代以下は「元本保証がない」が、70 代以上は「手数料が高い」が低い。

「元本保証がない」は年収が低いほど高い。「～1000 万円未満」の比較的年収が高い層では「手数料が高い」が高い。(図 5-57)

- 投信保有経験層は現在保有層に比べ、「元本保証がない」が高く、「手数料が高い」は低い。(図 5-58)

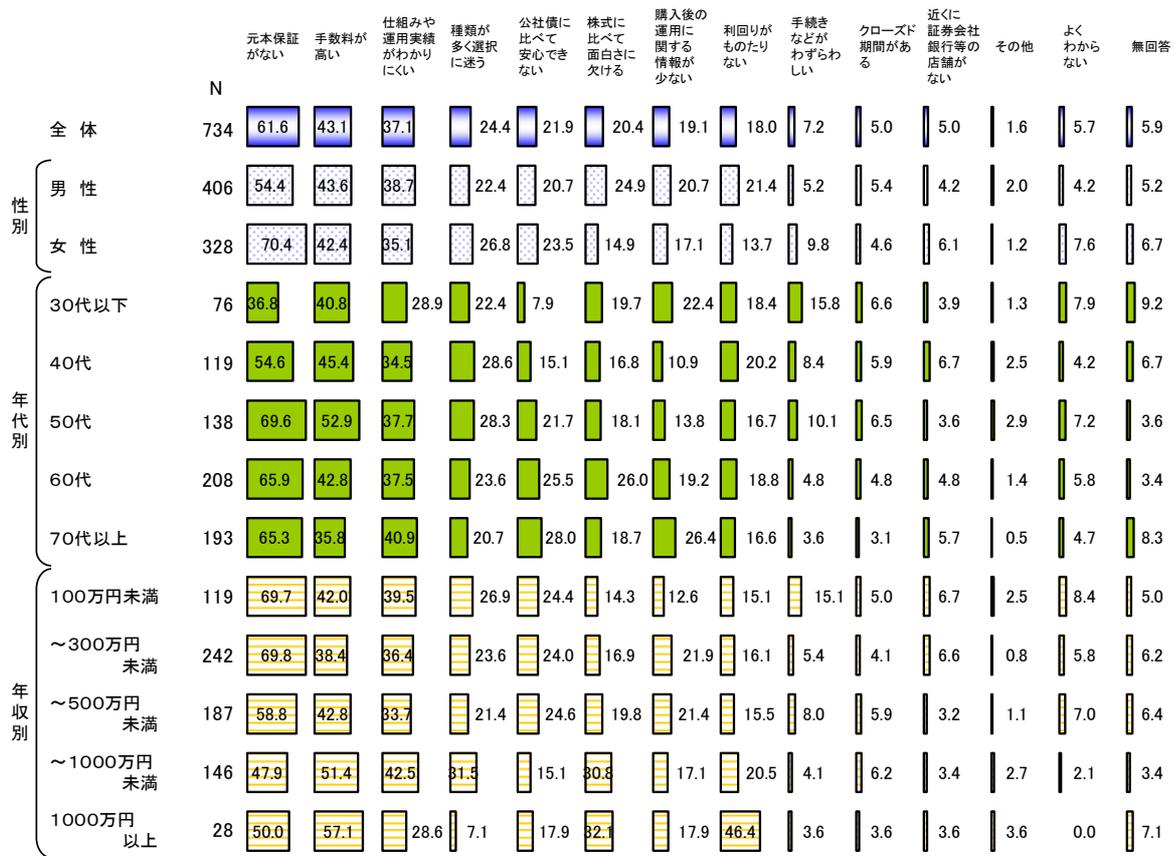
【図 5-53】



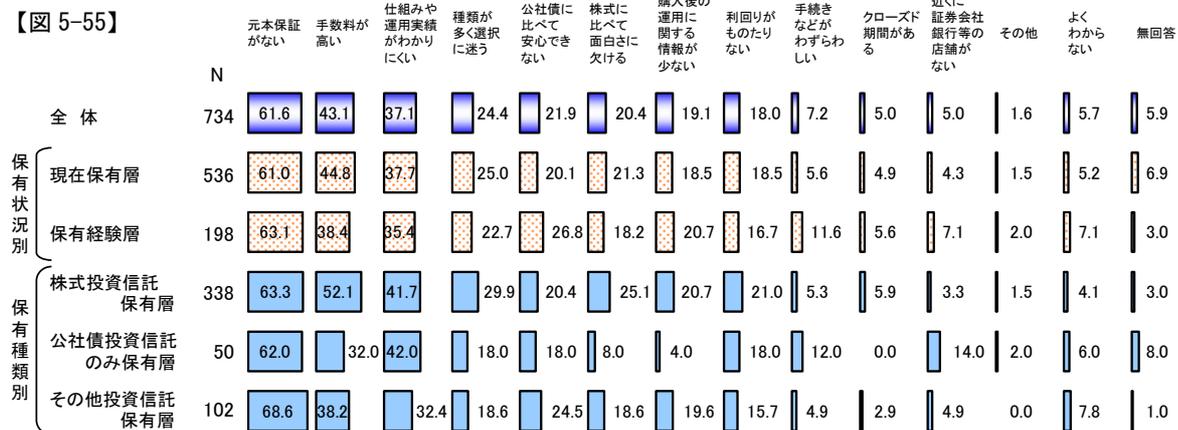
※ 平成 24 年調査までは「仕組みや運用実績がわかりにくい」は、「運用実績がわかりにくい」で調査  
また、平成 27 年調査より「なんとなくなじめない」を削除

【図 5-54】

※N数(サンプル数)が少ない項目については、データをみる際に注意が必要。

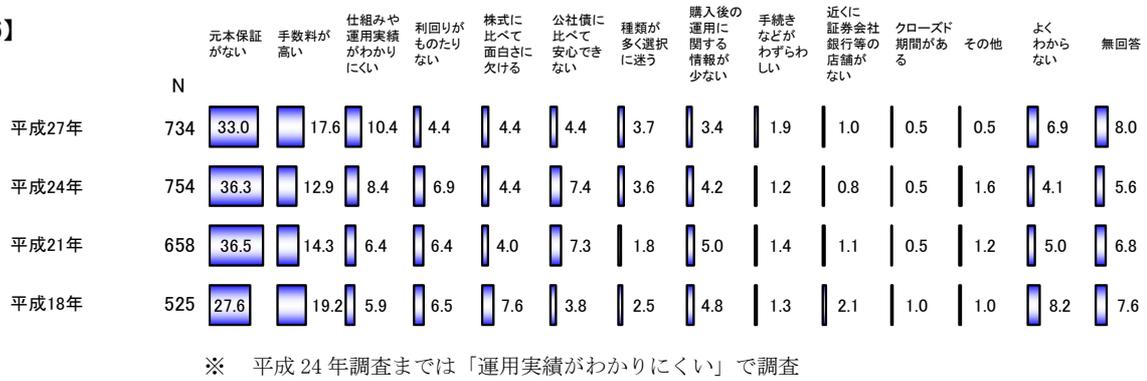


【図 5-55】



【図 5-56】

1つだけ



【図 5-57】

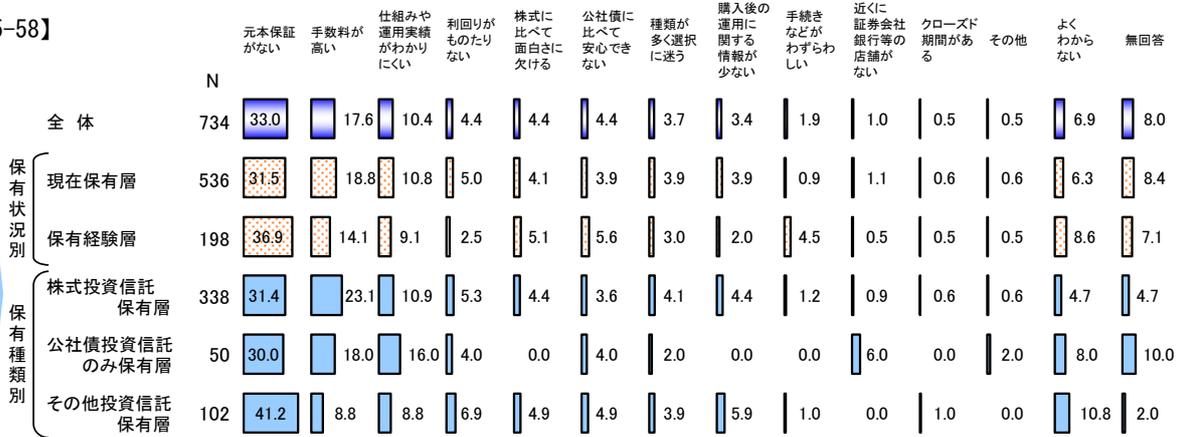
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。

1つだけ



【図 5-58】

1つだけ



(15) 投資信託購入(買い増し)に必要な条件〔問 27：重複回答〕

- 投信購入(買い増し)に必要な条件としては、「手数料の低い投信のラインナップの充実」(38.1%)が最も高く、次いで、「販売員によるアフターフォローの充実」と「商品設計(仕組み)がシンプルな投信のラインナップの充実」が同程度で並ぶ(順に24.3%、21.8%)。

男性は「手数料の低い投信のラインナップの充実」と「商品設計がシンプルな投信のラインナップの充実」が女性より高い。女性では「特にない・わからない」と「販売員によるアフターフォローの充実」が高い。

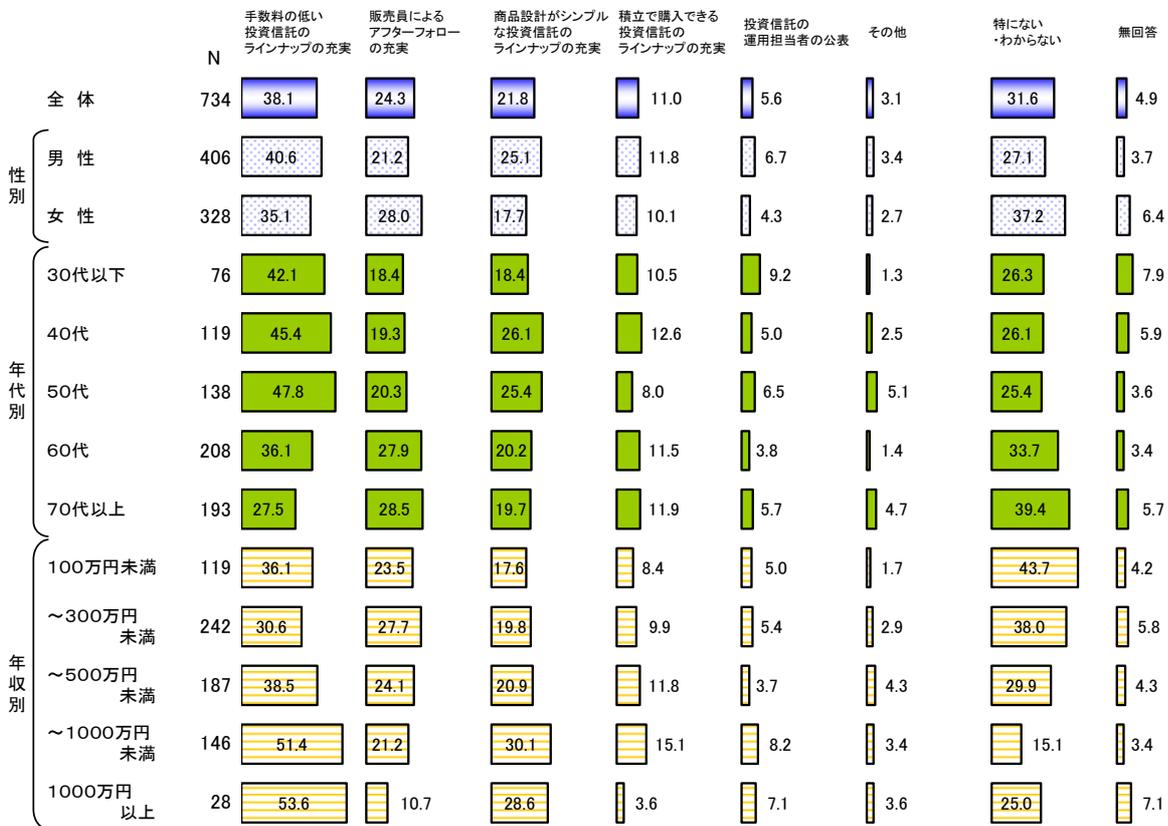
50代以下は「手数料の低い投信のラインナップの充実」が高く、「販売員によるアフターフォローの充実」は低い。「商品設計がシンプルな投信のラインナップの充実」は40～50代で高い。60代以上は「特にない・わからない」が高い。

年収「～1000万円未満」では、「手数料の低い投信のラインナップの充実」と「商品設計がシンプルな投信のラインナップの充実」が高い。「特にない・わからない」は年収層の低い層ほど高い。(図 5-59)

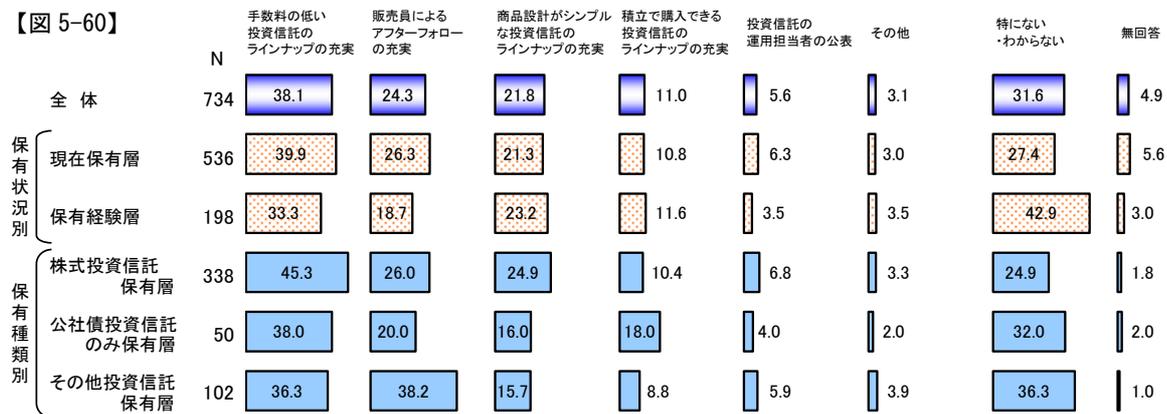
- 投信現在保有層は「手数料の低い投信のラインナップの充実」と「販売員によるアフターフォローの充実」が高い。保有経験層は「特にない・わからない」が半数近く(42.9%)を占める。

株式投信保有層は「手数料の低い投信のラインナップの充実」と「商品設計がシンプルな投信のラインナップの充実」が高い。(図 5-60)

【図 5-59】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 5-60】

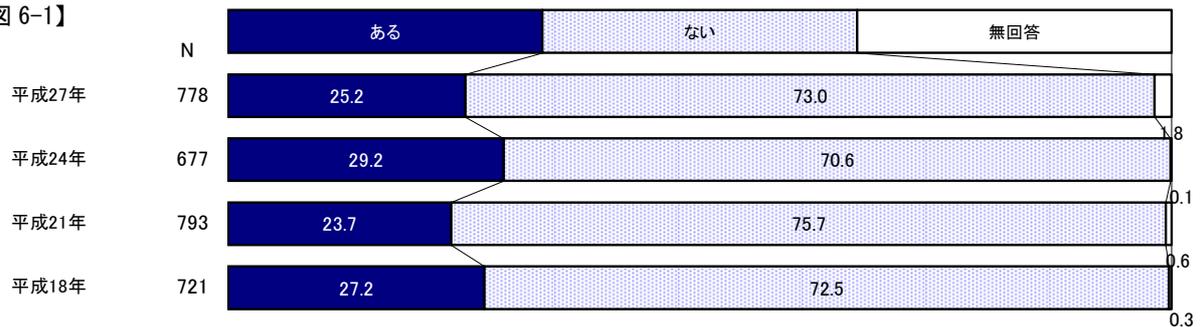


## 6. 投資信託保有未経験者の状況

### (1) 投資信託の購入意向経験〔問 28：単数回答〕

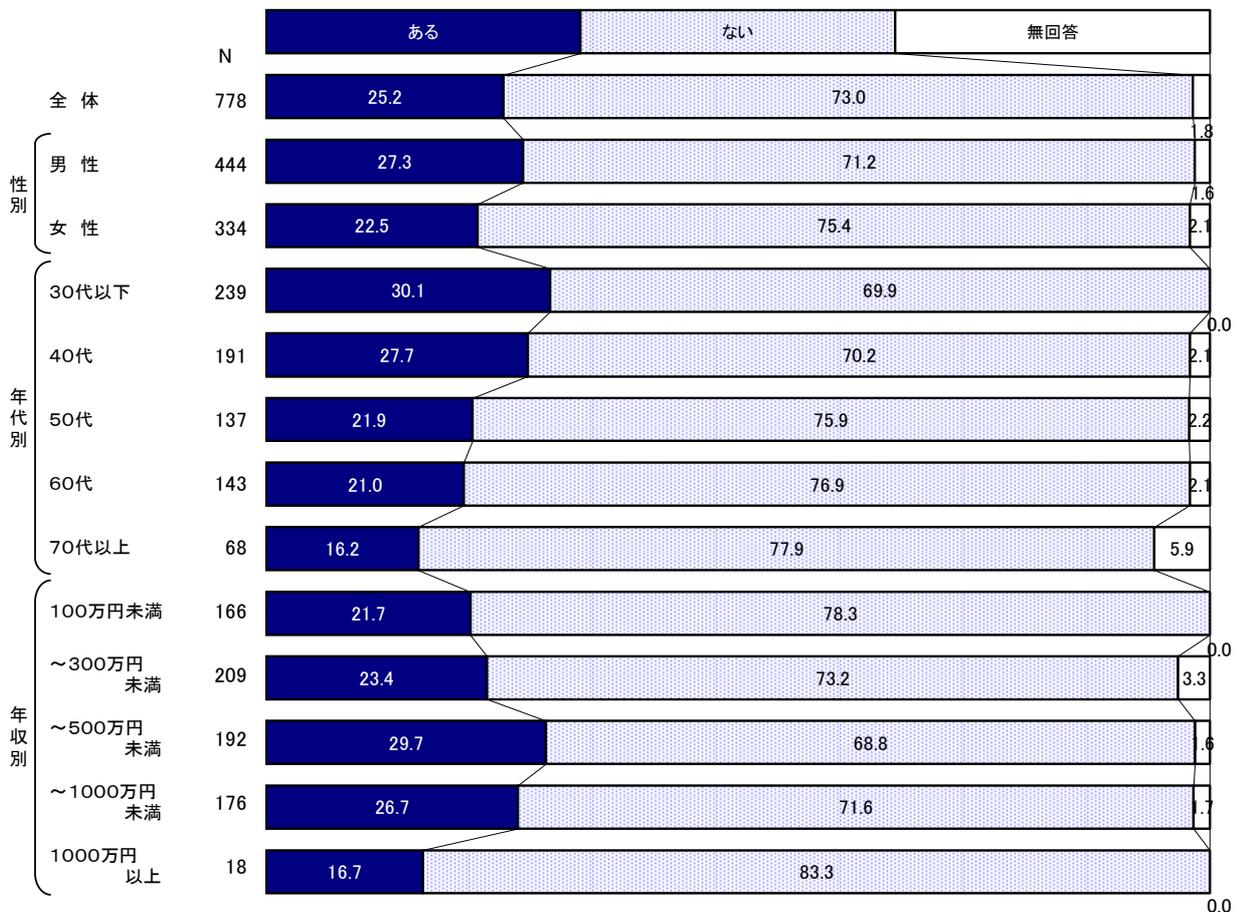
- これまでに投信を保有したことのない人に、投信を購入したいと思ったことがあるか尋ねたところ、「ある」は 25.2% だった。（図 6-1）
- 「ある」率は男性の方が高い。また、若年層ほど高い傾向がみられる。年収別では、「～500万円未満」の中間層が最も高い山型の分布となっている。（図 6-2）

【図 6-1】



【図 6-2】

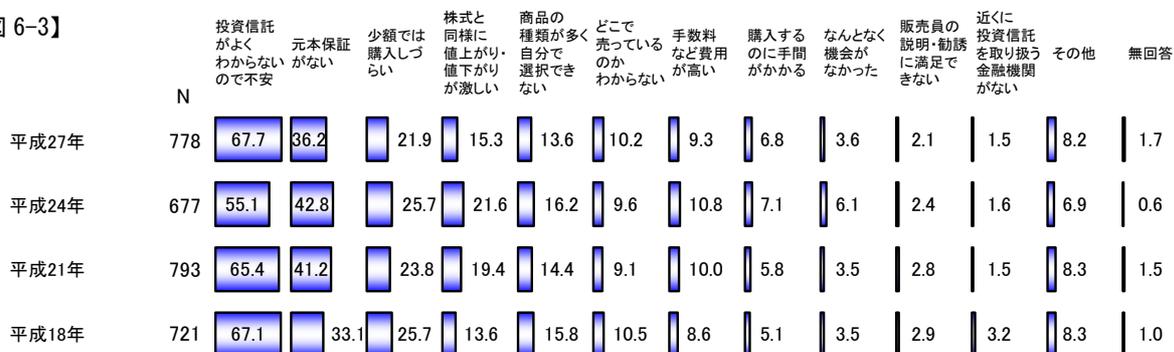
※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



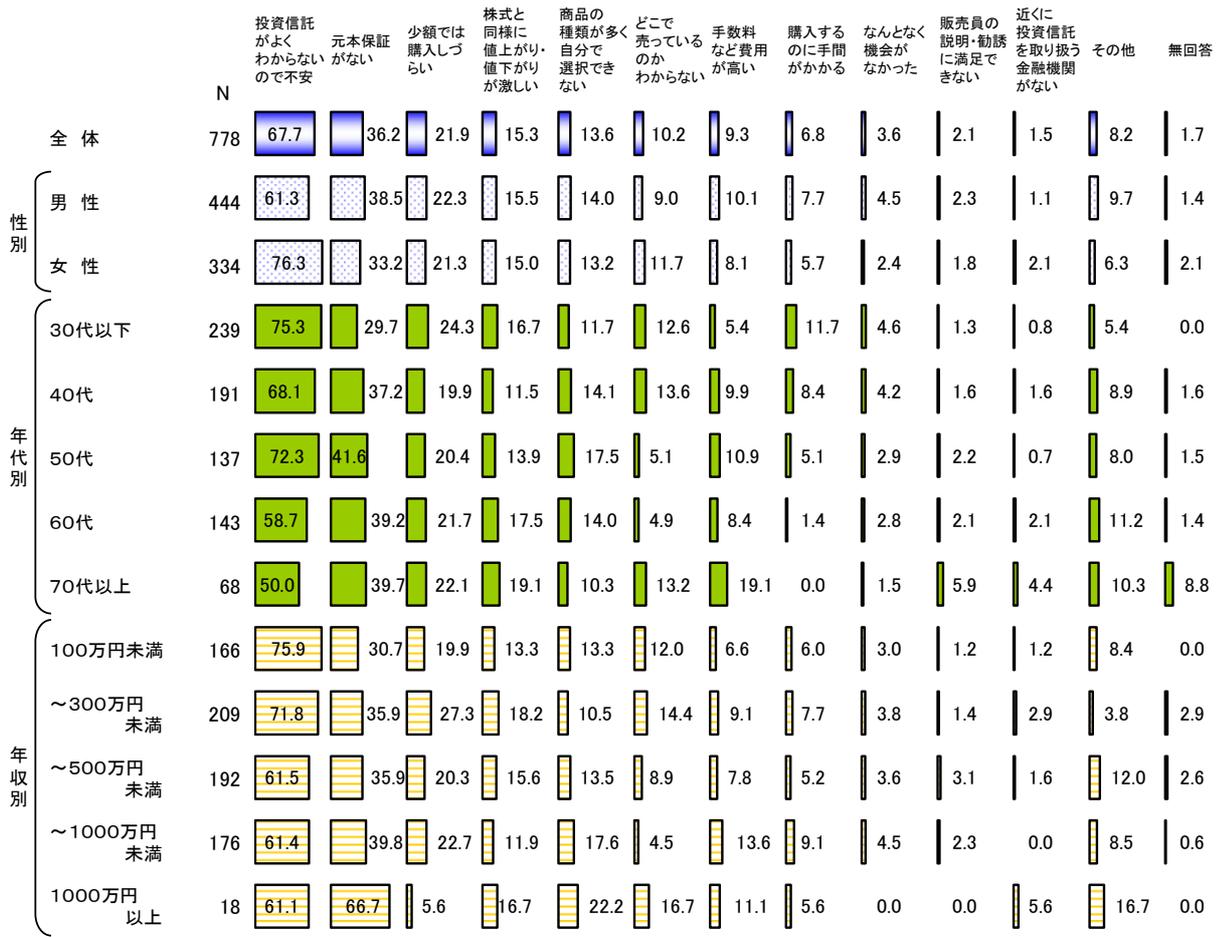
(2) 投資信託の非購入理由〔問 29：重複回答〕

- 投信保有未経験層が投信を購入しなかった理由は、「投信がよくわからないので不安」が 67.7%で特に高く、他の項目を大きく上回る。以下、「元本保証がない」(36.2%)、「少額では購入しづらい」(21.9%)の順に続く。  
「投信がよくわからないので不安」は減少傾向にあったが、今回は平成 24 年から 12.6 p 増加し、平成 18 年のレベルに戻った。「元本保証がない」と「株式同様に値上がり・値下がりが激しい」は平成 24 年までの増加傾向が減少に転じた。(図 6-3)
- 「投信がよくわからないので不安」は男性より女性が高く、年代では 50 代以下で高い。「元本保証がない」は 30 代以下では低い。70 代以上は「手数料など費用が高い」がやや高い。  
「投信がよくわからないので不安」は年収が低くなるほど高くなる傾向。(図 6-4)
- 購入意向層は、非購入意向層に比べて「投信がよくわからないので不安」はやや低い  
が、「少額では購入しづらい」、「商品の種類が多く自分で選択できない」は高い。(図 6-5)

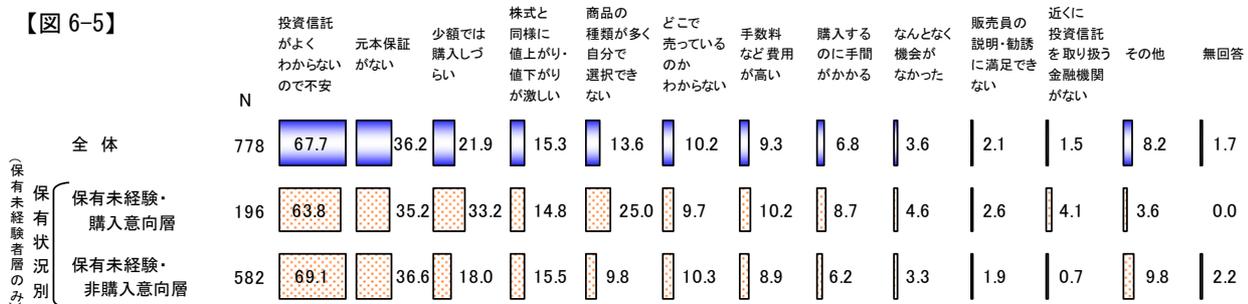
【図 6-3】



【図 6-4】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 6-5】



(3) 投資信託購入検討のきっかけ〔問 30：重複回答〕

- 投信保有未経験層に、購入を検討しそうなきっかけを尋ねると、「金融や投資を勉強して理解できたら」が 45.4% で最も高い。次いで、「手取り収入が増えたら」「初心者向けセミナーなど、仕組みをわかりやすく説明してもらえる機会があったら」「身近な人(家族・友人など)に勧められたら」が約 26% で並ぶ。

「金融や投資を勉強して理解できたら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」は平成 24 年から増加。一方、「今後、成長(値上がり)が期待できる投資対象があると思ったら」と「退職金・相続などの収入があったら」は減少。(図 6-6)

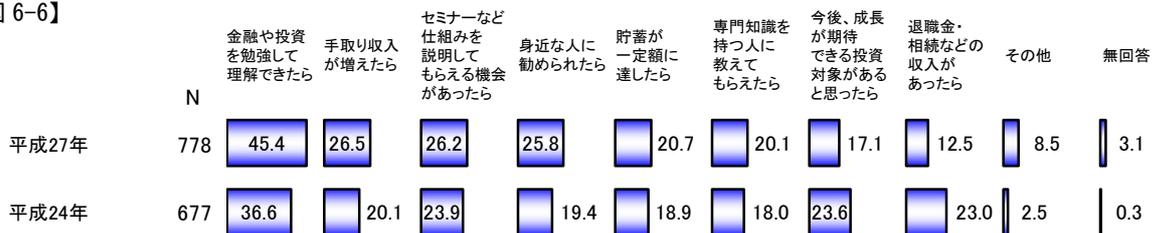
- 「貯蓄が一定額に達したら」は男性の方が高く、「身近な人に勧められたら」「退職金・相続などの収入があったら」は女性の方が高い。

「金融や投資を勉強して理解できたら」「手取り収入が増えたら」「身近な人に勧められたら」「貯蓄が一定額に達したら」は若年層ほど高い。「退職金・相続などの収入があったら」は 40～50 代で比較的高い。

年収「100 万円未満」では「身近な人に勧められたら」が他の年収層より高い。「手取り収入が増えたら」は「～300 万円未満」で最も高い山型になっている。(図 6-7)

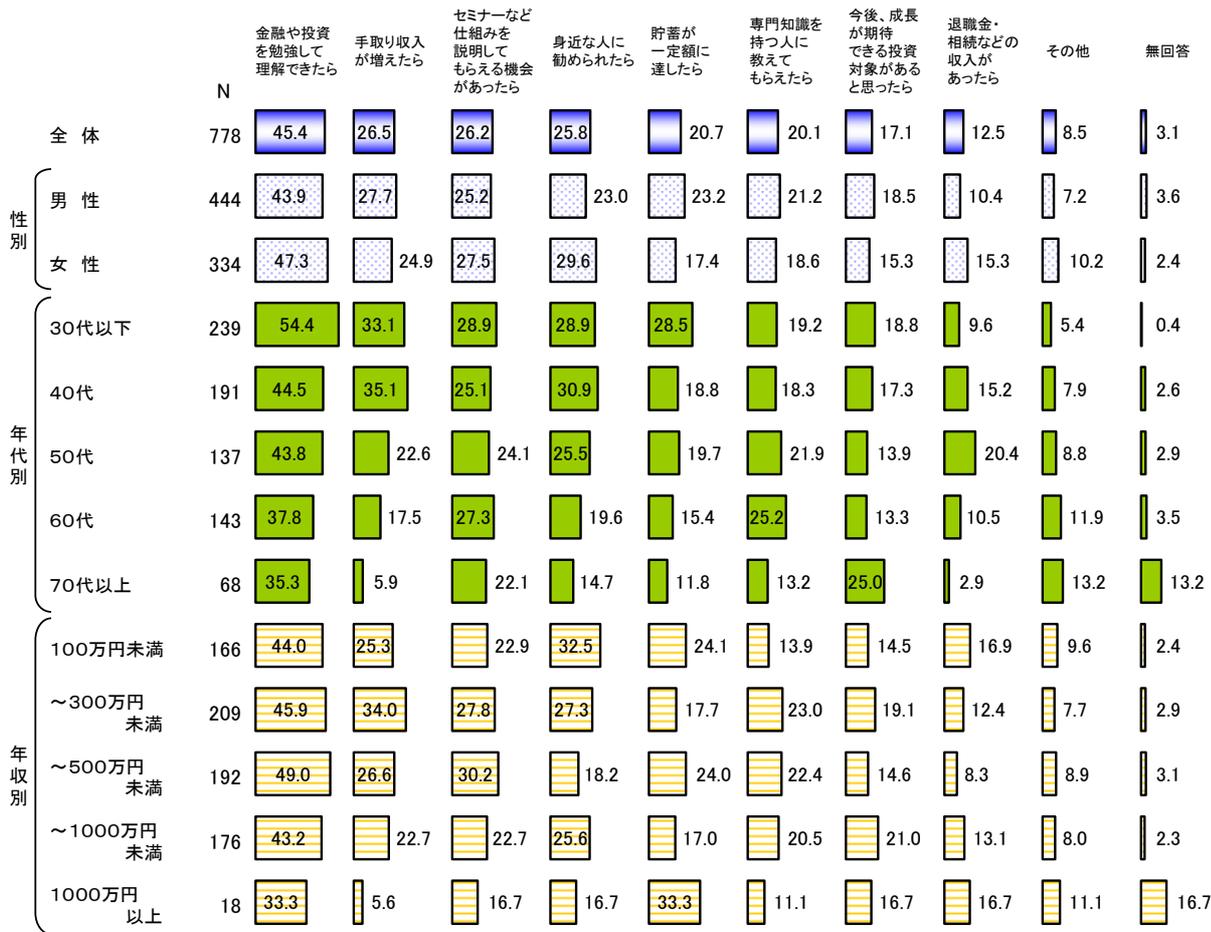
- 購入意向層は多くの項目で非購入意向層より高いが、中でも「初心者向けセミナーなど仕組みを説明してもらえる機会があったら」は購入意向層では 38.8% と、非購入意向層の 22.0% を大きく上回っている。(図 6-8)

【図 6-6】



※ 平成 24 年度調査では「購入を検討したいとは思わない」があったが平成 27 年調査より削除。

【図 6-7】 ※N数(サンプル数)が少ない項目については、データを見る際に注意が必要。



【図 6-8】

